



System i

プログラミング

TCP/IP Connectivity Utilities for i5/OS コマンド

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

TCP/IP Connectivity Utilities for i5/OS コマンド

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、191 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM TCP/IP Connectivity Utilities for i5/OS (プロダクト番号 5761-TC1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
TCP/IP Connectivity Utilities for i5/OS commands
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

SMTPLIST項目の追加 (ADDSMTPLIST)	1	TCP/IPファイル転送の開始 (FTP)	83
TCP/IP FTPの構成 (CFGTCPTFTP)	7	TCP/IP スプール・ファイルの送信 (LPR)	89
TCP/IP LPDの構成 (CFGTCPLPD)	9	SMTPLIST項目の除去 (RMVSMTPLIST)	99
TCP/IP REXECの構成 (CFGTCPRXC)	11	VTキーボード・マップの設定 (SETVTMAP)	103
TCP/IP SMTPの構成 (CFGTCPSMTP)	13	VTマッピング・テーブルの設定 (SETVTTBL)	113
TCP/IP TELNETの構成 (CFGTCPTELN)	15	TCP/IP スプール・ファイルの送信 (SNDTCPSPLF)	117
FTP属性の変更 (CHGFTPA)	17	TCP/IPファイル転送の開始 (STRTCPFTP)	127
LPD属性の変更 (CHGLPDA)	27	TCP/IP TELNET開始 (STRTCPTELN)	133
POPサーバー属性の変更 (CHGPOPA)	29	TCP/IP TELNET開始 (TELNET)	161
REXEC属性の変更 (CHGRXCA)	35	SMTPの名前の処理 (WRKNAMSMTP)	189
SMTP属性の変更 (CHGSMTPLIST)	39	付録. 特記事項	191
TELNET属性の変更 (CHGTELNA)	61		
VTキーボード・マップの変更 (CHGVMTMAP)	69		
SMTP名の変換 (CVTNAMSMTP)	79		
VTキーボード・マップの表示 (DSPVTMAP)	81		

SMTPリスト項目の追加 (ADDSMTPL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SMTPリスト項目追加(ADDSMTPL)コマンドは、SMTP構成リストに要素を追加するのに使用されます。これらのリストは、SMTP属性の変更(CHGSMTPA)コマンドを使用するか、あるいはSystem iナビゲーターのSMTPプロパティ・パネルから、使用可能または使用不可にすることができます。この変更が有効となるのは、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドによって、SMTPサーバーを次に開始した時点です。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TYPE	リスト・タイプ	*ACCEPT, *REJECT, *NEAR, *DOMAIN, *SVRBIND, *CLTBIND, *ETRNSVR, *FTRSUBJECT, *FTRORIGIN, *FTRFILNAME, *FTRTYPE, *HOSTAUTH	必須, 定位置 1
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, '255.255.255.255'	オプション
HOSTNAME	ホスト名	文字値	オプション
FTRDATA	データのフィルター操作	文字値	オプション
USERNAME	ユーザー名	文字値	オプション
PASSWORD	ユーザー・パスワード	文字値	オプション

上

リスト・タイプ (TYPE)

新しい要素の追加先リストを指定します。

*ACCEPT

中継受け入れリストが更新されます。System i5ナビゲーターの「SMTPプロパティ中継制限」ページで「中継メッセージの受け入れ」が選択されたときに、中継可能となるIPアドレスのリストをネットマスクとともに指定します。この値に有効なパラメーターはINTNETADRおよびSUBNETMASKです。

***REJECT**

IPアドレスとネットマスクを中継制限リストに追加します。これは、System i SMTPに接続しようとした場合に拒否するIPアドレスのリストとネットマスクです。この値に有効なパラメーターはINTNETADRおよびSUBNETMASKです。

***NEAR**

ドメインを近接ドメイン・リストに追加します。近接ドメイン・リストは、System iナビゲーターのSMTPプロパティの一般ページで「発信メールをファイアウォールを通してルーターに転送」が選択されたときに、ファイアウォールを通してメールを経路指定してはならないドメインのリストです。また、「これらのドメインについてだけメールを中継」が選択された時に、そのドメインが近接ドメイン・リストにある宛先のメールをSMTPが中継する必要があることを指定します。この値に有効なパラメーターはHOSTNAMEです。

***DOMAIN**

SMTPサーバーがバインドする各IPv4インターフェースと関連付けるドメインを指定します。この値に有効なパラメーターはHOSTNAMEおよびINTNETADRです。

***SVRBIND**

SMTPサーバーがバインドするIPv4インターフェースを指定します。この値に有効なパラメーターはINTNETADRです。

***CLTBIND**

クライアント・バインド・リストが更新されます。SMTPクライアントがバインドするIPv4インターフェースを指定します。この値に有効なパラメーターはINTNETADRです。

***ETRNSVR**

ETRNサーバー・リストが更新されます。サーバーがETRNコマンドを受け入れるホストのリストを指定します。この値に有効なパラメーターはHOSTNAMEです。

***FTRSUBJECT**

サブジェクト・フィルター・リストが更新されます。項目をサブジェクト比較リストに追加します。メールは、比較条件と一致すると、SMTPプロパティのフィルター・ページ上で指定された通りに廃棄または隔離されます。この値に有効なパラメーターはFTRDATAです。

***FTRORIGIN**

発信元フィルター・リストが更新されます。項目を発信元のアドレス比較リストに追加します。メールは、比較条件と一致すると、SMTPプロパティのフィルター・ページ上で指定された通りに廃棄または隔離されます。この値に有効なパラメーターはFTRDATAです。

***FTRFILENAME**

ファイル名フィルター・リストが更新されます。項目を「ファイル名／拡張比較」リストに追加します。メールは、比較条件と一致すると、SMTPプロパティのフィルター・ページ上で指定された通りに廃棄または隔離されます。この値に有効なパラメーターはFTRDATAです。

***FTRTYPE**

ファイル・タイプ・フィルター・リストが更新されます。項目をタイプ／サブタイプ比較リストに追加します。メールは、比較条件と一致すると、SMTPプロパティのフィルター・ページ上で指定された通りに廃棄または隔離されます。この値に有効なパラメーターはFTRDATAです。

***HOSTAUTH**

ホスト・ログオン情報が更新されます。指定されたホストを認証するために使用するユーザー名およびパスワードを追加します。情報は、base64を使用して暗号化してからデータベース・ファイル内に保管されます。この値に有効なパラメーターはHOSTNAME、USERNAME、およびPASSWORDです。USERNAMEおよびPASSWORDの値を使用して次のホストにログオンします。

*ACCEPTIP6

中継受け入れリストが更新されます。System i5ナビゲーターの「SMTPプロパティ-中継制限」ページで「中継メッセージの受け入れ」が選択された時に、中継可能となるIPv6アドレスまたは接頭部のリストを指定します。この値に有効なパラメーターはPREFIXIP6です。

*REJECTIP6

IPv6アドレスまたは接頭部を中継制限リストに追加します。これは、SMTPに接続しようとした場合に拒否するIPv6アドレスのリストと接頭部です。この値に有効なパラメーターはPREFIXIP6です。

*DOMAINIP6

SMTPサーバーがバインドする各IPv6インターフェースと関連付けるドメインを指定します。この値に有効なパラメーターはIP6NETADRおよびHOSTNAMEです。

*SVRBINDIP6

SMTPサーバーがバインドするIPv6インターフェースを指定します。この値に有効なパラメーターはIP6NETADRです。

*CLTBINDIP6

クライアント・バインド・リストが更新されます。SMTPクライアントがバインドするIPv6インターフェースを指定します。この値に有効なパラメーターはIP6NETADRです。

上

IPv4アドレス (INTNETADR)

指定されたリストに追加するIPv4インターネット・アドレスを指定します。このアドレスはドット付き10進形式でなければなりません。最大15桁まで指定することができます。

上

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

IPv4インターネット・アドレスで使用するマスクを指定します。

255.255.255.255

この値は単一アドレス値のみを選択します。

サブネット・マスク

IPv4インターネット・アドレスで使用するマスク。最大15桁まで指定することができます。有効なマスクの値は、128.0.0.0 - 255.255.255.255です。

上

ホスト名 (HOSTNAME)

リストに追加するホスト名を指定します。最大255文字を指定することができます。

上

データのフィルター操作 (FTRDATA)

フィルター操作で突き合わせるデータを指定します。最大512桁まで指定することができます。

上

ユーザー名 (USERNAME)

SMTPサーバーにログオンするために使用するIDを指定します。最大80桁まで指定することができます。

有効な文字は大／小文字の区別があり、英数字(aからz, AからZ,および0から9)のすべてと以下の特殊文字を含みます。

ピリオド(.),
コンマ(,),
感嘆符(!),
番号記号(#),
ドル記号(円記号)(¥),
パーセント記号(%),
アンパーサンド(&),
アスタリスク(*),
正符号(+),
ハイフン(-),
スラッシュ(/),
コロンの(:),
セミコロン(;),
等号(=),
単価記号(@),
疑問符(?),
下線(_),
波形記号,
曲折アクセント記号

上

ユーザー・パスワード (PASSWORD)

SMTPサーバーにログオンするためのユーザー名に対応するパスワードを指定します。パスワードを変更する必要がある場合は、まずRMVSMTPL TYPE(*HOSTAUTH) CLコマンドを発行して、指定したホスト名を除去します。その後ADDSMTPL TYPE(*HOSTAUTH)を実行してホスト名を追加します。最大128桁まで指定することができます。

有効な文字は大／小文字の区別があり、英数字(aからz, AからZ,および0から9)のすべてと以下の特殊文字を含みます。

ピリオド(.),
コンマ(,),
感嘆符(!),
番号記号(#),
ドル記号(円記号)(¥),
パーセント記号(%),
アンパーサンド(&),
アスタリスク(*),
正符号(+),
ハイフン(-),
スラッシュ(/),
コロンの(:),
セミコロン(;),
等号(=),

単価記号(@),
疑問符(?),
下線(_),
波形記号,
曲折アクセント記号

上

例

例1:中継受け入れリストへのIPv4要素の追加

```
ADDSMTPLD TYPE(*ACCEPT) INTNETADR('1.2.3.4')
```

このコマンドは、アドレス1.2.3.4を中継受け入れリストに追加します。想定されるマスクは、255.255.255.255です。これは、他のサーバーへのメールを中継するために、このアドレスを使用してSMTPサーバーに接続できることを意味します。

例2:サブジェクト・フィルター・リストへの要素の追加

```
ADDSMTPLD TYPE(*FTRSUBJECT) FTRDATA('LOVE YOU.')
```

このコマンドは、サブジェクト・フィルター・リストに要素を追加します。サブジェクト「LOVE YOU.」と完全に一致するメールはすべて、CHGSMTPA属性で指定されたようにフィルター操作されます。

例3:ホスト認証リストへの要素の追加

```
ADDSMTPLD TYPE(*HOSTAUTH) HOSTNAME('xyz.com')  
            USERNAME(admin) PASSWORD(secret)
```

このコマンドは、ホスト・ログオン・リストに要素を追加します。SMTPサーバーはホスト'xyz.com'にログオンできるようになります。

例4:中継受け入れリストへのIPv6要素の追加

```
ADDSMTPLD TYPE(*ACCEPTIP6) IP6PFX('2001:DB8::1')
```

このコマンドは、IPv6アドレス2001:DB8::1を中継受け入れリストに追加します。

例5:中継受け入れリストへのIPv6接頭部要素の追加

```
ADDSMTPLD TYPE(*ACCEPTIP6) IP6PFX('2001:DB8::/32')
```

このコマンドは、IPv6接頭部2001:DB8::32を中継受け入れリストに追加します。

例6:サーバー・バインド・リストへのIPv6アドレス要素の追加

```
ADDSMTPLD TYPE(*SVRBINDIP6) IP6NETADR('2001:DB8::1')
```

このコマンドは、IPv6アドレス2001:DB8::1をサーバー・バインド・リストに追加します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP1903

指定されたホスト名が正しくない。

TCP96B7

USERNAME値が無効です。

TCP96B8

指定されたリスト・タイプにはUSERNAME値が必要です。

TCP96B9

指定されたリスト・タイプにはPASSWORD値が必要です。

TCP96BA

指定されたリスト・タイプにはPASSWORD値は許可されません。

TCP96BB

指定されたリスト・タイプにはUSERNAME値は許可されません。

TCP96BC

PASSWORD値が無効です。

TCP264F

SUBNETMASKパラメーターの値&2が正しくない。

TCP265F

INTNETADRパラメーターの値&2が正しくない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP96AE

SMTPリスト・タイプに重複項目が見つかった。&1.

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

上

TCP/IP FTPの構成 (CFGTCPFTP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP FTP構成(CFGTCPFTP)コマンドは、ファイル転送プロトコル(FTP)と関連した属性の構成のため、およびその他のFTP関連構成コマンドの実行のために1つのインターフェースを提供します。

このコマンドにはパラメーターはありません。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

CFGTCPFTP

このコマンドは、「TCP/IP FTP構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

TCP/IP LPDの構成 (CFGTCPLPD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

TCP/IP LPD構成(CFGTCPLPD)コマンドは、ライン・プリンター・デーモン(LPD) と関連した属性の構成のため、およびその他のLPD関連構成コマンドの実行のために1つのインターフェースを提供します。

このコマンドにはパラメーターはありません。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

CFGTCPLPD

このコマンドは、「TCP/IP LPD構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

TCP/IP REXECの構成 (CFGTCPRXC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

TCP/IP REXEC構成(CFGTCPRXC)コマンドは、リモート実行(REXEC)サーバーに関連する属性の構成およびその他のREXEC関連構成コマンドの実行に、単一インターフェースを提供します。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

TCP/IP SMTPの構成 (CFGTCPSMTP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP SMTP構成(CFGTCPSMTP)コマンドは、SIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)の構成のためのインターフェースを提供します。構成できるSMTPパラメーターおよびSMTP SNADS関連構成パラメーターは、このインターフェースから定義することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

CFGTCPSMTP

このコマンドは、「TCP/IP SMTP構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

TCP/IP TELNETの構成 (CFGTCPTELN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

TCP/IP TELNETの構成(CFGTCPTELN)コマンドは、TELNET関連属性を構成し、その他のTELNET関連構成コマンドを実行するための1つのインターフェースを提供します。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

CFGTCPTELN

このコマンドは、「TCP/IP TELNET構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

FTP属性の変更 (CHGFTPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

FTP属性変更(CHGFTPA)コマンドは、ファイル転送プロトコル(FTP)サーバーの属性を変更します。FTP属性は、FTPサーバーが活動状態の時に変更することができます。変更された属性は、次にFTPサーバーの接続が行なわれた時に有効となります。既存の接続はなにも変更されず、接続が確立された時にもっていた同じ属性が保存されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOSTART	自動開始サーバー	*SAME, *YES, *NO	オプション、位置 1
NBRSVR	初期サーバー数	1-20, *SAME, *DFT	オプション
INACTTIMO	非活動タイムアウト	0-2147483647, *SAME, *DFT	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *SAME, *DFT	オプション
TBLFTPOUT	発信EBCDIC/ASCIIテーブル	単一値: *SAME, *CCSID, *DFT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 発信EBCDIC/ASCII テーブル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 発信 EBCDIC/ASCIIテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBLFTPIN	受信ASCII/EBCDICテーブル	単一値: *SAME, *CCSID, *DFT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 受信ASCII/EBCDIC テーブル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 受信 ASCII/EBCDICテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
NAMEFMT	初期名の形式	*SAME, *LIB, *PATH	オプション
CURDIR	初期ディレクトリー	*SAME, *CURLIB, *HOMEDIR	オプション
LISTFMT	初期リストの形式	*SAME, *DFT, *UNIX	オプション
CRTCCSID	新規ファイルCCSID	1-65533, *SAME, *CALC, *USER, *SYSVAL	オプション
SBSD	サブシステム記述	単一値: *SAME, *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

キーワード	記述	選択項目	注
ALWSSL	SECURE SOCKETS LAYER 許可	*SAME, *YES, *NO, *ONLY	オプション

トップ

自動開始サーバー (AUTOSTART)

SERVER(*AUTOSTART)を指定したTCP/IPサーバー開始(STRTCP)コマンド、またはTCP/IP開始(STRTCP)コマンドの実行によってTCP/IPが開始された時に、FTPサーバーを自動的に開始するかどうかを指定します。FTPがSTRTCPコマンドを実行することによって開始され、SERVER(*AUTOSTART)が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されて定義された数のサーバーがこのパラメーターの値とは関係なく開始されます。

*SAME

前に設定された自動開始値は変更されません。そうでない場合には、*YESが使用されます。

***YES** NBRSVRパラメーターに定義された数のサーバーを開始します。

***NO** STRTCPコマンドが呼び出されたときに、NBRSVRパラメーターに定義された数のサーバーを開始しません。

トップ

初期サーバー数 (NBRSVR)

TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー開始(STRTCP)コマンドのいずれかによってFTPが開始された時に、最初に開始するFTPサーバーの数を指定します。開始する初期サーバー数の値は出荷時には3になっています。指定できる最大サーバー数は20です。

短期間の間に複数のユーザーがサーバーに接続しようとする時には、複数のFTPサーバー・ジョブを実行することによって、セッション開始のパフォーマンスを向上することができます。

*SAME

前に設定されたサーバーの数は変更されません。

***DFT** サーバーの数が省略時の値3に設定されます。

1-20 開始するFTPサーバーの数を指定します。

いったんFTPサーバーが開始されると、ユーザーはサーバーの数を増やしたり、減らすことができます。CHGFTPコマンドでサーバー数を増やすよう要求した場合には、次回にそのサーバーにFTP接続が行われた時に現行サーバーの数が増やされます。サーバー数を減らすよう要求した場合には、次回にSTRTCPまたはSTRTCP)コマンドを実行するまで、その要求は影響しません。

トップ

非活動タイムアウト (INACTTIMO)

FTP制御およびデータ接続を終了する前に、システムがこれを非活動のままにできる秒数を指定します。FTP接続が指定された時間の長さより長く非活動になった場合には、これは終了されます。

注:

1. システムはさらに1 - 120秒間待機して、終了する場合があります。
2. この時間が経過するとクライアント・セッションは終了しますが、サーバー・ジョブは活動状態のままです。指定された期間は、クライアント・セッションがSystem i FTPサーバーとの対話なしで実行する時間に関係があります。クライアントでローカルFTP サブコマンドを出して、指定した時間にわたってサーバーと対話しない場合も、FTPサーバーはセッションを閉じます。

このパラメーターを使用するのはFTPサーバーだけです。FTPクライアントがこれを使用することはありません。

***SAME**

タイムアウト値が前に設定されていない場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、0秒が使用されます。

***DFT** タイムアウト値は省略時の値の300秒（5分）に設定されます。

0-2147483647

非活動タイムアウト期間を秒数で指定します。0の値は、タイムアウトがないことを表します。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

FTP TYPEモードがASCIIに設定される時に、1バイト文字セット (SBCS) ASCII ファイル転送で使用されるASCIIコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。また、TYPEサブコマンドが出されない場合には、ASCIIファイル転送と見なされます。選択されるCCSID値は、ASCII-EBCDICおよびEBCDIC-ASCIIマッピングのFTPサーバーによって使用される省略時の値です。マッピングは、ジョブに指定されたASCII CCSIDおよびEBCDIC CCSIDを使用して判別されます。

発信および着信マッピングは、**発信EBCDIC/ASCIIテーブル (TBLFTPOUT)**および**受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLFTPIN)**パラメーターに指定されたマッピング・テーブルで任意に実行することができます。通常、TBLFTPOUT およびTBLFTPINパラメーターは、省略時の値の*CCSIDまたは*DFTに設定され、この両方のパラメーターは、CCSIDパラメーターで使用される値がマッピングで使用されることを示します。

注: IBMでは、V3R1以前のリリースと互換性を持たせるために、FTPにマッピング・サポートが組み込まれています。着信TYPE Aファイル転送にマッピング・テーブルを使用すると、ターゲット・ファイルの作成が必要な場合に、CCSIDタグが失われる結果となります。IBMでは、通常操作にはCCSIDサポートを使用することを強くお勧めします。

マッピング・テーブルが発信マッピングに使用される場合には、テーブル・オブジェクトをTBLFTPOUTパラメーターに指定することができます。その後で、CCSID値の代わりに、このテーブル・オブジェクトが発信マッピングに使用されます。

TBLFTPINパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することによって、同じ方法でマッピング・テーブルを使用するために、着信マッピングを変更することができます。このマッピング・テーブルは、指定されたCCSID値を一時変更して、着信マッピングに使用されます。

このパラメーターには、2バイト文字セット(DBCS) CCSID値は許されません。DBCS CCSIDの値は、TYPE サブコマンドを使用して指定することができます。

***SAME**

前に設定されたCCSID値は変更されません。そうでない場合には、00819 (ISO 8859-1 8ビット ASCII)が使用されます。

***DFT** CCSID値は00819 (ISO 8859-1 8ビットASCII)です。

I-65533

使用するCCSID値を指定してください。有効なSBCS CCSIDが要求されたことを確認するために、この値の妥当性検査が行われます。

トップ

発信EBCDIC/ASCIIテーブル (TBLFTPOUT)

FTPのすべての発信サーバー・データをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。発信サーバー・データはEBCDICからASCIIにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLFTPOUTパラメーターに指定された場合には、そのテーブル・オブジェクトが発信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して発信マッピングが判別されます。

単一値

***SAME**

TBLFTPOUTの値が前に設定されていた場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*CCSIDが使用されます。

***CCSID**

発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 発信FTPサーバー・データのマッピングに使用されるテーブル・オブジェクト名を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

トップ

受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLFTPIN)

FTPのすべての着信サーバー・データをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。着信サーバー・データはASCIIからEBCDICにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLFTPINパラメーターに指定されている場合には、そのテーブル・オブジェクトが着信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSID パラメーターを使用して着信マッピングが判別されます。

単一値

*SAME

TBLFTPINの値が前に設定されていた場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*CCSIDが使用されます。

*CCSID

着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 受信ASCII/EBCDICテーブル

名前 着信FTPサーバー・データのマッピングに使用されるテーブル・オブジェクト名を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

初期名の形式 (NAMEFMT)

FTPサーバーとの間で確立された新しいそれぞれのセッションに対してNAMEFMT (ファイル命名形式) の初期設定値を指定します。

*SAME

前に設定されている初期名の形式は変更されません。設定されていない場合には*LIBが使用されます。

***LIB** LIBRARY/FILE.MEMBERの命名形式が使用されます。これは、FTPサーバーにSITE NAMEFMT 0のサブコマンドを指定したのと同じです。

*PATH

ファイルにパスの命名規則が使用されます。この設定値は、FTPサーバーにSITE NAMEFMT 1のサブコマンドを指定したのと同じです。

[トップ](#)

初期ディレクトリー (CURDIR)

System i FTPサーバーにログオンしたときに確立される初期現行作業ディレクトリーを指定します。

*SAME

前に設定されている初期ディレクトリーは変更されません。設定されていない場合には*CURLIBが使用されます。

*CURLIB

FTPサーバーは、現行作業ディレクトリーの設定値をFTPサーバーにログインしたユーザーのユーザー・プロファイルに指定されている現行ライブラリーに初期設定します。

*HOMEDIR

FTPサーバーは、現行作業ディレクトリーの設定値をFTPサーバーにログインしたユーザーのユーザー・プロファイルに指定されているホーム・ディレクトリーに初期設定します。

注: CURDIR(*HOMEDIR)をNAMEFMT(*LIB)と一緒に使用することはできません。

[トップ](#)

初期リストの形式 (LISTFMT)

FTPサーバーとの間で確立された新しいそれぞれのセッションに対してLISTFMT (ファイル・リスト形式)の初期設定値を指定します。

*SAME

前に設定されている初期リスト形式は変更されません。設定されていない場合には*DFTが使用されます。

***DFT** System iリスト形式が使用されます。この設定は、System i FTPサーバーに対してSITE LISTFMT 0サブコマンドを指定したのと同じです。

*UNIX

UNIXリスト形式が使用されます。この設定は、System i FTPサーバーに対してSITE LISTFMT 1サブコマンドを指定したのと同じです。

[トップ](#)

新規ファイルCCSID (CRTCCSID)

ASCIIファイル転送用のライブラリーに新しいデータベース・ファイルを作成するときに使用するEBCDICコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

*SAME

前に設定された新しいファイルのCCSID値は変更されません。そうでない場合には、*CALCが使用されます。

*CALC

ASCIIファイルの転送中に作成された新しいデータベース・ファイルはASCII行のCCSIDの省略時の関連EBCDIC CCSIDを使用します。

*USER

ASCIIファイルの転送中に作成された新しいデータベース・ファイルは、FTPサーバーにログインし

たユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたCCSIDを使用するか、またはこのCCSIDが65535の場合には、ユーザー・プロファイルに指定された言語IDにより決定される省略時のCCSIDを使用します。

***SYSVAL**

ASCIIファイルの転送中に作成された新しいデータベース・ファイルはQCCSIDシステム値で指定されたCCSIDを使用します。

I-65533

ASCIIファイルの転送中、新しいデータベース・ファイルを作成するときに使用するCCSIDを指定してください。この値は、有効なEBCDIC CCSIDが入力されたことを確認するために妥当性検査されます。

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

FTPサーバー・ジョブが実行されるサブシステムのサブシステム記述を指定します。指定されたサブシステム記述が存在しない場合には、それが作成されます。

注:

1. 指定されたサブシステムと同じ名前のサブシステムがすでに活動状態であるかどうかを確認するための検査が行われます。同じ名前の活動状態のサブシステムがあるが、異なるライブラリーからのサブシステム記述を使用している場合には、CHGFTPコマンドは失敗し、メッセージTCP3D28が出されます。
2. IBM提供のQSYSWRKサブシステム以外のサブシステム記述が指定された場合には、同じ名前のジョブ待ち行列も指定されたサブシステム記述と同じライブラリーに作成されます。このジョブ待ち行列は、FTPサーバー・ジョブを投入するために使用されます。(IBM提供のQSYSWRKサブシステムが指定されると、FTPサーバー・ジョブは、ライブラリーQSYS中のジョブ待ち行列QSYSNOMAXに投入されません。)

単一値

***SAME**

サブシステム記述値が前に設定されていた場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*DFTが使用されます。

***DFT** FTPサーバー・ジョブは、ライブラリーQSYS中のサブシステムQSYSWRKで実行されます。

修飾子1: サブシステム記述

名前 FTPサーバー・ジョブが実行されるサブシステム記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

トップ

SECURE SOCKETS LAYER許可 (ALWSSL)

FTPサーバーがSECURE SOCKET LAYER (SSL)サポートを使用するかどうかを指定します。SSLは、FTPデータ・ストリーム（パスワードを含む）の暗号化を提供し、任意にFTPクライアントの証明書基本の認証（ユーザーがパスワードではなく証明書によって認証されるようにするもの）をサポートします。

*SAME

前に設定されているSECURE SOCKET LAYER使用可能値は変更されません。そうでない場合には、*YESが使用されます。

***YES** System i FTPサーバーは、非SSL FTPセッションを受け入れます。SSLサポートを使用できるようにするために必要な前提条件プロダクトが導入されていて、有効なFTPサーバー証明書がデジタル証明書マネージャーで構成されている場合には、SSLセッションも使用可能です。

注:ALWSSL(*YES)が指定され、必要なFTPクライアント認証用にデジタル証明書マネージャーが構成されている場合には、非SSLセッションがFTPサーバーによって受け入れられます。しかし、System i FTPサーバーにログインするには、非匿名FTPユーザーはSSLモードに切り替えなければなりません。

***NO** System i FTPサーバーは、非SSL FTPセッションのみを受け入れます。

*ONLY

匿名FTPユーザーを除いて、System i FTPサーバーは、SSL FTPセッションからのみのログインを許可します。

注: ALWSSL(*ONLY)が指定され、SSLに必要な前提条件プロダクトが導入されていないか、有効なFTPサーバー証明書がデジタル証明書マネージャーで構成されていない場合には、FTPサーバーは開始されません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP261D

処理は正常に完了していない。

TCP264D

ファイルの処理中にエラーが起こった。

TCP3D28

活動中のサブシステム&1はライブラリー&2からではない。

TCP499A

構成メンバーにアクセス中にエラー。

TCP499B

&2で&1を使用できない。

TCP499D

CRTCCSIDパラメーター値&1が正しくない。

TCP499E

CRTCCSIDパラメーター値&1が見つからない。

TCP4993

CCSIDパラメーター値&1が正しくない。

TCP4994

CCSIDパラメーター値&1が見つからない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9503

ライブラリー&2のファイル&3が使用できない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

LPD属性の変更 (CHGLPDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LPD属性変更(CHGLPDA)コマンドは、ライン・プリンター・デーモン(LPD)パラメーターを構成するために1つのインターフェースを提供します。このコマンドで行なった変更は、LPDサーバーを次に開始した時に有効となります。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプションル、位置 1
NBRSVR	初期サーバー数	1-20, <u>*SAME</u> , *DFT	オプションル

[トップ](#)

自動開始サーバー (AUTOSTART)

SERVER(*AUTOSTART)を指定したTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンド、またはTCP/IP開始(STRTCP)コマンドの実行によってTCP/IPが開始された時に、LPDサーバーを自動的に開始するかどうかを指定します。LPDがSTRTCPSVRコマンドの実行によって開始され、SERVER(*AUTOSTART)が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されて定義された数の初期サーバーがこのパラメーターの値とは関係なく開始されます。

*SAME

前に設定された自動開始値は変更されません。

***YES** NBRSVRパラメーターに定義された数のサーバーを開始します。

***NO** STRTCPコマンドが呼び出されたときに、NBRSVRパラメーターに定義された数のサーバーを開始しません。

[トップ](#)

初期サーバー数 (NBRSVR)

LPDがSTRTCPコマンドまたはSTRTCPSVRコマンドのいずれかによって開始された時に、最初に開始するLPDサーバーの数を指定します。初期サーバー数は2です。

STRTCPコマンドは、CHGLPDAコマンドに指定されたすべてのサーバーを開始します。STRTCPVSRコマンドは、現在実行中のサーバーの数に関係なく1つだけのLPDサーバーを開始します。

LPDは、2つ以上のサーバーが実行中の時に最も効率的に作業します。1つだけのサーバーが作業を実行している場合には、現行ジョブが実行している間、ジョブを受け取ることができません。大量の印刷ジョブを実行している場合には、新しいジョブは、LPD が新しいLPR要求を受け入れ可能になるまで待機しなければなりません。

***SAME**

前に設定されたサーバーの数は変更されません。

***DFT** サーバーの数が省略時の値2に設定されます。

サーバー数

次回にLPDサーバーが開始された時には、このパラメーターで要求されたサーバー数が開始されます。サーバー数の有効な値の範囲は1から20です。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

トップ

POPサーバー属性の変更 (CHGPOPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

POPメール・サーバー属性の変更(CHGPOPA)コマンドは、POST OFFICE PROTOCOL (POP)バージョン3のメール・サーバー属性を変更するために使用されます。この変更が有効となるのは、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドによって、POP3サーバーを次に開始した時点です。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注	
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, *SAME	オプション、位置 1	
NBRSVR	初期サーバー数	1-20, *SAME, *DFT	オプション	
INACTTIMO	非活動タイムアウト	10-65535, *SAME, *DFT	オプション	
MSGSPPLIT	メッセージ分割サイズ	32-2048, *SAME, *DFT, *NOMAX	オプション	
MIMECCSID	MIME CCSID	要素リスト	オプション	
	要素 1: コード化文字セット ID	*SAME, *DFT, 819, 912, 915, 1089, 813, 916, 920, 5052, 367, 923		
	要素 2: 使用の時点	*SAME, *BESTFIT, *ALWAYS		
ALWSSL	SECURE SOCKETS LAYER 許可	*SAME, *YES, *NO, *ONLY	オプション	

トップ

自動開始サーバー (AUTOSTART)

SERVER(*AUTOSTART)を指定したTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンド、またはTCP/IP開始(STRTCP) コマンドの実行によってTCP/IPが開始された時に、POPメール・サーバーを自動的に開始するかどうかを指定します。POPメール・サーバーがSTRTCPSVRコマンドを実行することによって開始され、SERVER(*AUTOSTART)が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されてPOPメール・サーバーがこのパラメーターの値とは関係なく開始されます。STRTCPSVR *POPが指定されて、POPサーバーがすでに開始されている場合には、追加のサーバー・ジョブが開始されます。

*SAME

AUTOSTART値が前に設定されている場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***NO** POPメール・サーバー・ジョブを自動的に開始しません。POPメール・サーバーを使用する予定がない場合には、AUTOSTARTを*NOに設定してください。

***YES** 初期サーバー数 (NBRSVR)パラメーターに指定された数のサーバー・ジョブを開始します。

トップ

初期サーバー数 (NBRSVR)

TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドのいずれかによってPOPを開始する時に、開始するPOPメール・サーバー・ジョブの数を指定します。これらのジョブ数によって、新しいジョブの開始と関連したオーバーヘッドで待機することなく、新しいクライアントがサーバーに接続できます。接続されたクライアントの数が変わる時に、サーバーは、新しいクライアントへの接続のために少なくともこの数のジョブを使用可能に維持しようとします。これで、POPメール・サーバーのパフォーマンスの改善が計られ、クライアントが接続する度のシステムのオーバーヘッドが軽減されます。

*SAME

サーバー・ジョブの数は前に設定されていれば変更されません。設定されていない場合には3が使用されます。

***DFT** サーバー・ジョブの数は、省略時の値の3に設定されます。

1-20 開始するサーバー・ジョブの数を指定します。

トップ

非活動タイムアウト (INACTTIMO)

クライアントが通信を停止したものとサーバーが見なして、クライアントから切り離す前に、クライアントとサーバーの間で非活動となる秒数を指定します。これが起こった場合には、メールが失われないようにするために、サーバーはユーザーのメール・ボックス内のメールを削除しません。

*SAME

非活動タイムアウト値は前に設定されていれば変更されません。設定されていない場合には600秒(10分)が使用されます。

***DFT** 非活動タイムアウト値は、省略時の600秒(10分)に設定されます。

10-65535

非活動タイムアウト値に使用する秒数を指定します。

トップ

メッセージ分割サイズ (MSGSPPLIT)

メール・メッセージがこのキロバイト数を越えた時に、部分的メッセージ・ブロックに使用されるキロバイト数を指定します。これは、リモート・メールの配布の場合にだけ使用されます。これはネットワーク・パラメーターであり、ユーザーが接続しているネットワーク・ゲートウェイの容量によって決定されます。このパラメーターの変更は即時有効となり、POPサーバーを再始動する必要はありません。

*SAME

この値が前に設定されていた場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*NOMAXが使用されます。

*NOMAX

メッセージの分割を使用不可にし、データは1つのメッセージとして送られます。

*DFT メッセージの分割サイズは、省略時の値の*NOMAXに設定されます。

32-2048

メッセージが分割されるサイズに使用するキロバイト数を指定します。

[トップ](#)

MIME CCSID (MIMECCSID)

テキスト・データのMIMEコード化文字セットID (CCSID)変換パラメーターを指定します。このパラメーターの変更を有効にするためには、(STRMSFコマンドの使用により)メール・サーバー・フレームワークを再始動しなければなりません。

要素1: コード化文字セットID

1 バイト文字セット(SBCS)に使用するCCSID値、およびASCIIからEBCDICへのマッピングおよびEBCDICからASCIIへのマッピングの実行中の一部の混合バイト文字セット(MBCS) ASCII変換。

*SAME

前に設定されたCCSID値は変更されません。そうでない場合には、00819 (ISO 8859-1 8ビット ASCII)が使用されます。

CCSID値

次のリストからASCII CCSID値を指定します。この値は、有効なMIME標準ASCII CCSIDを指定していることを確認するために検査されます。

00367

MIME標準: US-ASCII
名前: 米国英語
EBCDIC CCSID: 00500

00819

MIME標準: ISO-8859-1
名前: ラテン-1
EBCDIC CCSID: 00500

00912

MIME標準: ISO-8859-2
名前: ラテン-2
EBCDIC CCSID: 870

00915

MIME標準: ISO-8859-5
名前: キリル文字
EBCDIC CCSID: 01025

01089

MIME標準: ISO-8859-6
名前: アラビア語
EBCDIC CCSID: 00420

00813

MIME標準: ISO-8859-7
名前: ギリシャ語
EBCDIC CCSID: 00875

00916

MIME標準: ISO-8859-8
名前: ヘブライ語
EBCDIC CCSID: 00424

00920

MIME標準: ISO-8859-9
名前: ラテン-5
EBCDIC CCSID: 01026

00923

MIME標準: ISO-8859-15
名前: ラテン-9
EBCDIC CCSID: 01140-1149

05052

MIME標準: ISO-2022-JP
名前: 日本MBCS
EBCDIC CCSID: 05026

要素2: 使用の時点

CCSIDパラメーターに指定されたASCII CCSID相互間でメールを強制変換するかどうかを指定します。この構成パラメーターはグローバル・パラメーターです。これを*ALWAYSに設定すると、それは、EBCDIC-ASCIIのすべてのメールで使用されるCCSIDを示します。このパラメーターを*ALWAYSに設定する必要があるのは、文字セットを制限する必要がある場合だけです。これで、メール交換の必要なすべてのクライアントと通信することになりますが、言語の違いにおいては、ある言語固有の記号を失う原因となる可能性があります。

*SAME

この属性が前に設定されていた場合には、変更されません。そうでない場合には、*BESTFITが使用されます。

***BESTFIT**

メール・サーバー・フレームワークがメールのデータからCCSIDを判別できない場合のみ、指定されたCCSIDを使用します。

***ALWAYS**

メール・サーバー・フレームワークで最適なCCSIDが使用された場合でも、常に指定されたCCSIDが使用されます。受信メールでは、MIME文字セットがメール・サーバー・フレームワークでサポートされていないと、指定されたCCSIDが使用されます。発信メールでは常に、EBCDIC-ASCIIが指定されたCCSIDに変換します。

トップ

SECURE SOCKETS LAYER許可 (ALWSSL)

POPデータ・ストリーム（パスワードを含む）を保護するためにPOPサーバーで暗号化を使用するかどうかを指定します。暗号化にはSecure Sockets Layer (SSL)またはTransport Layer Security (TLS)のいずれかが使用されます。TLSまたはSSLのどちらを選択するかは、POPクライアントとサーバー間での機密保護折衝の結果によって決定されます。

*SAME

前に設定された許可TLS/SSLは変更されません。指定されていない場合には、*YESが使用されます。

***YES** POPサーバーは、無保護POPセッションを受け入れます。有効なPOPサーバー証明書がデジタル証明書マネージャーで構成されている場合には、TLS/SSLセッションも使用可能です。

***NO** POPサーバーは、無保護POPセッションのみを受け入れます。

***ONLY**

POPサーバーは、TLS/SSL POPセッションからのログインのみを受け入れます。

注: ALWSSL(*ONLY)が指定され、有効なPOPサーバー証明書がデジタル証明書マネージャーで構成されていない場合には、POPサーバーは開始されません。

トップ

例

例1:活動停止タイムアウトの設定

```
CHGPOPA INACTTIMO(700)
```

このコマンドは、クライアントの通信停止とみなす前にPOPサーバーが待機する時間を700秒に設定します。この時間の後でサーバーはクライアントから切断されます。いかなるメールも削除されません。

例2:デフォルトのCCSIDの設定

```
CHGPOPA MIMECCSID(923 *BESTFIT)
```

このコマンドは、メールからCCSIDが判別不可能な場合に、変換用にCCSID 923を使用するように設定します。このCCSIDはユーロ文字を含みます。

例3: Secure Socket Layer許可の設定

```
CHGPOPA ALWSSL(*ONLY)
```

このコマンドでは、POPサーバーがクライアントとサーバー間でセキュア通信のみを使用することを設定します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP499A

構成メンバーにアクセス中にエラー。

TCP4993

CCSIDパラメーター値&1が正しくない。

TCP4994

CCSIDパラメーター値&1が見つからない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9503

ライブラリー&2のファイル&3が使用できない。

[トップ](#)

REXEC属性の変更 (CHGRXCA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

REXEC属性変更(CHGRXCA)コマンドは、TCP/IPリモート実行(REXEC)サーバーの構成を変更します。REXECサーバーが活動状態の時に、REXEC属性を変更することができます。次にREXECサーバー接続が行なわれると、変更が有効となります。既存の接続は変更されず、接続が確立されたときの属性が保持されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション、位置 1
NBRSVR	初期サーバー数	1-20, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
INACTTIMO	非活動タイムアウト	1-2147483647, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション

[トップ](#)

自動開始サーバー (AUTOSTART)

TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドによってTCP/IPが開始された時に、REXECサーバーを自動的に開始するかどうかを指定します。REXECがTCP/IPサーバー開始(STRTCP)コマンドによって開始される場合に、SERVER(*AUTOSTART)が除外されると、このパラメーターは無視されて、このパラメーターの値とは関係なく、定義された数のサーバーが開始されます。

*SAME

前に設定された自動開始値は変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***NO** STRTCPコマンドが呼び出された時に、NBRSVRパラメーターに定義された数のサーバーを開始しません。REXECを使用する計画がない場合には、AUTOSTARTを*NOに設定してください。

***YES** NBRSVRパラメーターに定義された数のサーバーを開始します。

[トップ](#)

初期サーバー数 (NBRSVR)

TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドのいずれかによってREXECが開始された時に、最初に開始するREXECサーバーの最小数を指定します。これらのサーバー数によって、新しいサーバーの開始と関連したオーバーヘッドで待機することなく、新しいクライアントがサーバーに接続できます。

*SAME前に設定されたサーバー数は変更されません。そうでない場合には、*DFTが使用されます。

*DFT サーバーの数が省略時の値 2 に設定されます。

サーバー数

開始するよう要求するサーバーの数。有効な値は1-20サーバーの範囲です。

[トップ](#)

非活動タイムアウト (INACTTIMO)

サーバーがクライアントが通信を停止したものと見なしてクライアントを切り離すまでの、クライアント・ジョブとサーバー・ジョブ間の非活動の秒数を指定します。この事象が起これば、サーバーはクライアント・ユーザーのコマンドを実行しません。

*SAME

タイムアウト値が前に設定されていた場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*DFTが使用されます。

*DFT タイムアウト値は省略時の値の300秒（5分）に設定されます。

非活動タイムアウト

非活動タイムアウト期間を秒数で指定します。有効な値の範囲は1 - 2147483647 ((2**31)-1)秒です。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

REXECクライアントと送受信されるデータの変換に使用されるASCIIコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。

*SAME

前に設定されたCCSID値は変更されません。そうでない場合には、*DFTが使用されます。

*DFT CCSID値が選択され、QCCSIDシステム値によって指定されたCCSIDの、関連する省略時の単一バイトPC ASCIIに等価（あるいは、QCCSIDシステム値が65535の場合には、QLANGIDシステム値によって指定された言語に関連する、省略時のCCSIDのASCII に等価）となります。

CCSID値

要求されたCCSID値が使用されます。有効なASCII CCSIDが要求されたことを確認するために、この値が検査されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

SMTP属性の変更 (CHGSMTPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SMTP属性変更(CHGSMTPA)コマンドを使用して、再試行、名前区切り文字、メール・ルーター、およびシステム・ディレクトリーへのリモート・ユーザーの自動登録など、SMTP共通の属性を変更します。

以下のパラメーターに対する変更は、次回SMTPがEメールを処理する際にすぐに有効になります。

ADDRESS, ALLMAILSF, ALWAUTH, ALWBARELF, ALWRLY, AUTOADD,
CCSID, ETRNCLT, ETRNSVR, FIREWALL, FWDHUBSVR, FTRACN, IFCDMN,
JOURNAL, MAILROUTER, MIME8BIT, NFYDLVRY, OVRRTJTCNNL,
PCTRTGCHR, POPWDW, RBLSVR, RTYDAY, RTYHOUR, RTYMIN, RTYRMTSVR,
SBSD, SYSNAME, TBLSMTPIN, TBLSMTPOUT, TBLTYPE, USRIDPFX,
VFYFROMUSR, VFYID,およびVFYMSFMSG.

以下のパラメーターに対する変更は、次回SMTPが開始されると有効になります。

AUTOSTART, DIALSCD,およびUSRIDDELIM.

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTOSTART	サーバー自動開始	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 1
RTYMIN	再試行回数/間隔 (分)	要素リスト	オプション
	要素 1: 再試行回数	0-99, *SAME, *DFT	
	要素 2: 時間間隔	0-99, *SAME, *DFT	
RTYDAY	再試行回数/間隔 (日)	要素リスト	オプション
	要素 1: 再試行回数	0-9, *SAME, *DFT	
	要素 2: 時間間隔	0-9, *SAME, *DFT	
RTYHOUR	1時間ごとに再試行	要素リスト	オプション
	要素 1: 再試行回数	0-99, *SAME, *DFT	
	要素 2: 時間間隔	0-99, *SAME, *DFT	
RTYRMTSVR	リモート・ネーム・サーバーの再試行	*SAME, *YES, *NO	オプション
AUTOADD	自動登録	*SAME, *NO, *YES	オプション
USRIDPFX	ユーザーID接頭部	通信名, *SAME, *DFT	オプション
ADDRESS	アドレス	通信名, *SAME, *DFT	オプション
SYSNAME	システム名	文字値, *SAME, *DFT	オプション
TBLTYPE	別名テーブル・タイプ	*SAME, *SYSTEM, *PERSONAL	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRIDDELIM	ユーザーID区切り文字	*SAME, *DFT, '?', '=, ', '&', ¥, #, ',, '+, ', -, ', *, ',,	オプション
MAILROUTER	メール・ルーター	文字値, *SAME, *NONE	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *SAME, *DFT	オプション
TBLSMTPOUT	発信EBCDIC/ASCIIテーブル	単一値: *SAME, *CCSID, *DFT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBLSMTPIN	受信ASCII/EBCDICテーブル	単一値: *SAME, *CCSID, *DFT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 受信ASCII/EBCDICテーブル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 受信ASCII/EBCDICテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FIREWALL	ファイアウォール	*SAME, *YES, *NO	オプション
JOURNAL	ジャーナル	*SAME, *YES, *NO	オプション
ALLMAILMSF	MSFまでのすべてのメールを処理	*SAME, *YES, *NO	オプション
PCTRTGCHR	パーセント・ルーティング文字	*SAME, *YES, *NO	オプション
DIALSCD	ダイヤルアップ・スケジューラー	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: SMTPサーバーで開始	*SAME, *YES	
	要素 2: 構成プロファイル	名前, *SAME	
	要素 3: 接続時間間隔	1-1440, *SAME, *NONE	
ETRNSVR	サーバー用ETRNのサポート	*SAME, *NO, *YES	オプション
ETRNCLT	クライアントETRNのサポート	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: クライアントETRN使用可能	*SAME, *YES	
	要素 2: 着信メール・サーバー・アドレス	文字値, *SAME	
	要素 3: メール・ドメイン名	文字値, *SAME	
MIME8BIT	8ビットMIMEのサポート	*SAME, *NO, *YES	オプション
NFYDLVRY	送達状況通知	要素リスト	オプション
	要素 1: 担当者	文字値, *SAME, *NONE	
SBSD	サブシステム記述	単一値: *SAME, *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
RBLSVR	REALTIME BLACKHOLE LIST	文字値, *SAME, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ALWRLY	中継メール許可	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *ALL, *BOTH その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *LIST, *NEAR, *POPWDW	オプション
POPWDW	「POP送信メール」ウィンドウ	15-65535, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
IFCDMN	インターフェース / ドメイン関連	<u>*SAME</u> , *NONE, *LIST	オプション
FTRACN	ウイルス用メール・フィルター	<u>*SAME</u> , *NONE, *KEEP, *DISCARD	オプション
OVRRJTCNNL	接続拒否リストの一時変更	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
ALWBARELF	単なる改行の許可	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
VFYID	IDの検証	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
ALWAUTH	認証の許可	<u>*SAME</u> , *RELAY, *LCLRLY, *NONE	オプション
VFYMSFMSG	MSFメッセージの検証	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
VFYFROMUSR	送信元ユーザーの検証	<u>*SAME</u> , *ALL, *LIST, *NONE	オプション
FWDHUBSVR	メールハブ・サーバーへの転送	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション

上

サーバー自動開始 (AUTOSTART)

SERVER(*AUTOSTART)を指定したTCP/IPサーバー開始(STRTCP)コマンド、またはTCP/IP開始(STRTCP) コマンドの実行によってTCP/IPが開始された時に、SMTPサーバーを自動的に開始するかどうかを指定します。STRTCPコマンドの実行によってSMTPが開始された場合には、このパラメーターは無視されてそのSMTPサーバーがこのパラメーターの値とは関係なく開始されます。

*SAME

前に設定された自動開始値は変更されません。そうでない場合には、*YESが使用されます。

***YES** SMTPサーバーを自動的に開始します。

***NO** SMTPサーバーを自動的に開始しません。

上

再試行回数／間隔 (分) (RTYMIN)

メールを配布し、リモート・ネーム・サーバーを再試行するための、SMTPの試行回数および試行を行なう間隔 (分数) を指定します。指定した数が使用されて成功しない場合には、RTYHOURパラメーターで指定されている日次再試行回数が試みられます。

要素1:再試行回数

*SAME

前に設定された再試行回数は変更されません。そうでない場合には、3が使用されます。

***DFT** 第1レベルの配布の再試行回数は、省略時の値の3に設定されます。

0-99 試みられる再試行回数を指定します。

要素2:時間間隔

*SAME

前に設定された再試行の時間間隔は変更されません。そうでない場合には、30が使用されます。

***DFT** 再試行の時間間隔は、省略時の値の30に設定されます。

0-99 再試行の時間間隔を指定します。再試行回数が設定されている場合には、時間間隔は0以外の値に設定しなければなりません。好ましい時間間隔は5分以上です。

上

再試行回数／間隔（日）(RTYDAY)

メールを配布し、リモート・ネーム・サーバーを再試行するための、SMTPの試行回数および試行を行なう日数を指定します。RTYDAYパラメーターは、RTYMINパラメーターが成功しなかった場合に使用されます。RTYDAY再試行回数を使用してメールの配布が正常に行なわれない場合には、状況配布ノートが送信元に戻されます。RTYDAYパラメーターの再試行回数の省略時の値は0に設定されているので、ユーザーが意図的に設定しなければ、このレベルの再試行は使用されません。第2レベルの再試行にはRTYDAYまたはRTYHOURパラメーターを選択することができますが、両方を選択することはできません。

要素1:再試行回数

*SAME

前に設定された再試行回数は変更されません。そうでない場合には、0が使用されます。

***DFT** 再試行回数は、省略時の値の0に設定されます。

0-9 試みられる再試行回数を指定します。再試行回数が設定されている場合には、時間間隔は0以外の値でなければなりません。

要素2:時間間隔

*SAME

前に設定された再試行間隔の日数は変更されません。そうでない場合には、0が使用されます。

***DFT** 再試行間隔の日数は省略時の値の0日に設定されます。

0-9 再試行間隔の日数を指定します。再試行回数が設定されている場合には、時間間隔は0以外の値でなければなりません。

上

1時間ごとに再試行 (RTYHOUR)

メールを配布しリモート・ネーム・サーバーを再試行するための、SMTPの再試行回数および各試行間の時間を指定します。RTYHOURパラメーターはRTYMINパラメーターが成功しなかった場合に使用されます。再試行回数がゼロより大きくて、RTYHOURパラメーターの時間間隔がゼロより大きい場合には、RTYDAYパラメーター値は使用されません。RTYHOUR再試行回数を使用してメールの配布で成功しなかった場合には、送信側に状況配布ノートが戻されます。RTYHOURパラメーターの再試行回数の省略時の値は0に設定されているので、ユーザーが意図的に設定しなければ、このレベルの再試行は使用されません。

要素1:再試行回数

***SAME**

前に設定された再試行回数は変更されません。そうでない場合には、0が使用されます。

***DFT** 再試行回数は、省略時の値の0に設定されます。

0-99 試みられる再試行回数を指定します。再試行回数が設定されている場合には、時間間隔は0以外の値でなければなりません。

要素2:時間間隔

***SAME**

再試行間隔の時間は前に設定されていれば変更されません。設定されていない場合には0が使用されます。

***DFT** 再試行間隔の時間は省略時値の0分に設定されます。

0-99 再試行間隔の時間を指定してください。再試行回数が設定されている場合には、時間間隔は0以外の値でなければなりません。

上

リモート・ネーム・サーバーの再試行 (RTYRMTSVR)

リモート・ネーム・サーバーとの連絡が正常に行なわれない時に、SMTPがその連絡をやり直す必要があるかどうかを指定します。再試行の頻度を定めるために、RTYMINおよびRTYHOUR/RTYDAYパラメーターが使用されます。

***SAME**

前に設定されたRTYRMTSVRパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NOが使用されます。

***YES** リモート・ネーム・サーバーとの連絡をやり直します。

***NO** リモート・ネーム・サーバーとの連絡をやり直しません。

上

自動登録 (AUTOADD)

受信メールの場合に、リモート・ユーザーIDおよびアドレスをシステム・ディレクトリーに自動的に追加するかどうか、さらに必要な場合には、別名テーブルに追加するかどうかを指定します。これによって、ローカル・ユーザーは最初に必要なデータをディレクトリーおよび別名テーブルに入力しなくとも、そのメールに応答することができます。

***SAME**

前に設定された自動登録値は変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***NO** リモート・ユーザーをシステム・ディレクトリーおよび別名テーブルに自動的に追加しません。

***YES** リモート・ユーザーをシステム・ディレクトリーおよび別名テーブルに自動的に追加します。

上

ユーザーID接頭部 (USRIDPFX)

生成された5桁の数字と一緒に使用される3桁の接頭部を指定します。これはSNADSユーザー識別コードを構成します。SNADSユーザーIDは、システム・ディレクトリーおよび別名テーブルに自動的に追加されます。このパラメーターが有効となるのは、AUTOADDパラメーターが*YESと指定された場合のみです。

*SAME

前に設定されたユーザーID接頭部は変更されません。そうでない場合には、QSM が使用されます。

***DFT** 3桁のユーザーID接頭部は、省略時の値のQSMに設定されます。

通信名 使用される3桁のユーザーID接頭部を指定します。

上

アドレス (ADDRESS)

リモート・ユーザーがシステム・ディレクトリーおよび別名テーブルに自動的に追加される時に、生成されるSNADSアドレスを指定します。このパラメーターが有効となるのは、AUTOADDパラメーターが*YESと指定された場合のみです。

*SAME

前に設定されたアドレス値は変更されません。そうでない場合には、QSMRMTAD が使用されます。

***DFT** 自動的に追加されるSNADSアドレスは省略時のQSMRMTADです。

通信名 システム・ディレクトリーおよび別名テーブルに自動的に追加されるSNADSアドレスを指定します。最大8桁まで指定することができます。

上

システム名 (SYSNAME)

SNADSがSMTPにメールを経路指定するために使用する名前を指定します。SMTPが構成された場合には、この名前は、指定された配布経路指定と一致していなければなりません。このパラメーターが有効となるのは、AUTOADDパラメーターが*YESと指定された場合のみです。

*SAME

前に設定されたシステム名の値は変更されません。そうでない場合には、TCPIP が使用されます。

***DFT** SNADSはメールをSMTPに経路指定するために、省略時のシステム名のTCPIPを使用します。

文字値 SMTPにメールを送るためにSNADSが使用するシステム名を指定します。最大8桁まで指定することができます。

上

別名テーブル・タイプ (TBLTYPE)

リモート・ユーザーをシステム・ディレクトリーに自動的に追加する場合に、リモート・ユーザー情報によって更新されるSMTP別名テーブルのタイプを指定します。このパラメーターが有効となるのは、AUTOADDパラメーターが*YESと指定された場合だけです。

***SAME**

前に設定されたテーブル・タイプ値は変更されません。そうでない場合には、*SYSTEMが使用されます。

***SYSTEM**

SMTPシステム別名テーブルをリモート・ユーザー情報によって更新します。

***PERSONAL**

ローカル・ユーザーのSMTP個人別名テーブルをリモート・ユーザー情報によって更新します。

上

ユーザーID区切り文字 (USRIDDELIM)

SMTPユーザーIDの一部を区切るために使用される単一文字区切り文字を指定します。システムおよび個人別名テーブルの後続のすべての項目はこの新しい文字を使用します。特殊文字はアポストロフィで囲まなければなりません。

***SAME**

前に設定されたユーザー識別コード区切り文字値は変更されません。そうでない場合には、疑問符(?)が使用されます。

***DFT** 単一文字の区切り文字は疑問符(?)です。 .

区切り文字

SMTPユーザーIDの一部を区切るために使用される単一文字区切り文字。指定できるのは、次の文字を1つだけです。

- 疑問符(?)
- 等号(=)
- ピリオド(.)
- プラス符号(+)
- アンパーサンド(&)
- 下線(_)
- ダッシュ(-)
- ドル記号または円記号(¥)
- 番号記号(#)
- アスタリスク(*)
- 引用符(")
- スラッシュ(/)

上

メール・ルーター (MAILROUTER)

SMTPが宛先の名前と住所をシステムまたは個人別名テーブルで見つけることができない場合、あるいはSMTPが宛先の住所を分析解決できない場合に、メール・ルーターを使用する必要があるかどうかを指定します。メールの経路指定が必要でない場合には、*NONEを指定しなければなりません。

注: MAILROUTER(*NONE)が定義されると、FIREWALLパラメーターはSMTPサーバーによって無視されま
す。

***SAME**

前に設定されたメール・ルーターは変更されません。そうでない場合には、*NONE が使用されま
す。

***NONE**

メール・ルーターは使用されません。

文字値 ローカル・システム上の発信メールが最初に使用する経路を指定します。最大256桁を指定するこ
とができます。

上

コード化文字セットID (CCSID)

発信メールのすべての1バイト文字セット(SBCS)データをマップするために使用されるASCIIコード化文字
セット識別コード(CCSID)を指定します。また、この値は、受信メールのすべてのSBCSデータをマップす
るためのASCII CCSIDであると見なされます。マッピングは、ジョブに指定されたASCII CCSIDおよび
EBCDIC CCSIDによって判別します。

選択されたCCSID値は、ASCII-EBCDICおよびEBCDIC-ASCIIマッピングでSMTP によって使用される省略
時の値です。発信および着信マッピングは、TBLSMTPOUTおよびTBLSMTPINパラメーターに定義された
マッピング・テーブルによって任意に実行することができます。通常、TBLSMTPOUTおよびTBLSMTPIN
パラメーターは省略時の値の*CCSIDまたは*DFTに設定されます。この両方の値は、CCSIDパラメーターで
使用される値がマッピングで使用されることを示します。

マッピング・テーブルが発信マッピングで使用される場合には、テーブル・オブジェクトをTBLSMTPOUT
パラメーターに指定することができます。TBLSMTPOUTパラメーターに指定されたテーブル・オブジェク
トがCCSID値の代わりに使用されます。

TBLSMTPINパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することによって、着信マッピングを変更し
て、マッピング・テーブルを使用することができます。このマッピング・テーブルは、指定されたCCSID値
を一時変更して、着信マッピングに使用されます。

このパラメーターには、2バイト文字セット(DBCS) CCSID値は許されません。SMTPメールでは、DBCSデ
ータは自己識別します。

***SAME**

前に設定されたCCSID値は変更されません。そうでない場合には、00819 (ISO 8859-1 8ビット
ASCII)が使用されます。

***DFT** CCSID値は00819 (ISO 8859-1 8ビットASCII)です。

1-65533

使用するCCSID値を指定してください。有効なSBCS CCSIDが要求されたことを確認するために、
この値の妥当性検査が行われます。

上

発信EBCDIC/ASCIIテーブル (TBLSMTPOUT)

発信メールをEBCDICからASCIIにマップするために、SMTPクライアントによって使用される発信マッピング・テーブルを指定します。

テーブル・オブジェクトがTBLSMTPOUTに指定された場合には、そのテーブル・オブジェクトが発信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して発信マッピングが判別されません。

単一値

*SAME

TBLSMTPOUT値が前に設定されていた場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*CCSIDが使用されます。

*CCSID

発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 発信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLSMTPIN)

着信データをASCIIからEBCDICにマップするために、SMTPサーバーによって使用される着信マッピング・テーブルを指定します。

テーブル・オブジェクトがTBLSMTPINパラメーターに指定された場合には、そのテーブル・オブジェクトが着信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して着信マッピングが判別されます。

*SAME

TBLSMTPINの値が前に設定されていた場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*CCSIDが使用されます。

*CCSID

着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 着信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

ファイアウォール (FIREWALL)

リモート・ドメインのホストに予定されているアウトバウンド・メールを、構成されたメール・ルーターにネットワークのファイアウォールを介して転送するかどうかを指定します。

注: MAILROUTER(*NONE)が定義されると、FIREWALLパラメーターはSMTPサーバーによって無視されません。

***SAME**

前に設定されたファイアウォール値は変更されません。そうでない場合には、*NO が使用されます。

***YES** システムのドメイン外にあるホストの場合には、メールをメール・ルーター・マシンに転送します。

***NO** メールを受信側のホスト・マシンに送るだけです。

上

ジャーナル (JOURNAL)

個々のメール項目がSMTPを通過する時に、メール・サーバー・フレームワーク・ジャーナル (QUSRSYS/QZMF)へメール・メッセージの遷移、イベント、および情報データを示す追加のジャーナル項目を書き出す必要があるかどうかを指定します。

***SAME**

前に設定されたJOURNALパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NO が使用されます。

***YES** メールがSMTPを通ると追加のジャーナル項目を書き出します。

***NO** 追加のジャーナル項目を作成しません。

上

MSFまでのすべてのメールを処理 (ALLMAILMSF)

SMTPサーバーが、そのサーバーを実行中のSystem iにアドレス指定されていないメールであっても、受け取ったすべてのメールを処理して、それをメール・サーバー・フレームワークに渡す必要があるかどうかを指定します。

*SAME

前に設定されたALLMAILMSFパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NOが使用されます。

***YES** SMTPサーバーが受け取ったすべてのメールをメール・サーバー・フレームワークに渡します。

***NO** サーバーが稼働中のSystem iにアドレス指定されている場合にのみ、メール・サーバー・フレームワークにメールを渡します。

上

パーセント・ルーティング文字 (PCTRTGCHR)

SMTPが'%'文字をSMTP経路指定文字として変換するか、それともこの文字を単にパススルーするかを指定します。Lotus Noteは'%'文字を、Lotus Noteのドメイン名を完全修飾する省略時の区切り文字（すなわち、John_Smith%NotesDomain1%NotesDomain2@host.domain）として使用します。

*SAME

前に設定されたPCTRTGCHRパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NOが使用されます。

***YES** '%'文字をSMTP経路指定文字として変換します。

***NO** '%'を単に別の文字として処理します。

注:ロータス・ノーツを使用しているか、またはロータス・ノーツのドメインでメールを交換する場合には*NOを選択してください。

上

ダイヤルアップ・スケジューラー (DIALSCD)

ダイヤルアップ接続を処理するためにSMTPスケジューラーを開始するかどうかを判別します。スケジューラーは別個のSMTPジョブとして開始されます。POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)リンクを確立するために、通信プロファイルを使用して最初に初期接続が行われます。待機中のメールが送信されてから、ジョブは指定された時間間隔だけスリープします。その時間間隔が満了すると、スケジューラーが通信リンクを再確立して、その間隔の間に累積された待機中のすべてのメールを送信します。

注:転送が試みられ、スケジューラーからの結果は再実行として数えられません(RTYMINおよびRTYHOURパラメーターを参照してください)。

単一値

***NO** SMTPサーバーの開始時にSMTPスケジューラーを開始しません。*NOが指定された場合には、この構成プロファイル名および時間間隔の値は無視されます。

要素1: SMTPサーバーの開始

***SAME**

前に設定されたスケジューラーの要求された使用は変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***YES** SMTPサーバーの開始時にSMTPスケジューラーを開始します。*YESが指定された場合には、コマンドのこの呼び出しまたは前の呼び出しで構成プロファイル名（要素2）を指定しなければなりません。

要素2:構成プロファイル

***SAME**

要求され、前に入力された構成プロファイルは変更されません。

名前 スケジューラーによって使用される構成プロファイル名(PPPまたはSLIP接続プロファイル) を指定します。

要素3:接続時間間隔

***SAME**

以前に設定された要求された時間間隔は変更されません。そうでない場合には、30分が使用されます。

***NONE**

再試行は実行されません。

I-1440 接続試行間の分数を指定してください。この時間計測は、スケジューラーが、接続が成功したことを確認したか、あるいはプロファイルが存在していないという以外の障害指示を受け取った時点から開始されます。接続しようとした結果として他の障害のいずれかによって、スケジューラーが、メッセージTCP2285がQSYSOPRメッセージを待ち行列に送信して終了する原因になります。

上

サーバー用ETRNのサポート (ETRNSVR)

SMTPサーバーが、リモート・ホストのクライアントからのService Extension for Remote Message Queue Starting (ETRN)コマンドをサポートするかどうかを指定します。ETRNは、RFC 1985 SMTP Service Extension for Remote Message Queue Startingで説明されています。

***SAME**

前に設定されたETRNSVRパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NOが使用されます。

***YES** 受け入れETRNリストにあるHOST.DOMAINからETRNコマンドが受け取られた時に、サーバーがそのすべてのメールを再試行します。受け入れETRNリストは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、TYPEパラメーターに*ETRNSVRを指定したADDSMTPL (SMTPリスト項目追加) コマンドを使用することによって指定することができます。

***NO** ETRNコマンドが受け取られると、サーバーは「502コマンドが実装されませんでした」で応答します。注:照会側のクライアントにEHLO応答が送られる時には、サポートされる拡張子のリストにETRNが含まれません。

上

クライアントETRNのサポート (ETRNCLT)

ダイヤルアウト接続が確立された時に、インターネット・サービス・プロバイダー(ISP)の受信メール・サーバーにService Extension for Remote Message Queue Starting (ETRN)コマンドが発行されるかどうかを指定します。接続のプロファイルは、DIALSCDパラメーターに定義されたものです。ETRNは、RFC 1985 SMTP Service Extension for Remote Message Queue Startingで説明されています。

単一値

***NO** クライアントのETRNを使用可能にしません。*NOが指定された場合には、受信メール・サーバーのアドレスおよびメール・ドメイン名の値は無視されます。

要素1:クライアントETRNを使用可能にする

*SAME

要求され、前に設定されたクライアントのETRNの使用法は変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***YES** SMTPジョブは、インターネット・サービス・プロバイダーの受信メール・サーバーのIPアドレスとのSMTP接続を確立します。接続成功が受け取られると、そのサーバーにETRNコマンドが送られます。*YESを入力する時には、CHGSMTPAのこの呼び出しまたは前の呼び出しに受信メール・サーバーのアドレス (要素2)およびメール・ドメイン名 (要素3)を指定しなければなりません。

要素2:受信メール・サーバー・アドレス

*SAME

前に入力された構成済みIPアドレスは変更されません。

文字値 ISPの受信メール・サーバーのアドレスを指定します。

要素3:メール・ドメイン名

*SAME

前に入力された構成済みメール・ドメイン名は変更されません。

文字値 ISPがこのSystem iシステムの代わりにメール保管サービスを提供するhost.domainの名前を指定します。

上

8ビットMIMEのサポート (MIME8BIT)

8BITMIME拡張子がSMTPサーバーによって認められるかどうかを指定します。SMTPクライアントは、8BITMIMEメッセージを送信しようとはしますが (中継メールの場合)、宛先のメール・サーバーが8BITMIMEをサポートしていない場合には、非送達の通知を送信します。変換は行われません。

*SAME

MIME8BITに前に設定されたのと同じ値を使用します。そうでない場合には、*NOが使用されません。

***YES** サーバーは、8BITMIMEメール転送を認めます。

***NO** サーバーは、8BITMIMEメール転送を認めません。

上

送達状況通知 (NFYDLVRY)

DELIVERY STATUS NOTIFICATION(DSN)がサポートされるかどうかを指定し、サポートされる場合に、送達状況通知の「FROM」フィールドで使用するアドレスを指定します。

*SAME

NFYDLVRYの前に設定されたのと同じ値を使用します。そうでない場合には、*NONEが使用されます。

*NONE

DELIVERY STATUS NOTIFICATIONはサポートされません。「FROM」フィールド・アドレスは提供されません。

文字値 送達状況通知の内側で「FROM」フィールドに使用されるSMTPアドレスを「USERID@HOST.DOMAIN」の形式で指定してください。これは、有効なSMTPアドレスでなければなりません。最大255文字を指定することができます。

サーバーは、SMTPクライアントからのDELIVERY STATUS NOTIFICATIONの要求を認めます。宛先へのメモの送達、遅延、中継、または障害を示す状況メモが要求に応じて生成されます。

上

サブシステム記述 (SBSD)

SMTPサーバー・ジョブが実行されるサブシステムのサブシステム記述を指定します。指定されたサブシステム記述が存在しない場合には、それが作成されます。記述が作成されるライブラリーが存在しない場合には、コマンドは失敗します。

IBM提供の*SBSD QSYSWRK以外のサブシステム記述が指定された場合には、同じ名前のジョブ待ち行列が指定されたサブシステム記述と同じライブラリーに作成されます。このジョブ待ち行列は、SMTPサーバー・ジョブを投入するために使用されます。

サブシステム記述またはジョブ待ち行列（あるいはその両方）が作成されるライブラリーには、*READ、*ADD、および*EXECUTE権限が必要です。サブシステム記述がすでに存在する場合には、そのオブジェクトに対する*READ、*EXECUTE、*OBJMGT、および*OBJOPR権限が必要です。そうでなければ、このコマンドは失敗します。ジョブ待ち行列がすでに存在する場合には、そのオブジェクトに対する*READ、*EXECUTE、*OBJMGT、および*OBJOPR権限が必要です。そうでなければ、コマンドは失敗します。既存のサブシステム記述およびジョブ待ち行列の場合、QTCPユーザー・プロファイルにはこれらのオブジェクトに対する*USE権限が付与されます。

単一値

*SAME

SBSDの前に設定されたのと同じ値を使用します。そうでない場合には、*DFTが使用されます。

***DFT** *DFTが指定されると、SMTPサーバー・ジョブはライブラリーQSYS中のジョブ待ち行列QSYSNOMAXに投入され、QSYSWRKサブシステムで実行されます。

修飾子1: サブシステム記述

名前 SMTPがそのサーバー・ジョブに使用するサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

REALTIME BLACKHOLE LIST (RBLSVR)

REALTIME BLACKHOLE LIST(RBL)を実行中のQUERYに対してサーバーの完全修飾ドメイン名を指定します。接続拒否リストにメール発信元のアドレスに対する項目が見つからない場合には、メールが送達または中継用に受け入れられる前に、QUERYはこのパラメーターに指定された各RBLサーバーに送られます。接続拒否リストは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、TYPEパラメーターに*REJECTの値を指定したADDSMTPL命令を使用することによって設定することができます。

*SAME

RBLSVRに前に設定されたのと同じ値を使用します。そうでない場合には、*NONEが使用されません。

*NONE

REALTIME BLACKHOLE LISTは使用されません。

文字値 検索されるREALTIME BLACKHOLE LISTサーバーをスペースで区切り、アポストロフィで囲んだリスト（最大3つのサーバー名を指定できます）を指定します。

中継メール許可 (ALWRLY)

中継メールがこのサーバーを経由することを許可するかどうかを指定します。認証の許可 (ALWAUTH)パラメーターに*RELAYまたは*LCLRLYが指定されるかまたは有効である場合は、このパラメーターに指定された値は無視されます。

単一値

*SAME

ALWRLYに前に設定されたのと同じ値を使用します。そうでない場合には*NONEが使用されません。

*NONE

メールは中継されません。

***ALL** 中継されたすべてのメールが認められます。

*BOTH

中継メッセージ・リスト(*LIST)にリストされたアドレスと近接ドメイン(*NEAR)の宛先に指定されたアドレスの両方を中継できるようにします。

他の値 (最大3反復)

***LIST** 中継メッセージ受け入れリストにリストされたアドレスが中継されます。中継メッセージ受け入れリストは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、TYPEパラメーターに*ACCEPTの値を指定したADDSMTPL命令を使用することによって指定することができます。

注:このSystem iがアウトバウンドSMTPサーバーとして機能する場合には、このシステムのSystem i POPユーザーをこのリストに追加する必要があります。POPユーザーからのメッセージは、すべて中継されなければなりません。

***NEAR**

近接ドメイン・リスト中の宛先にアドレス指定されたメールが中継されます。ドメイン・リストは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、TYPEパラメーターに*NEARを指定したADDSMTPL (SMTPリスト項目追加) コマンドを使用することによって定義することができます。

***POPWDW**

POST OFFICE PROTOCOL (POP)サーバーに「パラメーターPOP送信メール」ウィンドウ (POPWDW)で指定した時間 (分) 内にログオンしたすべてのクライアントのメールを中継します。これは、クライアントがメール送信を要求する前に、POPメールを受信しなければなりません。

上

「POP送信メール」ウィンドウ (POPWDW)

ローカル・アドレス以外のアドレスに対してクライアントがSMTPサーバーを使用してメールを送信できる分数を指定します。この時間は、各クライアントについて、そのクライアントがメールを受信するためにPOPサーバーにログオンした時から開始されます。

***SAME**

値が前に設定されていれば、その値は変更されません。設定されていない場合には*NONEが使用されます。

***NONE**

クライアントはPOPサーバーにログオンした後にメールを中継することできません。

15-65535

POPにログオンした後に、クライアントがSMTPを使用して中継メールを送信できる時間間隔 (分数) を指定します。

上

インターフェース / ドメイン関連 (IFCDMN)

SMTPがドメインを特定のインターフェースに関連付けられるかどうかを指定します。

***SAME**

前に設定されたIFCDMNパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NONEが使用されます。

***NONE**

ドメインは特定のインターフェースに関連付けられません。ローカル・ドメインは、すべてのインターフェースに関連付けられます。

***LIST** ドメイン・リストに定義された関連を使用します。ドメイン・リストには、IPアドレスおよびそれに関連したドメイン名が入っています。ドメイン・リストは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、TYPEパラメーターに*DOMAINを指定したADDSMTPL (SMTPリスト項目追加) コマンドを使用することによって定義することができます。

上

ウィルス用メール・フィルター (FTRACN)

条件のセットが満たされた場合に、メールをスキャンして、廃棄または隔離できるようにします。条件は次の通りです。

- サブジェクト比較
- ファイル名／拡張子比較
- CONTENT-TYPEのタイプ／サブタイプ比較
- 発信元のアドレス

サブジェクト比較レコードは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、*FTRSUBJECTの値を指定したSMTPリスト項目追加 (ADDSMTPL)コマンドを使用することによって定義することができます。

ファイル名／拡張子レコードは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、*FTRFILENAMEの値を指定したADDSMTPLコマンドを使用することによって定義することができます。

タイプ／サブタイプ・レコードは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、*FTRTYPEの値を指定したADDSMTPLコマンドを使用することによって定義することができます。

発信元レコードは、System i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・ページを使用するか、*FTRORIGINの値を指定したADDSMTPLコマンドを使用することによって定義することができます。

***SAME**

FTRACNに前に設定されたのと同じ値を使用します。そうでない場合には、*NONEが使用されません。

***NONE**

比較は行われません。

***KEEP**

このメッセージを保ち、'/QTCPTMM/FTRFILES'に移動しますが、比較が行われた場合にこれを送りません。

***DISCARD**

比較が行われた場合にこのメッセージを廃棄します。

上

接続拒否リストの一時変更 (OVR RJTCNNL)

SMTPサーバーがPOP-before-mail権限をサポートして接続拒否リストを一時変更するかどうかを指定します。

***SAME**

前に設定されたOVR RJTCNNLパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NOが使用されます。

***YES** ユーザーが既にPOP経由でログオンしている場合は、ユーザーIDが接続拒否リスト上にあってもサーバーに対する権限が与えられます。

***NO** サーバーは、接続拒否リスト上にあるユーザーには権限を与えません。

上

単なる改行の許可 (ALWBARELF)

SMTPサーバーが復帰改行(CRLF)の代わりに単なる改行(LF)をサポートするかどうかを指定します。

*SAME

前に設定されたALWBARELFパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*YESが使用されます。

***YES** サーバーは改行(LF)または復帰改行(CRLF)のいずれかを含むEメールを受け入れます。単なる改行は、RFC 2821で定義されます。このパラメーターを*YESに設定するとこの定義が強制されます。

***NO** サーバーは復帰改行(CRLF)付きで送信されたEメールを受け入れます。サーバーは改行(LF)のみで送信されたEメールを拒否します。

上

IDの検証 (VFYID)

ユーザーがEメールの許可リスト上にあることをSMTPサーバーが検証するかどうかを指定します。

*SAME

前に設定されたVFYIDパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NOが使用されます。

***NO** サーバーはすべてのユーザーがSMTPにログオンすることを許可します。

***YES** サーバーは、許可リスト上のユーザーしかSMTPにログオンすることを許可しません。

上

認証の許可 (ALWAUTH)

SMTPサーバーがTransport Layer Security (TLS)およびSecure Socket Layer (SSL)をサポートするかどうか、そしてユーザーの認証がいつ起こるかを指定します。*RELAYまたは*LCLRLYが指定されるかまたは有効である場合は、**中継メール許可 (ALWRLY)**パラメーターに指定された値は無視されます。

*SAME

前に設定されたALWAUTHパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*NONEが使用されます。

***NONE**

サーバーがTLS/SSLを使用しない場合は、認証は実行されません。

***RELAY**

サーバーは中継メールがこのサーバーを経由することを許可します。サーバーは、TLS/SSLを使用し、中継のみを認証します。

***LCLRLY**

サーバーは中継メールがこのサーバーを経由することを許可します。サーバーは、TLS/SSLを使用し、中継を行うときにローカルでこれを認証します。

上

MSFメッセージの検証 (VFYMSFMSG)

SMTPサーバーが、SMTPメール・サーバー・フレームワーク(MSF)のsnap-ins機能に、検査されていないEメールを拒否させるかどうかを指定します。後方互換性については、ALWAUTHパラメーターが*LCLRLYに設定されている場合のみ有効です。Eメールが認証されたソースから送信されていない場合は、QzmfCrtMailMsg()関数を発行したユーザーがMSFメッセージの発信元と一致する必要があります。

*SAME

前に設定されたVFYMSFMSGパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*YESが使用されます。

***YES** サーバーは検証されていないMSFメッセージを拒否します。

***NO** サーバーは、すべてのMSFメッセージを処理します。

上

送信元ユーザーの検証 (VFYFROMUSR)

SMTPサーバーで、「メール送信元：」アドレスを検証してそのユーザーがシステム配布ディレクトリー(SDD)にあり、そのEメール・アドレスが一致することを確認するかどうかを指定します。アドレスが一致せず、またこのパラメーターに*ALLまたは*LISTが指定されるか有効である場合は、ユーザーは拒否されます。後方互換性については、ALWAUTHパラメーターが*LCLRLYに設定されている場合のみ有効です。

*SAME

前に設定されたVFYFROMUSRパラメーターの値は変更されません。設定されていない場合には、*ALLが使用されます。

***ALL** 検証はすべてのユーザーに対して実行されます。

*NONE

ユーザーの検証は行われません。

***LIST** サーバーは、受け入れリスト上にないユーザーのみを検証します。受け入れリストはADDSMTPTYPE(*ACCEPT) CLコマンドによって定義されます。

上

メールハブ・サーバーへの転送 (FWDHUBSVR)

すべての非ローカルEメールが転送されるようにするための、SMTPサーバーのドメイン名を指定します。これによって、このSMTPサーバーはメールハブのように動作します。メールを転送しない場合には、*NONEを指定しなければなりません。

*SAME

前に設定されたメールハブは変更されません。指定していない場合には、*NONEが使用されます。

*NONE

メールは別のSMTPサーバーへ転送されません。

文字値 ローカル・システム上の非ローカル・メールが最初に獲得するSMTPサーバーの完全に修飾されたメール・エクスチェンジャーのドメイン名を指定します。ドメイン名の代わりにIPアドレスが指定される場合は、そのアドレスはメール・エクスチェンジャーとして解決されません。最大255文字を指定することができます。

例

例1: POP送信時間を2時間に変更する

```
CHGSMTPA  ALWRLY(*POPWDW) POPWDW(120)
```

このコマンドは、POPクライアントがメールをチェックするためにPOPサーバーにログオンした後2時間(120分間)の間、ローカルSMTPサーバーを使用して任意のリモート・アドレスにメールを送信できるように、SMTP属性を変更します。

例2: リスト上のアドレスへの中継を可能にする

```
CHGSMTPA  ALWRLY(*LIST)
```

このコマンドは、クライアントがリスト上のIPアドレスを使用して中継メールを送信できるように、SMTP属性を変更します。

例3: 中継の認証を要求する

```
CHGSMTPA  ALWAUTH(*RELAY)
```

このコマンドは、SMTP中継を認証してからその中継から転送されたEメールを受け入れるように、SMTP属性を変更します。

例4: リスト上にないユーザーの検証を要求する

```
CHGSMTPA  VFYFROMUSR(*LIST)
```

このコマンドは、ADDSMTPLD *ACCEPT CLコマンドで定義されたリストにないすべてのEメールに対してユーザー名の検証を要求するように、SMTP属性を変更します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0011

プロンプト一時変更プログラムによってエラーが検出された。

TCP160B

検索リストは6個のドメイン名に限定されています。

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP1903

指定されたホスト名が正しくない。

TCP2432

ユーザー名が最大長の&1バイトを超えている。

TCP2434

指定されたユーザー名が無効。

TCP2436

構成プロファイル名が必要。

TCP261D

処理は正常に完了していない。

TCP264D

ファイルの処理中にエラーが起こった。

TCP499A

構成メンバーにアクセス中にエラー。

TCP4993

CCSIDパラメーター値&1が正しくない。

TCP4994

CCSIDパラメーター値&1が見つからない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9503

ライブラリー&2のファイル&3が使用できない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

TELNET属性の変更 (CHGTELNA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TELNET属性の変更(CHGTELNA)コマンドは、構成できるTELNET属性を変更するために使用されます。この変更が有効となるのは、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドによって、TELNETサーバーを次に開始した時点です。

注: CHGTELNAコマンド・パラメーターはTELNETサーバーだけが使用するもので、TELNETクライアントは使用しません。これらの同様のパラメーターの多くは、TCP/IP TELNET開始コマンド(STRTCPTELN)またはTELNETクライアント・サブコマンドを使用して、TELNETクライアント用に設定できます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOSTART	サーバー自動開始	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション, 位置 1
NBRSVR	サーバーの数	1-200, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
TIMMRKTIMO	セッション・キープアライブ・タイムアウト	0-2147483647, <u>*SAME</u> , *CALC, *DFT	オプション
DFTNVTTYPE	省略時NVTタイプ	<u>*SAME</u> , *VT100, *NVT	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, <u>*SAME</u> , *MULTINAT, *BRITISH, *DUTCH, *FINNISH, *FRENCH, *FRENCHCAN, *GERMAN, *ITALIAN, *NORDAN, *SPANISH, *SWEDISH, *SWISS	オプション
TBLVTOUT	ASCII全画面マッピング	単一値: <u>*SAME</u> , *CCSID, *DFT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
TBLVTIN		単一値: <u>*SAME</u> , *CCSID, *DFT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 受信ASCII/EBCDICテーブル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 受信ASCII/EBCDICテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
ALWSSL	SECURE SOCKET LAYER使用可能	*YES, *NO, *ONLY, <u>*SAME</u>	オプション

サーバー自動開始 (AUTOSTART)

STRTCPコマンドまたはSTRTCP SVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドによってTCP/IPが開始された時に、TELNETサーバーを自動的に開始するかどうかを指定します。STRTCP SVR *TELNETが指定されて、TELNETサーバーがすでに実行中の場合には、追加のジョブは開始されません。

*SAME

AUTOSTART値が前に設定されている場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*YESが使用されます。

*YES TELNETサーバーを自動的に開始します。

*NO TELNETサーバーを自動的に開始しません。

サーバーの数 (NBR SVR)

開始するサーバーの数を指定します。TELNETには、1) TELNETサーバー・ジョブと2)デバイス・マネージャー・ジョブの2種類のサーバー・ジョブがあります。この数は、デバイス・マネージャー・サーバー用に開始されるジョブの数を示します。開始されるTELNETサーバー・ジョブは1つのみです。

*SAME

サーバーの数の値は、前に設定されていれば変更されません。そうでなければ、*CALCが使用されます。

*CALC

開始されるデバイス・マネージャー・ジョブの数はシステムによって決定されます。*CALC値の計算方法とこの値を変更したい場合の考慮事項の詳細については、[ESERVER ISIRIES TCP/IP 構成および解説書](#)を参照してください。

1-200 開始するサーバーの数を指定してください。例えば、6を指定すると、6つのデバイス・マネージャー・ジョブが開始されます。開始されるTELNETサーバー・ジョブは1つのみです。

セッション・キープアライブ・タイムアウト (TIMMRKTIMO)

接続妥当性検査間の秒数を指定します。TCPは、指定された時間間隔で各TELNET 接続をテストします。TCPは、応答を得られない場合にはその接続を終了します。

このパラメーターにより、セッション接続を検査する頻度が決まります。この値が高いと、失われた接続が検出されるまでの時間が長くなります。この値が低いほど、セッションは頻繁にテストされますが、設定が低すぎると、通常のネットワーク遅延の結果で接続が消失したと見なされる場合があります。

キープアライブの説明は、コマンドCHGTCPAのパラメーターTCPKEEPALVについてのヘルプ情報で見つかります。TCPKEEPALVは分単位で定義されますが、TIMMRKTIMOは秒単位で定義されるということに注意してください。

***SAME**

セッションのキープアライブ値が前に設定されている場合には、その値は変更されません。そうでなければ、*CALCが使用されます。

***CALC**

セッション・キープアライブはサンプリングの頻度が基になります。

***DFT** 省略時のセッション・キープアライブ値は600秒に設定されます。

0-2147483647

セッション・キープアライブ・タイムアウトの秒数を指定します。値0は、タイムアウトがないという意味です。

トップ

省略時NVTタイプ (DFTNVTTYPE)

TELNETサーバーがサポートされているタイプの1つをネゴシエーションできない時に、使用される省略時のネットワーク仮想端末装置(NVT)タイプを指定します。

***SAME**

省略時のNVTが前に設定されている場合には、そのタイプは変更されません。そうでない場合には、*VT100が使用されます。

***VT100**

TELNETサーバーまたはクライアントが、サポートされている端末タイプの1つをネゴシエーションできない時には、TELNETサーバーの省略時の値としてVT100モードが使用されます。OS/400サーバー・システムは、VT100端末タイプがネゴシエーションされたかのように作動します。

***NVT** TELNETサーバーまたはクライアントが、サポートされている端末タイプの1つをネゴシエーションできない時には、TELNETサーバーの省略時の値としてネットワーク仮想端末装置(NVT)モードが使用されます。NVTモードでは、NVTワークステーション装置と対話するように作成されたアプリケーション・プログラムが必要です。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

VTXXX端末で使用するASCIIコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。CCSIDは、ASCII全画面マッピングのためにTELNETで使用される省略時の値です。ASCII CCSID値は、ジョブのEBCDIC CCSIDと、CCSIDパラメーターで選択される国別置き換え文字セットまたはASCII CCSID値との間でマップするために使用されます。VTXXXユーザーがOS/400システムにサインオンする時に、これらのユーザーはこの値を使用します。

発信および着信マッピングは、TBLVTOUTおよびTBLVTINパラメーターに定義されたマッピング・テーブルによって任意に実行することができます。通常、TBLVTOUTおよびTBLVTINパラメーターは省略時の値の*CCSIDまたは*DFTに設定されます。この両方のパラメーターは、CCSIDパラメーターで使用される値がマッピングで使用されることを示します。マッピング・テーブルが発信マッピングに使用される場合には、TBLVTOUTパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することができます。TBLVTOUTパラメーターに指定されたテーブル・オブジェクトは、CCSID値の代わりに使用されます。

TBLVTINパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することによって、着信マッピングを変更して、マッピング・テーブルを使用することができます。このマッピング・テーブルは、指定されたCCSID値を一時変更して、着信マッピングに使用されます。

CCSIDパラメーターで使用できる国別置き換え文字セットの特殊値は、DIGITAL EQUIPMENT CORPORATION (DEC)の標準文字セットです。ASCII - EBCDICおよびEBCDIC - ASCIIの必要なマッピングを識別するためには、数値のCCSID値を任意に使用することができます。数値のCCSID値を選択した場合には、それが現行システムで使用可能な有効なASCII CCSID値であることを確認するために妥当性検査されます。

***SAME**

省略時のCCSID値が前に設定された場合には、その値は変更されません。そうでない場合には、*MULTINATが使用されます。

***MULTINAT**

DEC各国間共通文字セットを使用しています。

***BRITISH**

DEC英語置き換え文字を使用しています。

***DUTCH**

DECオランダ語置き換え文字を使用しています。

***FINNISH**

DECフィンランド語置き換え文字を使用しています。

***FRENCH**

DECフランス語置き換え文字を使用しています。

***FRENCHCAN**

DECカナダ・フランス語置き換え文字を使用しています。

***GERMAN**

DECドイツ語置き換え文字を使用しています。

***ITALIAN**

DECイタリア語置き換え文字を使用しています。

***NORDAN**

DECノルウェー語／デンマーク語置き換え文字を使用しています。

***SPANISH**

DECスペイン語置き換え文字を使用しています。

***SWEDISH**

DECスウェーデン語置き換え文字を使用しています。

***SWISS**

DECスイス語置き換え文字を使用しています。

I-65533

要求されたCCSID値が使用されます。有効なASCII CCSIDが要求されたことを確認するために、この値の妥当性検査が行われます。

注: 指定できる値は、ISO 7ビットおよびISO 8ビットのASCII CCSID値だけです。

トップ

発信EBCDIC/ASCIIテーブル (TBLVTOU)

ASCII全画面セッション時に発信データをマップするために、TELNETサーバーで使用される発信マッピング・テーブルを指定します。すべての発信データはEBCDICからASCIIにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLVTOUパラメーターに指定された場合には、テーブル・オブジェクトが発信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターが発信マッピングに使用されません。

単一値

*SAME

省略時のTBLVTOU値が前に設定された場合には、この値は変更されません。そうでない場合には、*CCSIDが使用されます。

*CCSID

発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 発信マッピング・テーブルの名前を指定します。CCSIDパラメーターで指定された省略時のマッピング・テーブルの代わりに、このマッピング・テーブルが使用されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

トップ

受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLVTIN)

ASCII全画面セッション時に着信データをマップするために、TELNETサーバーで使用される着信マッピング・テーブルを指定します。すべての着信データはASCIIからEBCDICにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLVTINパラメーターに指定されている場合には、そのテーブル・オブジェクトが着信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターが着信マッピングに使用されません。

単一値

*SAME

省略時のTBLVTIN値が前に設定された場合には、この値は変更されません。そうでない場合には、*CCSIDが使用されます。

*CCSID

着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

*DFT 着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 受信ASCII/EBCDICテーブル

名前 着信マッピング・テーブルの名前を指定します。CCSIDパラメーターで指定された省略時のマッピング・テーブルの代わりに、このマッピング・テーブルが使用されます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

トップ

SECURE SOCKET LAYER使用可能 (ALWSSL)

SECURE SOCKET LAYERおよび非SECURE SOCKET LAYERサポートが開始されるかどうかを指定します。

*SAME

SECURE SOCKET LAYER使用可能が前に設定されている場合には、その設定は変更されません。そうでない場合には、*YESが使用されます。

*YES SECURE SOCKET LAYERおよび非SECURE SOCKET LAYERのサポートが開始されます。

*NO 非SECURE SOCKET LAYERのサポートが開始されます。

*ONLY

SECURE SOCKET LAYERのサポートが開始されます。

トップ

例

例1:セッション・キープアライブ・タイムアウトの設定

```
CHGTELNA TIMMRKTIMO(600)
```

このコマンドは、セッション・キープアライブ・タイムアウトが600秒になるように設定します。各TELNET接続は、10分ごとにTCPによって妥当性検査されます。TCPは、応答を得られない場合にはその接続を終了します。

例2:TELNET自動開始属性の設定

```
CHGTELNA AUTOSTART(*NO)
```

このコマンドは、STRTCPコマンドまたはSTRTCP SVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドによってTCP/IPが開始された時に、TELNETサーバーは開始されないといった自動開始属性を設定します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

VTキーボード・マップの変更 (CHGV TMAP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

VTキーボード・マップの変更(CHGV TMAP)コマンドは、VT220またはVT100 TELNETサーバー・セッション時に使用されるキーボード・マッピング値を変更します。各パラメーターには、最大4つの特殊値を指定することができます。特殊値を使用して複数のOS/400機能を指定することはできません。このコマンドの実行時に指定されなかったパラメーターが、現在の値の省略時の値として使用されます。

このコマンドに指定できるVTキーの値は次の通りです。

*BACKSPC	(後退)
*CSRDOWN	(カーソル下)
*CSRLEFT	(カーソル左)
*CSRRIGHT	(カーソル右)
*CSRUP	(カーソル上)
*CTLA-*CTLG	(Ctrl-AからCtrl-G)
*CTLK-*CTLL	(Ctrl-KからCtrl-L)
*CTLN-*CTLZ	(Ctrl-NからCtrl-Z)
*CTLBSL	(Ctrl-逆スラッシュ)
*CTLLBKT	(Ctrl-左大括弧)
*CTLQST	(Ctrl-疑問符)
*CTLRBKT	(Ctrl-右大括弧)
*CTLSPC	(Ctrl-スペース)
*CTLTILDA	(Ctrl-波形記号)
*DLT	(削除)
*ESCA-*ESCZ	(Esc-0を除くEsc-AからEsc-Z)
*ESC0-*ESC9	(Esc-0からEsc-9)
*ESCAP	(Esc-アンパーサンド)
*ESCAST	(Esc-アスタリスク)
*ESCAT	(Esc-単価記号)
*ESCCFX	(Esc-曲折アクセント記号)
*ESCDLT	(Esc-削除)
*ESCDOLLAR	(Esc-ドル)
*ESCEQ	(Esc-等号)
*ESCEXCL	(Esc-感嘆符)
*ESCLF	(Esc-行送り)
*ESCLPAR	(Esc-左括弧)
*ESCMINUS	(Esc-マイナス)
*ESCPCT	(Esc-パーセント)
*ESCPLUS	(Esc-プラス)
*ESCPOUND	(Esc-ポンド)
*ESCQST	(Esc-疑問符)
*ESCRPAR	(Esc-右括弧)
*ESCTAB	(Esc-タブ)
*ESCUS	(Esc-下線)
*FIND	(検索)
*F1-*F20	(F1からF20)
*INS	(ここに挿入)
*LF	(行送り)
*NXTSCR	(次画面)
*PF1-*PF4	(PF1からPF4)
*PRVSCR	(前画面)
*RETURN	(戻り)
*RMV	(除去)
*SELECT	(選択)
*TAB	(タブ)

注: 一部のVT100およびVT220 TELNETシステムでは、フローを制御するためにCtrl-SおよびCtrl-Qを使用します。これは通常、XON/XOFFフロー制御と言われます。XON/XOFFが使用可能なクライアント・システムを使用している場合には、ユーザーのキーボード・マッピングで*CTLSおよび*CTLQを使用しないでください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ATTN	5250アテンション	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
HELP	5250 HELP	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
DOWN	次ページ	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
UP	前ページ	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
SYSREQ	システム要求	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
INSERT	挿入	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
DELETE	削除	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
ENTER	実行キー	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
BACKSPC	後退	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
DUP	複写	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
ERSINP	入力の消去	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
RESET	取り消し	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FLDEXIT	FIELD EXIT	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FLDMINUS	FIELD-	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
HOME	HOME	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
NEWLINE	改行	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
PRINT	ページ印刷	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FLDADV	フィールド前進	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FLDBACK	フィールド後退	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CSRUP	カーソル上	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CSRDOWN	カーソル下	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CSRLEFT	カーソル左	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CSRRIGHT	カーソル右	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CLEAR	画面消去	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
TSTREQ	テスト要求	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
TOGGLE	切り替え表示ライト	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
REDRAW	画面再描画	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F1	F1	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F2	F2	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F3	F3	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F4	F4	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F5	F5	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F6	F6	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F7	F7	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F8	F8	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F9	F9	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
F10	F10	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F11	F11	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F12	F12	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F13	F13	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F14	F14	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F15	F15	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F16	F16	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F17	F17	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F18	F18	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F19	F19	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F20	F20	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F21	F21	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F22	F22	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F23	F23	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F24	F24	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション

上

5250アテンション (ATTN)

5250アテンション・キーにマップされるVTキーを指定します。

上

5250 HELP (HELP)

5250 HELPキーにマップされるVTキーを指定します。

上

次ページ (DOWN)

次ページ・キーにマップされるVTキーを指定します。

上

前ページ (UP)

前ページ・キーにマップされるVTキーを指定します。

上

システム要求 (SYSREQ)

システム要求キーにマップされるVTキーを指定します。

上

挿入 (INSERT)

5250挿入キーにマップされるVTキーを指定します。

上

削除 (DELETE)

5250削除キーにマップされるVTキーを指定します。

上

実行キー (ENTER)

実行キーにマップされるVTキーを指定します。

上

後退 (BACKSPC)

文字後退キーにマップされるVTキーを指定します。

上

複写 (DUP)

5250複写キーにマップされるVTキーを指定します。

上

入力の消去 (ERSINP)

5250入力消去キーにマップされるVTキーを指定します。

上

取り消し (RESET)

取り消しキーにマップされるVTキーを指定します。

上

FIELD EXIT (FLDEXIT)

FIELD EXITキーにマップされるVTキーを指定します。

上

FIELD- (FLDMINUS)

FIELD-キーにマップされるVTキーを指定します。

上

HOME (HOME)

5250カーソル・ホーム・キーにマップされるVTキーを指定します。

上

改行 (NEWLINE)

5250改行キーにマップされるVTキーを指定します。

上

ページ印刷 (PRINT)

5250ページ印刷キーにマップされるVTキーを指定します。

上

フィールド前進 (FLDADV)

フィールド前進キーにマップされるVTキーを指定します。

上

フィールド後退 (FLDBACK)

フィールド後退キーにマップされるVTキーを指定します。

上

カーソル上 (CSRUP)

カーソル上（↑）キーにマップされるVTキーを指定します。

上

カーソル下 (CSRDOWN)

カーソル下 (↓) キーにマップされるVTキーを指定します。

上

カーソル左 (CSRLEFT)

カーソル左 (←) キーにマップされるVTキーを指定します。

上

カーソル右 (CSRRIGHT)

カーソル右 (→) キーにマップされるVTキーを指定します。

上

画面消去 (CLEAR)

画面消去キーにマップされるVTキーを指定します。

上

テスト要求 (TSTREQ)

テスト要求キーにマップされるVTキーを指定します。

上

切り替え表示ライト (TOGGLE)

表示装置のエミュレーション標識ライトを切り替えるVTキーを指定します。

上

画面再描画 (REDRAW)

現行画面が再描出されることになるVTキーを指定します。

上

F1 (F1)

5250機能キーにマップされるVT F1キーを指定します。

上

F2 (F2)

5250機能キーにマップされるVT F2キーを指定します。

上

F3 (F3)

5250機能キーにマップされるVT F3キーを指定します。

上

F4 (F4)

5250機能キーにマップされるVT F4キーを指定します。

上

F5 (F5)

5250機能キーにマップされるVT F5キーを指定します。

上

F6 (F6)

5250機能キーにマップされるVT F6キーを指定します。

上

F7 (F7)

5250機能キーにマップされるVT F7キーを指定します。

上

F8 (F8)

5250機能キーにマップされるVT F8キーを指定します。

上

F9 (F9)

5250機能キーにマップされるVT F9キーを指定します。

上

F10 (F10)

5250機能キーにマップされるVT F10キーを指定します。

上

F11 (F11)

5250機能キーにマップされるVT F11キーを指定します。

上

F12 (F12)

5250機能キーにマップされるVT F12キーを指定します。

上

F13 (F13)

5250機能キーにマップされるVT F13キーを指定します。

上

F14 (F14)

5250機能キーにマップされるVT F14キーを指定します。

上

F15 (F15)

5250機能キーにマップされるVT F15キーを指定します。

上

F16 (F16)

5250機能キーにマップされるVT F16キーを指定します。

上

F17 (F17)

5250機能キーにマップされるVT F17キーを指定します。

上

F18 (F18)

5250機能キーにマップされるVT F18キーを指定します。

上

F19 (F19)

5250機能キーにマップされるVT F19キーを指定します。

上

F20 (F20)

5250機能キーにマップされるVT F20キーを指定します。

上

F21 (F21)

5250機能キーにマップされるVT F21キーを指定します。

上

F22 (F22)

5250機能キーにマップされるVT F22キーを指定します。

上

F23 (F23)

5250機能キーにマップされるVT F23キーを指定します。

上

F24 (F24)

5250機能キーにマップされるVT F24キーを指定します。

上

例

CHGVTMAP DOWN(*F8) UP(*F7)

このコマンドは、5250次ページ（ロールアップ）キーをF8機能キーに、5250前ページ（ロールダウン）キーをF7機能キーに、VTキー・マッピングを変更します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1340

この装置に&1コマンドを使用することはできない。

TCP1341

複数の機能に値&1が指定された。

TCP1342

値&1は正しくない。

TCP6B12

プログラム&1で内部システム・エラーが起こった。

SMTP名の変換 (CVTNAMSMTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SMTPの名前の変換(CVTNAMSMTP)コマンドは、既存のSMTPシステム別名をシステム配布ディレクトリー項目に変換するために使用されます。このコマンドを出した後は、次の点が真となります。

- SMTPの名前の処理(WRKNAMSMTP)コマンドは使用できなくなります。
- SMTPシステム別名の保守は、システム配布ディレクトリー・コマンドを使用して行なわなければなりません。(システム配布ディレクトリー・コマンドにアクセスするためには、ディレクトリー項目処理(WRKDIRE)コマンドを使用してください。)
- 個人用別名は使用できなくなります。

変換に要する時間の量は、存在しているSMTP名の数によって異なります。SMTP名が多数ある場合には、変換はバッチで実行されるようお勧めします。

警告

CVTNAMSMTPによって行なった変換を元に戻すことはできません。変換が完了すると、SMTPシステム別名の保守にはシステム配布ディレクトリーを使用しなければなりません。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

VTキーボード・マップの表示 (DSPVTMAP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

VTキーボード・マップの表示(DSPVTMAP)コマンドは、TELNET VT100またはVT220セッション時の現在の値を表示します。

このコマンドにはパラメーターはありません。

トップ

パラメーター

なし

トップ

例

DSPVTMAP

このコマンドは、現行のVT100またはVT220キーボード・マッピングを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

TCP1340

この装置に&1コマンドを使用することはできない。

TCP6B12

プログラム&1で内部システム・エラーが起こった。

トップ

TCP/IPファイル転送の開始 (FTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPファイル転送プロトコル開始(STRTCPFTP)コマンドは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)を使用してシステム間でファイルを転送するファイル転送プロトコル(FTP)クライアント・アプリケーションを開始するために使用されます。FTPは、リモート・システムとの間のファイル転送に使用されるアプリケーション・プロトコルです。FTPでは、リモート・システムのファイルにアクセスするためにユーザー識別コードが必要であり、また、場合によってはパスワードが必要です。

パラメーターのマッピング: データのマッピングは、EBCDICサブコマンドまたはBINARYサブコマンドが有効となっている場合を除き、ローカル・システムとリモート・システムの間すべてのデータ（たとえば、ユーザー・データおよびプロトコル・データ情報）に対して使用されます。これらの場合には、ユーザー・ファイル・データのマッピングは行なわれません。

FTP属性変更(CHGFTP)コマンドを使用して、FTPのサーバー・マッピング・テーブルを指定することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSYS	リモート・システム	文字値、*INTNETADR	必須、定位置 1
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533、*DFT	オプション
PORT	ポート	1-65535、*DFT、*SECURE	オプション
SECCNN	保護接続	*DFT、*NONE、*SSL、*IMPLICIT	オプション
DTAPROT	データ保護	*DFT、*CLEAR、*PRIVATE	オプション
TBLFTPOUT	発信EBCDIC/ASCIIテーブル	単一値: *CCSID、*DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 発信 EBCDIC/ASCIIテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、*LIBL、*CURLIB	
TBLFTPIN	受信ASCII/EBCDICテーブル	単一値: *CCSID、*DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受信 ASCII/EBCDICテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、*LIBL、*CURLIB	

[トップ](#)

リモート・システム (RMTSYS)

ファイルの転送を行なうリモート・システム名を指定します。正常に実行するためには、リモート・システム名は有効なもので、システムはそのローカル・システムと通信できなければなりません。TCP/IPの構成メニュー (CFGTCPコマンド) のTCP/IP ホスト・テーブル項目処理オプションでIPアドレスに名前を割り当てることができます。また、リモート・ネーム・サーバーを使用して、リモート・システム名をIPアドレスにマップすることができます。CFGTCPメニューのリモート・ネーム・サーバー変更オプションを使用して、リモート・ネーム・サーバーを指定することができます。

*INTNETADR

INTNETADRパラメーターのプロンプトが表示されます。

文字値 ファイルの転送を行なうリモート・システム名を指定します。

トップ

IPアドレス (INTNETADR)

ファイル転送アプリケーションを開始するリモート・システムのIPv4またはIPv6インターネット・アドレスを指定します。

IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*の形式で指定されます。ここで、*nnn*は0から255の範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分がすべて2進数の1 または2進数のゼロの値である場合には無効です。

IPv6インターネット・アドレスは、*xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx*の形式で指定されます。ここで、各*x*は4ビットを表す16進数字です。16進数字は、0から9までの数か、A、B、C、D、E、またはFの文字です。"*::*"は、1つ以上の16ビットのゼロのグループを示すために、IPv6アドレス内で1回使用される場合があります。"*::*"を使用してアドレス内の先行、組み込み、または後続のゼロを圧縮することができます。

IPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

文字値 リモート・システムのIPアドレスを指定します。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

FTP TYPEモードがASCIIに設定される時に、1バイト文字セット (SBCS) ASCII ファイル転送で使用されるASCIIコード化文字セット識別コード (CCSID) を指定します。また、TYPEサブコマンドが出されない場合には、ASCIIファイル転送と見なされます。選択されるCCSID値は、ASCII-EBCDICおよびEBCDIC-ASCIIマッピングのFTPクライアントによって使用される省略時の値です。マッピングは、ジョブに指定されたASCII CCSIDおよびEBCDIC CCSIDを使用して判別されます。

発信および着信マッピングは、TBLFTPOUTおよびTBLFTPINパラメーターに定義されたマッピング・テーブルによって任意に実行することができます。通常、TBLFTPOUT およびTBLFTPINパラメーターは、省略時の値の*CCSIDまたは*DFTに設定されます。この両方のパラメーターは、CCSIDパラメーターで使用される値がマッピングで使用されることを示します。マッピング・テーブルが発信マッピングに使用される場合には、テーブル・オブジェクトをTBLFTPOUTパラメーターに指定することができます。TBLFTPOUTパラメーターに指定されたテーブル・オブジェクトは、CCSID値の代わりに使用されます。

TBLFTPINパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することによって、マッピング・テーブルを使用するために、着信マッピングを変更することができます。このマッピング・テーブルは、指定されたCCSID値を一時変更して、着信マッピングに使用されます。

このパラメーターには、2バイト文字セット(DBCS) CCSID値は許されません。DBCS 値は、TYPEサブコマンドを使用して指定することができます。

注: IBMでは、V3R1以前のリリースと互換性を持たせるために、FTPにマッピング・サポートが組み込まれています。着信TYPE Aファイル転送にマッピング・テーブルを使用すると、ターゲット・ファイルの作成が必要な場合に、CCSIDタグが失われる結果となります。IBMでは、通常操作にはCCSIDサポートを使用することを強くお勧めします。

***DFT** CCSID値00819 (ISO 8859-1 8ビットASCII)が使用されます。

I-65533

使用するCCSID値を指定してください。有効なSBCS CCSIDが要求されたことを確認するために、この値の妥当性検査が行われます。

TBLFTPOUTおよびTBLFTPINパラメーターを使用して、ユーザー定義の着信および発信マッピング・テーブルを指定します。ユーザー定義のマッピング・テーブルは、CCSIDパラメーターが指定された時にFTPクライアントによって行われたマッピングを置き換えます。

[トップ](#)

ポート (PORT)

FTPサーバーとの接続に使用されるポート番号を指定します。

通常、FTPサーバーに接続するには、21という「既知の」ポート値が使用されます。ある種の状況の下では、FTPサーバーは、ポート21以外のポートで接続される場合があります。このような場合には、接続先のサーバー・ポートを指定するために、ポート・パラメーターが使用されることがあります。

注: FTPクライアント・サブコマンドOPENおよびSECOPENには、それぞれポート21以外のポートの指定に使用できるオプションの'PORT'パラメーターがあります。

***DFT** 値00021が使用されます。

***SECURE**

値00990が使用されます。ポート990は、データの暗号化にTRANSPORT LAYER SECURITY (TLS) またはSECURE SOCKETS LAYER (SSL)プロトコルを使用するセキュアFTPサーバー用に予約されています。

I-65535

要求されたポート値が使用されます。この値は、正しい範囲にあることを確認するために妥当性検査されます。

注: 990が指定された場合には、FTPクライアントは*SECUREが指定された場合と同じ機能を実行します。

[トップ](#)

保護接続 (SECCNN)

FTP制御接続で転送される情報を保護するために使用される機密保護メカニズムのタイプを指定します（これには、FTPサーバーとのセッションの認証に使用されるパスワードが含まれます）。TRANSPORT LAYER SECURITY (TLS)およびSECURE SOCKETS LAYER (SSL)は、転送中にデータを見られたりデータの消失または破壊が起こらないように保護するために暗号化を使用する互換性のあるプロトコルです。

注: FTPクライアント・サブコマンドSECOPENは、FTPクライアント・セッション中に保護されたFTP接続をオープンするために使用できます。

***DFT** PORTパラメーターに*SECUREまたは990が使用されている場合には*IMPLICITが使用され、そうでない場合には*NONEが使用されます。

*IMPLICIT

FTPクライアントは、指定されたFTPサーバーへの接続時に（サーバーにAUTHサブコマンドを送信しないで）直ちにTLS/SSLを使用しようとします。サーバーが指定されたポートで暗黙のTLS/SSLをサポートしていないか、または何らかの理由でTLS/SSL折衝が失敗した場合には、接続はクローズされます。

***SSL** 指定されたFTPサーバーへの接続後に、FTPクライアントはAUTH（許可）サブコマンドを送信してTLS/SSLで保護されたセッションを要求します。サーバーがTLS/SSLをサポートしていると、TLS/SSL折衝が実行されます。サーバーがTLS/SSLをサポートしていないか、またはTLS/SSL折衝が失敗した場合には、接続はクローズされます。

*NONE

FTPクライアントは、指定されたFTPサーバーへ接続するときに暗号化を使用しません。

[トップ](#)

データ保護 (DTAPROT)

FTPデータ接続で転送される情報に使用されるデータ保護のタイプを指定します。この接続は、ファイル・データおよびディレクトリー・リストの転送に使用されます。FTPプロトコルでは、制御接続が保護されていないと、データ接続の保護は使用できません。

注: DTAPROTパラメーターは、PROT（保護）FTPサーバー・サブコマンドの使用を制御します。FTPクライアント・サブコマンドSECDATAは、FTPクライアント・セッション時に、特定のFTPデータ接続に対する保護を切り替えるために使用できます。

***DFT** SECCNNパラメーターが保護された制御接続を指定していれば*PRIVATEが使用され、そうでない場合には*CLEAR が使用されます。

*PRIVATE

FTPデータ接続で送信された情報は暗号化されています。

注: SECCNNパラメーターでFTP制御接続を暗号化しないように指定している場合には、*PRIVATEは指定できません。

*CLEAR

FTPデータ接続で送信される情報は暗号化されていません。

[トップ](#)

発信ASCII/EBCDICテーブル (TBLFTPOUT)

FTPクライアントのすべての発信データをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。発信データはEBCDICからASCIIにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLFTPOUTに指定された場合には、そのテーブル・オブジェクトが発信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して発信マッピングが判別されます。

単一値

*CCSID

発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 発信データをマッピングするためにFTPクライアントによって使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLFTPIN)

FTPクライアントのすべての着信データをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。着信データはASCIIからEBCDICにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLFTPINに指定された場合には、そのテーブル・オブジェクトが着信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して着信マッピングが判別されます。

単一値

*CCSID

着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 受信ASCII/EBCDICテーブル

名前 着信データをマッピングするためにFTPクライアントによって使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

例

例1: IPv4インターネット・アドレスに対するFTPの開始

```
STRTCPFTP RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('1.2.3.4')
```

このコマンドは、IPv4アドレス「1.2.3.4」によって指定されるシステムに対してFTPクライアントを開始します。

例2: IPv6インターネット・アドレスに対するFTPの開始

```
STRTCPFTP RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('2001:D88::1')
```

このコマンドは、IPv6アドレス「2001:D88::1」により指定されるシステムに対してFTPクライアントを開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

TCP/IP スプール・ファイルの送信 (LPR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPスプール・ファイル送信(SNDTCPSPLF)コマンドは、リモート・システムで印刷するスプール・ファイルを送信します。リモート・システムはTCP/IPを実行中でなければなりません。SNDTCPSPLFコマンドは、TCP/IP LPR (ライン・プリンター要求元) コマンドのSystem iバージョンです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR	必須, 定位置 1
PRTQ	印刷装置待ち行列	文字値	必須, 定位置 2
FILE	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 3
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	0-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
DESTTYP	宛先タイプ	*AS400, *PSF2, *OTHER	オプション
TRANSFORM	SCSからASCIIへの変換	*YES, *NO	オプション
USRDTATFM	ユーザー・データの変換	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・データの変換	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MFRTPMDL	メーカーの機種型式	文字値, *IBM42011	オプション
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DLTSPLF	送信後にファイルを削除	*NO, *YES	オプション
DESTOPT	宛先従属オプション	文字値	オプション
SEPPAGE	区切りページの印刷	*NO, *YES	オプション

リモート・システム (RMTSYS)

印刷要求が送信されるリモート・システム名を指定します。

正常に行なうためには、その名前が有効であり、システムがローカル・システムと通信可能でなければなりません。ユーザーはIPアドレスに名前を割り当てることができます。TCP/IP構成メニュー(CFGTCPコマンド)の**TCP/IPホスト・テーブル項目の処理オプション**を使用してください。また、リモート・ネーム・サーバーは、IPアドレスにリモート・システム名をマップします。CFGTCPメニューの**リモート・ネーム・サーバー変更オプション**を使用して、リモート・ネーム・サーバーを指定することができます。

*INTNETADR

INTNETADRパラメーターの値が使用されます。

文字値 印刷要求が送信されるリモート・システム名を指定します。

印刷装置待ち行列 (PRTQ)

使用される宛先印刷装置待ち行列を指定します。

文字値 使用される宛先印刷装置待ち行列の名前を指定します。宛先システムがSystem iシステムの場合には、これは、スプール・ファイルが送られる先の出力待ち行列の名前です。

ライブラリー名の修飾子が指定されていない場合には、宛先システム上の送信元ユーザーIDのライブラリー・リストが検索されます。見つからないかまたは認可されていない場合には、QGPL/QPRINTが省略時の値として使用されます。出力待ち行列は通常、ライブラリー名/出力待ち行列名(たとえば、QGPL/OUTQ1)として指定されます。System iシステムでない宛先システムの場合には、この名前はシステム依存となります。この名前は、装置の実際の名前または装置の印刷待ち行列の名前のいずれかとすることができます。OS/2オペレーティング・システムで使用される名前は、その装置の実際の名前です。UNIXオペレーティング・システムで使用される名前は、その装置の印刷装置の待ち行列の名前であることがあります。このパラメーターは128桁に制限されています。

注: システムによっては、印刷装置の待ち行列名で大文字・小文字を区別することができます。印刷装置の待ち行列名の小文字を保存するためには、印刷装置の待ち行列名を単一引用符で囲んでください('MYPRTQ')。

スプール・ファイル (FILE)

指定されたシステムおよび印刷装置に送信されるスプール・ファイルを指定します。このファイル名は、スプール・ファイル処理(WRKSPLF)コマンドで表示されたものと同じファイル名です。

名前 送信されるスプール・ファイルの名前を指定します。

ジョブ名 (JOB)

送信するスプール・ファイルを作成したジョブを指定します。

単一値

* このコマンドを出したジョブが、スプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 スプール・ファイルを作成したジョブのユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

000000-999999

スプール・ファイルを作成したジョブのジョブ番号を指定します。

注: ジョブ番号またはユーザー名が指定されない場合には、ジョブ名との突き合わせのために、システム上で現在実行中のすべてのジョブが検索されます。

上

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

データ・レコードが送信されるジョブからのスプール・ファイルの番号を指定します。

*ONLY

ジョブからの1つのスプール・ファイルが指定されたファイル名をもちます。スプール・ファイルの番号は不要です。*ONLYが指定されて、複数のスプール・ファイルが指定されたファイル名をもっている場合には、エラー・メッセージが送信されます。

*LAST

最高値のスプール・ファイルと、指定されたファイル名が使用されます。

0-999999

そのデータ・レコードが送信される、指定されたファイル名をもつスプール・ファイルの番号を指定します。

上

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムを指定します。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル作成日およびスプール・ファイル作成時刻のジョブからの1つのスプール・ファイル。*ONLYが指定されていて、複数のスプール・ファイルに上記の情報が指定されていると、エラー・メッセージが送られます。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル作成日およびスプール・ファイル作成時刻の現行システム上のジョブ。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

上

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

システムでスプール・ファイルが作成された日付を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名パラメーター要件が満たされた後で考慮されます。

単一値

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のスプール・ファイルは1つだけです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つ最新の日時のスプール・ファイル。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

スプール・ファイル作成時刻は、システム上でスプール・ファイルが作成された時刻です。このパラメーターの最初の要素に日付が指定されている場合には、このパラメーターに値を設定しなければなりません。この作成時刻は、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の要件が満たされた後で考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、および作成日のスプール・ファイルは1つだけです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、および作成日の最新の時刻が使用されているスプール・ファイル。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

上

宛先タイプ (DESTTYP)

スプール・ファイルの送り先の宛先システムのタイプを指定します。この情報によって、SNDTCPSPLFコマンドは、宛先システムで最も適切に受信され処理される形式でファイルを送信することができます。他のSystem iシステムに送信する時には、このパラメーターは*AS400でなければなりません。

***OTHER**

宛先システムはSystem iシステムではなく、Print Services Facility/2も使用していません。

***AS400**

宛先システムはSystem iシステムです。TRANSFORM(*NO)が指定された場合には、スプール・ファイルの複写が宛先システム上に作成されます。スプール・ファイルが*SCSまたは*AFPDSで、TRANSFORM(*YES)が指定された場合には、スプール・ファイルはASCIIに変換され、宛先のSystem iシステム上で*USERASCIIとしてスプールされます。

***PSF2** 宛先システムはPrint Services Facility/2を使用しています。この宛先システムは、ASCIIデータと高機能印刷装置データ・ストリーム(AFPDS)のデータの両方を受信することができます。これは、ASCIIデータをPSF/2に送信できるだけでなく、装置タイプ*AFPDSのスプール・ファイルも送信できることを表します。*AFPDSファイルの送信の時には、ファイルの外部リソースについて考慮しなければなりません。ファイルを正しく印刷できるようにするためには、フォントやオーバーレイなどのこれらのリソースも宛先システム上になければなりません。

上

SCSからASCIIへの変換 (TRANSFORM)

SNA文字ストリング(SCS)または高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)をASCIIデータに変換するために、ホスト印刷変換機能を使用するかどうかを指定します。

注: TRANSFORM(*YES)を指定した場合には、ユーザーはUSRDTATFMパラメーターを使用することができません。

***YES** ホスト印刷変換機能を使用します。

***NO** ホスト印刷変換機能は使用しません。

上

ユーザー・データの変換 (USRDTATFM)

スプール・ファイル・データの変換に使用するプログラムを指定します。ユーザー・データ変換プログラムは、WRITER TRANSFORM EXIT PROGRAM INTERFACEに書き出されなければなりません。このインターフェースの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

単一値

***NONE**

データ変換プログラムは指定されません。

修飾子1: ユーザー・データの変換

名前 データ変換プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

メーカーの機種型式 (MFRTYPMDL)

ホスト印刷変換機能を使用する印刷装置のメーカー、タイプ、型式を指定します。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)パラメーターと一緒にMFRTYPMDLパラメーターを使用した場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトに指定された情報がMFRTYPMDLパラメーターに優先します。

*IBM42011

IBM 4201-1 PROPRINTERが使用されます。

メーカータイプ型式

ホスト印刷変換機能を使用する印刷装置のメーカー、タイプ、型式を指定します。その装置と一致する値の1つを指定します。可能な値の説明については、装置記述作成 (印刷装置) (CRTDEVPRT)コマンドのMFRTYPMDLパラメーターの資料を参照してください。

*WSCST

WSCSTパラメーターの値が使用されます。

上

IPアドレス (INTNETADR)

印刷要求が送信されるリモート・システムのIPアドレスを指定します。

このパラメーターへのアクセスは、RMTSYSパラメーターに*INTNETADRを入力するか、あるいはRMTSYSパラメーターをブランクにしたままで実行キーを押して行なわれます。

文字値 リモート・システムのIPアドレスを指定します。IPアドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定され、このNNNは0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分がすべて2進数1または2進数ゼロの値である場合には無効です。IPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーションまたは印刷装置など、指定のASCII装置のカスタマイズに使用される属性のテーブルで構成されているオブジェクトを指定します。文字の表現、フォント仕様、および制御キーの文字列などが、カスタマイズできる特性の例です。

メーカーの機種型式 (MFRTYPMDL)パラメーターと一緒にWSCSTパラメーターを使用した場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトに指定された情報がMFRTYPMDLパラメーターに優先します。

単一値

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定しません。

修飾子1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

名前 ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト作成(CRTWSCST)コマンドによって作成されたワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

送信後にファイルを削除 (DLTSPLF)

スプール・ファイルが正常に送信された後に、指定したスプール・ファイルを削除するかどうかを指定します。送信されたファイルの正しい印刷については保証できません。正しい送信だけは確認できます。

***NO** スプール・ファイルを正常に送信した後に、これを削除しません。

***YES** スプール・ファイルを正常に送信した後に、これを削除します。

上

宛先従属オプション (DESTOPT)

宛先従属オプションを指定します。これらのオプションは、LPD印刷サーバーの特定の実行方法に固有である場合があります。このパラメーターが指定されていないと、SNDTCPSPLFコマンドは、すべてのLPD印刷サーバーに共通の省略時のオプションを送信します。このパラメーターで指定されたオプションは、SNDTCPSPLFコマンドで生成された制御ファイルに1行当たり1オプションで挿入され、指定されたLPD印刷サーバーに送信されます。このパラメーターで指定されるオプションは、次の形式でなければなりません。

```
"OPTION1 OPTION2 OPTION3...OPTIONN"
```

ここで、各オプションは1つ以上の空白で次のオプションと区切られます。

代表的なオプションの形式は<制御文字><値>です。例は次の通りです。

```
"-OTITLE=LPR"
```

ここで、"-O"は制御文字であり、"TITLE=LPR"は値です。SNDTCPSPLFは、各オプションの最初の文字が予約された制御文字であるかどうかを調べます。次の制御文字は、SNDTCPSPLFによって判別される値として指定することはできません。次の制御文字のいずれかが指定された場合には、オプションは無視され、警告メッセージが生成されます。

C	T
H	U
I	W
L	1
M	2
N	3
P	4
S	K

たとえば、"C"制御文字はSNDTCPSPLFコマンドで使用するために予約されているので、"CLASS=ASCII"は使用可能ではありません。しかし、"-CLASS=ASCII"は使用可能です。

制御文字"X"は使用可能ですが、それと一緒に使用される"AS/400"の値が許されません。たとえば、"XMYLPD"は指定できますが、"XAS/400"は指定することができません。オプション"XAS/400"は、SNDTCPSPLFコマンドで使用するために予約されています。これは、要求がSystem iから入力されたことを別のSystem iに指示するために使用されます。

オプション"XAIX"は、複数コピーを印刷装置に送る方法を制御します。このオプションは、データ・ファイルおよび制御ファイルをそれぞれのコピーごとに1回ずつ複数回送ることを指定します。省略時の値は、制御ファイルの複数印刷コマンドによってデータ・ファイルおよび制御ファイルを1度送ります。

次の印刷"フィルター"は、SNDTCPSPLFによってサポートされています。(RFC 1179のセクション7を参照してください。)

C	N
D	P
F	R
G	T
L	V

これらの文字の1つを宛先オプションの最初の文字として指定した場合には、この文字は、制御ファイルの"ファイルの印刷"のコマンドで使用されます。これらの文字の1つで最初にあるものだけが制御ファイルで使用されます。この位置のこれらの文字で、この後にあるものは無視されます。これらのオプションがいずれも指定されない場合には、省略時の文字"1"が"ファイルの印刷"のコマンドで使用され、ファイルは制御文字のフィルター操作をせずに「現状のまま」印刷されます。

宛先オプションの最初の文字として"J"が指定された場合には、オプションの残りの文字は、バナー・ページの省略時のジョブ名を一時変更するために使用されます(RFC 1179,セクション7.4を参照)。たとえば、ジョブ名/NFFを指定するためには、次の通り指定してください。

```
DESTOPT('J/NFF')
```

このオプションの最初のオカレンスだけがジョブ名の一時変更で使用されます。このオプションが指定されない場合には、スプール・ファイル名はジョブ名として使用されます(省略時の値)。

SNDTCPSPLFコマンド(またはCRTOUTQコマンドかCHGOUTQコマンド)上の宛先従属オプションXAUTOQを使用することによって、自動待ち行列オプションを使用可能にできます。自動待ち行列オプションを使用すると、変換中にリモート・システムがタイムアウトにならない限りは、前の通りにファイルが送信されます。タイムアウトが起こった場合には、変換スプール・ファイルはSystem i LPDサーバーを使用して、同じ出力待ち行列に送り戻されます。リモート書き出しプログラムが実行中の時には、次に変換スプール・ファイルがリモート・システムに送られます。

文字値 宛先従属オプションを指定してください。

上

区切りページの印刷 (SEPPAGE)

リモート・システムでスプール・ファイルを印刷する時に、区切りページを要求するかどうかを指定します。

注: すべての場合に区切りページが印刷されないという訳ではありません。区切りページの印刷は、受信システムでのLPDの実行の際に、区切りページの要求が有効であるかどうかによって異なります。一部のLPDの実行ではSEPPAGEパラメーターが無視されて、省略時の値によって区切りページが印刷されるか、または印刷されないこともあります。

***YES** 区切りページを要求します。

***NO** 区切りページを要求しません。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

TCP3701

スプール・ファイル&1の送信要求が正常に実行されませんでした。

TCP3702

スプール・ファイル&1は認可されていない。

TCP3703

送信要求が正常に実行されなかった。スプール・ファイル&1はオープンされています。

TCP3704

送信要求が正常に実行されなかった。スプール・ファイル&1はスプール印刷ファイルではありません。

TCP3705

スプール・ファイル&1は変換されない。

TCP3706

スプール・ファイル&1は変換されない。

TCP3715

スプール・ファイル&1を削除する権限がない。スプール・ファイルは送信されました。

上

SMTPリスト項目の除去 (RMVSMTPLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SMTPリスト項目除去(RMVSMTPLE)コマンドは、SMTP構成リストから要素を除去するのに使用されます。これらのリストは、SMTP属性の変更(CHGSMTPA)コマンドを使用するか、あるいはSystem i5ナビゲーターのSMTPプロパティ・パネルから、使用可能または使用不可にすることができます。この変更が有効となるのは、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドによって、SMTPサーバーを次に開始した時点です。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	リスト・タイプ	*ACCEPT, *REJECT, *NEAR, *DOMAIN, *SVRBIND, *CLTBIND, *ETRNSVR, *FTRSUBJECT, *FTRORIGIN, *FTRFILENAME, *FTRTYPE, *HOSTAUTH	必須, 定位置 1
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, '255.255.255.255'	オプション
HOSTNAME	ホスト名	文字値	オプション
FTRDATA	データのフィルター操作	文字値	オプション

[トップ](#)

リスト・タイプ (TYPE)

要素を除去するリストを指定します。

*ACCEPT

選択したIPv4項目を中継受け入れリストから除去します。この値に有効なパラメーターはINTNETADRおよびSUBNETMASKです。

*REJECT

選択したIPv4項目を中継拒否リストから除去します。この値に有効なパラメーターはINTNETADRおよびSUBNETMASKです。

*NEAR

選択した項目を近接ドメイン・リストから除去します。この値に有効なパラメーターはHOSTNAMEです。

***DOMAIN**

選択したIPv4項目をドメイン・リストから除去します。この値に有効なパラメーターはHOSTNAMEおよびINTNETADRです。

***SVRBIND**

選択したIPv4項目をサーバー・バインド・リストから除去します。この値に有効なパラメーターはINTNETADRです。

***CLTBIND**

選択したIPv4項目をクライアント・バインド・リストから除去します。この値に有効なパラメーターはINTNETADRです。

***ETRNSVR**

選択した項目をETRNサーバー・リストから除去します。この値に有効なパラメーターはHOSTNAMEです。

***FTRSUBJECT**

選択した項目をサブジェクト比較リストから除去します。この値に有効なパラメーターはFTRDATAです。

***FTRORIGIN**

選択した項目を発信元アドレス比較リストから除去します。この値に有効なパラメーターはFTRDATAです。

***FTRFILENAME**

選択した項目をファイル名／拡張子比較リストから除去します。この値に有効なパラメーターはFTRDATAです。

***FTRTYPE**

選択した項目をタイプ／サブタイプ比較リストから除去します。この値に有効なパラメーターはFTRDATAです。

***HOSTAUTH**

選択した項目をホスト・ログオン比較リストから除去します。この値に有効なパラメーターはHOSTNAMEです。

***ACCEPTIP6**

選択したIPv6項目を中継受け入れリストから除去します。この値に有効なパラメーターはIP6PFXです。

***REJECTIP6**

選択したIPv6項目を中継拒否リストから除去します。この値に有効なパラメーターはIP6PFXです。

***DOMAINIP6**

選択したIPv6項目をドメイン・リストから除去します。この値に有効なパラメーターはIP6NETADRおよびHOSTNAMEです。

***SVRBINDIP6**

選択したIPv6項目をサーバー・バインド・リストから除去します。この値に有効なパラメーターはIP6NETADRです。

***CLTBINDIP6**

選択したIPv6項目をクライアント・バインド・リストから除去します。この値に有効なパラメーターはIP6NETADRです。

トップ

IPv4アドレス (INETADR)

指定されたリストから除去するIPアドレスを指定します。このアドレスはドット付き10進形式でなければなりません。最大15桁まで指定することができます。

[トップ](#)

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

IPアドレスで使用するマスクを指定します。

255.255.255.255

この値は単一アドレス値のみを選択します。

SUBNET-MASK

IPアドレスで使用するマスク。最大15桁まで指定することができます。有効なマスクの値は、128.0.0.0 - 255.255.255.255です。

[トップ](#)

ホスト名 (HOSTNAME)

リストから除去するホスト名を指定します。最大255文字を指定することができます。

[トップ](#)

データのフィルター操作 (FTRDATA)

フィルター操作で一致した場合に除去するデータを指定します。最大512桁まで指定することができます。

[トップ](#)

例

例1:中継受け入れリストからの要素の除去

```
RMVSMTPLD TYPE(*ACCEPT) INETADR('1.2.3.4')
```

このコマンドはネットマスク255.255.255.255でアドレス1.2.3.4を除去します。これは、他のサーバーへのメールを中継するためにこのアドレスを使用してSMTPサーバーに接続できないことを意味します。

例2:サブジェクト・フィルター・リストからの要素の除去

```
RMVSMTPLD TYPE(*FTRSUBJECT) FTRDATA('LOVE YOU.')
```

このコマンドは、サブジェクト・フィルター・リストから要素を除去します。サブジェクト「LOVE YOU.」のメールはチェックされません。

例3:ホスト認証リストからの要素の除去

```
RMVSMTPLD TYPE(*HOSTAUTH) HOSTNAME('xyz.com')
```

このコマンドは、ホスト・ログオン・リストから要素を除去します。SMTPサーバーはホスト'xyz.com'にログオンできるようになりません。

例4:中継受け入れリストからの1つのIPv6要素の除去

```
RMVSMTPLD TYPE(*ACCEPTIP6) IP6PFX('2001:DB8::1')
```

このコマンドは、IPv6アドレス2001:DB8::1を中継受け入れリストから除去します。

例5:中継受け入れリストからのIPv6接頭部要素の除去

```
RMVSMTPLD TYPE(*ACCEPTIP6) IP6PFX('2001:DB8::/32')
```

このコマンドは、IPv6接頭部2001:DB8::/32を中継受け入れリストから除去します。

例6:サーバー・バインド・リストからのIPv6アドレス要素の除去

```
RMVSMTPLD TYPE(*SVRBINDIP6) IP6NETADR('2001:DB8::1')
```

このコマンドは、IPv6アドレス2001:DB8::1をサーバー・バインド・リストから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP1903

指定されたホスト名が正しくない。

TCP264F

SUBNETMASKパラメーターの値&2が正しくない。

TCP265F

INTNETADRパラメーターの値&2が正しくない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP96AD

SMTPリスト・タイプ&1に項目が見つからない。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

[トップ](#)

VTキーボード・マップの設定 (SETVTMAP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

VTキーボード・マップの設定(SETVTMAP)コマンドは、TELNET VT100またはVT220サーバー・セッション時に使用されるキーボード・マッピング値を設定します。特殊値を使用して複数のOS/400機能を指定することはできません。このコマンドの実行時に指定されなかったパラメーターが、元のシステム値の省略時の値として使用されます。

このコマンドに指定できるVTキーの値は次の通りです。

*BACKSPC	(後退)
*CSRDOWN	(カーソル下)
*CSRLEFT	(カーソル左)
*CSRRIGHT	(カーソル右)
*CSRUP	(カーソル上)
*CTLA-*CTLG	(Ctrl-AからCtrl-G)
*CTLK-*CTLL	(Ctrl-KからCtrl-L)
*CTLN-*CTLZ	(Ctrl-NからCtrl-Z)
*CTLBSL	(Ctrl-逆スラッシュ)
*CTLLBKT	(Ctrl-左大括弧)
*CTLQST	(Ctrl-疑問符)
*CTLRBKT	(Ctrl-右大括弧)
*CTLSPC	(Ctrl-スペース)
*CTLTILDA	(Ctrl-波形記号)
*DLT	(削除)
*ESCA-*ESCZ	(Esc-0を除くEsc-AからEsc-Z)
*ESC0-*ESC9	(Esc-0からEsc-9)
*ESCAP	(Esc-アンパサンド)
*ESCAST	(Esc-アスタリスク)
*ESCAT	(Esc-単価記号)
*ESCCFX	(Esc-曲折アクセント記号)
*ESCDLT	(Esc-削除)
*ESCDOLLAR	(Esc-ドル)
*ESCEQ	(Esc-等号)
*ESCEXCL	(Esc-感嘆符)
*ESCLF	(Esc-行送り)
*ESCLPAR	(Esc-左括弧)
*ESCMINUS	(Esc-マイナス)
*ESCPCT	(Esc-パーセント)
*ESCPLUS	(Esc-プラス)
*ESCPOUND	(Esc-ポンド)
*ESCQST	(Esc-疑問符)
*ESCRPAR	(Esc-右括弧)
*ESCTAB	(Esc-タブ)
*ESCUS	(Esc-下線)
*FIND	(検索)
*F1-*F20	(F1からF20)
*INS	(ここに挿入)
*LF	(行送り)
*NXTSCR	(次画面)
*PF1-*PF4	(PF1からPF4)
*PRVSCR	(前画面)
*RETURN	(戻り)
*RMV	(除去)
*SELECT	(選択)
*TAB	(タブ)

注: 一部のVT100およびVT220 TELNETシステムでは、フローを制御するためにCtrl-SおよびCtrl-Qを使用します。これは通常、XON/XOFFフロー制御と言われます。XON/XOFFが使用可能なクライアント・システムを使用している場合には、ユーザーのキーボード・マッピングで*CTLSおよび*CTLQを使用しないでください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ATTN	5250アテンション	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
HELP	5250 HELP	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
DOWN	次ページ	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
UP	前ページ	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
SYSREQ	システム要求	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
INSERT	挿入	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
DELETE	削除	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
ENTER	実行キー	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
BACKSPC	後退	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
DUP	複写	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
ERSINP	入力の消去	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
RESET	取り消し	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FLDEXIT	FIELD EXIT	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FLDMINUS	FIELD-	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
HOME	HOME	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
NEWLINE	改行	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
PRINT	ページ印刷	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FLDADV	フィールド前進	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FLDBACK	フィールド後退	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CSRUP	カーソル上	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CSRDOWN	カーソル下	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CSRLEFT	カーソル左	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CSRRIGHT	カーソル右	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CLEAR	画面消去	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
TSTREQ	テスト要求	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
TOGGLE	切り替え表示ライト	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
REDRAW	画面再描画	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F1	F1	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F2	F2	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F3	F3	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F4	F4	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F5	F5	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F6	F6	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F7	F7	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F8	F8	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F9	F9	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
F10	F10	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F11	F11	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F12	F12	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F13	F13	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F14	F14	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F15	F15	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F16	F16	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F17	F17	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F18	F18	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F19	F19	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F20	F20	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F21	F21	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F22	F22	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F23	F23	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
F24	F24	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション

上

5250アテンション (ATTN)

5250アテンション・キーにマップされるVTキーを指定します。

上

5250 HELP (HELP)

5250 HELPキーにマップされるVTキーを指定します。

上

次ページ (DOWN)

次ページ・キーにマップされるVTキーを指定します。

上

前ページ (UP)

前ページ・キーにマップされるVTキーを指定します。

上

システム要求 (SYSREQ)

システム要求キーにマップされるVTキーを指定します。

上

挿入 (INSERT)

5250挿入キーにマップされるVTキーを指定します。

上

削除 (DELETE)

5250削除キーにマップされるVTキーを指定します。

上

実行キー (ENTER)

実行キーにマップされるVTキーを指定します。

上

後退 (BACKSPC)

文字後退キーにマップされるVTキーを指定します。

上

複写 (DUP)

5250複写キーにマップされるVTキーを指定します。

上

入力の消去 (ERSINP)

5250入力消去キーにマップされるVTキーを指定します。

上

取り消し (RESET)

取り消しキーにマップされるVTキーを指定します。

上

FIELD EXIT (FLDEXIT)

FIELD EXITキーにマップされるVTキーを指定します。

上

FIELD- (FLDMINUS)

FIELD-キーにマップされるVTキーを指定します。

上

HOME (HOME)

5250カーソル・ホーム・キーにマップされるVTキーを指定します。

上

改行 (NEWLINE)

5250改行キーにマップされるVTキーを指定します。

上

ページ印刷 (PRINT)

5250ページ印刷キーにマップされるVTキーを指定します。

上

フィールド前進 (FLDADV)

フィールド前進キーにマップされるVTキーを指定します。

上

フィールド後退 (FLDBACK)

フィールド後退キーにマップされるVTキーを指定します。

上

カーソル上 (CSRUP)

カーソル上（↑）キーにマップされるVTキーを指定します。

上

カーソル下 (CSRDOWN)

カーソル下 (↓) キーにマップされるVTキーを指定します。

上

カーソル左 (CSRLEFT)

カーソル左 (←) キーにマップされるVTキーを指定します。

上

カーソル右 (CSRRIGHT)

カーソル右 (→) キーにマップされるVTキーを指定します。

上

画面消去 (CLEAR)

画面消去キーにマップされるVTキーを指定します。

上

テスト要求 (TSTREQ)

テスト要求キーにマップされるVTキーを指定します。

上

切り替え表示ライト (TOGGLE)

表示装置のエミュレーション標識ライトを切り替えるVTキーを指定します。

上

画面再描画 (REDRAW)

現行画面が再描出されることになるVTキーを指定します。

上

F1 (F1)

5250機能キーにマップされるVT F1キーを指定します。

注: VT220キーボードでは、F1キーを使用することはできません。しかし、多くのVT220エミュレーターは、F1キーが押されると、16進数値を送信します。

F2 (F2)

5250機能キーにマップされるVT F2キーを指定します。

注: VT220キーボードでは、F2キーを使用することはできません。しかし、多くのVT220エミュレーターは、F2キーが押されると、16進数値を送信します。

上

F3 (F3)

5250機能キーにマップされるVT F3キーを指定します。

注: VT220キーボードでは、F3キーを使用することはできません。しかし、多くのVT220エミュレーターは、F3キーが押されると、16進数値を送信します。

上

F4 (F4)

5250機能キーにマップされるVT F4キーを指定します。

注: VT220キーボードでは、F4キーを使用することはできません。しかし、多くのVT220エミュレーターは、F4キーが押されると、16進数値を送信します。

上

F5 (F5)

5250機能キーにマップされるVT F5キーを指定します。

注: VT220キーボードでは、F5キーを使用することはできません。しかし、多くのVT220エミュレーターは、F5キーが押されると、16進数値を送信します。

上

F6 (F6)

5250機能キーにマップされるVT F6キーを指定します。

上

F7 (F7)

5250機能キーにマップされるVT F7キーを指定します。

上

F8 (F8)

5250機能キーにマップされるVT F8キーを指定します。

上

F9 (F9)

5250機能キーにマップされるVT F9キーを指定します。

上

F10 (F10)

5250機能キーにマップされるVT F10キーを指定します。

上

F11 (F11)

5250機能キーにマップされるVT F11キーを指定します。

上

F12 (F12)

5250機能キーにマップされるVT F12キーを指定します。

上

F13 (F13)

5250機能キーにマップされるVT F13キーを指定します。

上

F14 (F14)

5250機能キーにマップされるVT F14キーを指定します。

上

F15 (F15)

5250機能キーにマップされるVT F15キーを指定します。

上

F16 (F16)

5250機能キーにマップされるVT F16キーを指定します。

上

F17 (F17)

5250機能キーにマップされるVT F17キーを指定します。

上

F18 (F18)

5250機能キーにマップされるVT F18キーを指定します。

上

F19 (F19)

5250機能キーにマップされるVT F19キーを指定します。

上

F20 (F20)

5250機能キーにマップされるVT F20キーを指定します。

上

F21 (F21)

5250機能キーにマップされるVT F21キーを指定します。

上

F22 (F22)

5250機能キーにマップされるVT F22キーを指定します。

上

F23 (F23)

5250機能キーにマップされるVT F23キーを指定します。

上

F24 (F24)

5250機能キーにマップされるVT F24キーを指定します。

上

例

```
SETVTMAP DOWN(*F8) UP(*F7)
```

このコマンドは、5250次ページ（ロールアップ）キーをF8機能キーに、5250前ページ（ロールダウン）キーをF7機能キーに、VTキー・マッピングを設定します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1340

この装置に&1コマンドを使用することはできない。

TCP1341

複数の機能に値&1が指定された。

TCP1342

値&1は正しくない。

TCP6B12

プログラム&1で内部システム・エラーが起こった。

上

VTマッピング・テーブルの設定 (SETVTTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

VTマッピング・テーブル設定(SETVTTBL)コマンドは、現行TELNETセッションのASCII全画面マッピングを設定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *MULTINAT, *BRITISH, *DUTCH, *FINNISH, *FRENCH, *FRENCHCAN, *GERMAN, *ITALIAN, *NORDAN, *SPANISH, *SWEDISH, *SWISS	オプション、位置 1
TBLVTOUT	発信EBCDIC/ASCIIテーブル	単一値: *CCSID, *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 発信 EBCDIC/ASCIIテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBLVTIN	受信ASCII/EBCDICテーブル	単一値: *CCSID, *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受信 ASCII/EBCDICテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

VT100またはVT220端末で使用するASCII文字コード化を識別するコード化文字セット識別コードを指定します。

現行の TELNETセッションだけの省略時のマッピングを変更するためには、CCSID値を使用してください。このマッピングは、TBLVTOUTおよびTBLVTINパラメーターに定義されたマッピング・テーブルによって任意に実行することができます。TBLVTOUTおよびTBLVTINパラメーターは、*CCSIDの省略時の値をもちます。*CCSIDの省略時の値は、マッピングがCCSIDパラメーターによって判別されることを示します。マッピング・テーブルが発信マッピングに使用される場合には、TBLVTOUTパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することができます。TBLVTOUTパラメーターに指定されたテーブル・オブジェクトは、CCSID値の代わりに使用されます。

着信マッピングは、TBLVTINパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することによって変更することができます。このマッピング・テーブルは、指定されたCCSID値を一時変更して、着信マッピングに使用されます。

***MULTINAT**

DIGITAL EQUIPMENT COMPANY (DEC)の各国間共通文字セットが使用されています。

***BRITISH**

DEC英語置き換え文字を使用しています。

***DUTCH**

DECオランダ語置き換え文字を使用しています。

***FINNISH**

DECフィンランド語置き換え文字を使用しています。

***FRENCH**

DECフランス語置き換え文字を使用しています。

***FRENCHCAN**

DECカナダ・フランス語置き換え文字を使用しています。

***GERMAN**

DECドイツ語置き換え文字を使用しています。

***ITALIAN**

DECイタリア語置き換え文字を使用しています。

***NORDAN**

DECノルウェー語／デンマーク語置き換え文字を使用しています。

***SPANISH**

DECスペイン語置き換え文字を使用しています。

***SWEDISH**

DECスウェーデン語置き換え文字を使用しています。

***SWISS**

DECスイス語置き換え文字を使用しています。

1-65533

要求されたCCSID値が使用されます。有効なASCII CCSIDが要求されたことを確認するために、この値の妥当性検査が行われます。

注: 指定できる値は、ISO 7ビットおよびISO 8ビットのASCII CCSID値だけです。

[トップ](#)

発信EBCDIC/ASCIIテーブル (TBLVTOUT)

VT100またはVT220全画面モード時に発信TELNETデータをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。すべての発信データはEBCDICからASCIIにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLVTOUTパラメーターに指定された場合には、テーブル・オブジェクトが発信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して発信マッピングが判別されます。

単一値

***CCSID**

使用されるテーブル・オブジェクトは、CCSIDパラメーターおよびユーザーの現行の言語を使用して判別されます。

***DFT** 省略時のEBCDIC - ASCIIマッピングが使用されます。TELNET属性の変更(CHGTELNA)コマンドのTBLVTOOUTパラメーターに指定された値がここで使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 発信TELNETデータのマッピングに使用されるテーブル・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 発信マッピング・テーブルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

発信マッピング・テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 発信マッピング・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLVTIN)

VT100またはVT220全画面モード時にすべての着信TELNETデータをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。すべての着信データはASCIIからEBCDICにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLVTINに指定された場合には、テーブル・オブジェクトが着信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して着信マッピングが判別されます。

単一値

***CCSID**

使用されるテーブル・オブジェクトは、CCSIDパラメーターおよびユーザーの現行の言語を使用して判別されます。

***DFT** 省略時のASCII - EBCDICマッピング・テーブルが使用されます。TELNET属性の変更(CHGTELNA)コマンドのTBLVTINパラメーターに指定された値がここで使用されます。

修飾子1: 受信ASCII/EBCDICテーブル

名前 着信TELNETデータのマッピングに使用されるテーブル・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 着信マッピング・テーブルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

着信マッピング・テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 着信マッピング・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

例

SETVTTBL TBLVTOUT(*DFT) TBLVTIN(*DFT)

このコマンドは、EBCDIC - ASCIIおよびASCII - EBCDICマッピング・テーブルを、TELNET属性変更(CHGTELNA)コマンドのTBLVTOUTおよびTBLVTINパラメーターで現在指定されている値に設定します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

トップ

TCP/IP スプール・ファイルの送信 (SNDTCPSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPスプール・ファイル送信(SNDTCPSPLF)コマンドは、リモート・システムで印刷するスプール・ファイルを送信します。リモート・システムはTCP/IPを実行中でなければなりません。SNDTCPSPLFコマンドは、TCP/IP LPR (ライン・プリンター要求元) コマンドのSystem iバージョンです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR	必須, 定位置 1
PRTQ	印刷装置待ち行列	文字値	必須, 定位置 2
FILE	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 3
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	0-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
DESTTYP	宛先タイプ	*AS400, *PSF2, *OTHER	オプション
TRANSFORM	SCSからASCIIへの変換	*YES, *NO	オプション
USRDTATFM	ユーザー・データの変換	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・データの変換	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MFRTPMDL	メーカーの機種型式	文字値, *IBM42011	オプション
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DLTSPLF	送信後にファイルを削除	*NO, *YES	オプション
DESTOPT	宛先従属オプション	文字値	オプション
SEPPAGE	区切りページの印刷	*NO, *YES	オプション

リモート・システム (RMTSYS)

印刷要求が送信されるリモート・システム名を指定します。

正常に行なうためには、その名前が有効であり、システムがローカル・システムと通信可能でなければなりません。ユーザーはIPアドレスに名前を割り当てることができます。TCP/IP構成メニュー(CFGTCPコマンド)の**TCP/IPホスト・テーブル項目の処理**オプションを使用してください。また、リモート・ネーム・サーバーは、IPアドレスにリモート・システム名をマップします。CFGTCPメニューの**リモート・ネーム・サーバー変更**オプションを使用して、リモート・ネーム・サーバーを指定することができます。

*INTNETADR

INTNETADRパラメーターの値が使用されます。

文字値 印刷要求が送信されるリモート・システム名を指定します。

印刷装置待ち行列 (PRTQ)

使用される宛先印刷装置待ち行列を指定します。

文字値 使用される宛先印刷装置待ち行列の名前を指定します。宛先システムがSystem iシステムの場合には、これは、スプール・ファイルが送られる先の出力待ち行列の名前です。

ライブラリー名の修飾子が指定されていない場合には、宛先システム上の送信元ユーザーIDのライブラリー・リストが検索されます。見つからないかまたは認可されていない場合には、QGPL/QPRINTが省略時の値として使用されます。出力待ち行列は通常、ライブラリー名/出力待ち行列名(たとえば、QGPL/OUTQ1)として指定されます。System iシステムでない宛先システムの場合には、この名前はシステム依存となります。この名前は、装置の実際の名前または装置の印刷待ち行列の名前のいずれかとすることができます。OS/2オペレーティング・システムで使用される名前は、その装置の実際の名前です。UNIXオペレーティング・システムで使用される名前は、その装置の印刷装置の待ち行列の名前であることがあります。このパラメーターは128桁に制限されています。

注: システムによっては、印刷装置の待ち行列名で大文字・小文字を区別することができます。印刷装置の待ち行列名の小文字を保存するためには、印刷装置の待ち行列名を単一引用符で囲んでください('MYPRTQ')。

スプール・ファイル (FILE)

指定されたシステムおよび印刷装置に送信されるスプール・ファイルを指定します。このファイル名は、スプール・ファイル処理(WRKSPLF)コマンドで表示されたものと同じファイル名です。

名前 送信されるスプール・ファイルの名前を指定します。

ジョブ名 (JOB)

送信するスプール・ファイルを作成したジョブを指定します。

単一値

* このコマンドを出したジョブが、スプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 スプール・ファイルを作成したジョブのユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

000000-999999

スプール・ファイルを作成したジョブのジョブ番号を指定します。

注: ジョブ番号またはユーザー名が指定されない場合には、ジョブ名との突き合わせのために、システム上で現在実行中のすべてのジョブが検索されます。

上

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

データ・レコードが送信されるジョブからのスプール・ファイルの番号を指定します。

*ONLY

ジョブからの1つのスプール・ファイルが指定されたファイル名をもちます。スプール・ファイルの番号は不要です。*ONLYが指定されて、複数のスプール・ファイルが指定されたファイル名をもっている場合には、エラー・メッセージが送信されます。

*LAST

最高値のスプール・ファイルと、指定されたファイル名が使用されます。

0-999999

そのデータ・レコードが送信される、指定されたファイル名をもつスプール・ファイルの番号を指定します。

上

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムを指定します。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル作成日およびスプール・ファイル作成時刻のジョブからの1つのスプール・ファイル。*ONLYが指定されていて、複数のスプール・ファイルに上記の情報が指定されていると、エラー・メッセージが送られます。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル作成日およびスプール・ファイル作成時刻の現行システム上のジョブ。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

上

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

システムでスプール・ファイルが作成された日付を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名パラメーター要件が満たされた後で考慮されます。

単一値

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のスプール・ファイルは1つだけです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つ最新の日時のスプール・ファイル。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

スプール・ファイル作成時刻は、システム上でスプール・ファイルが作成された時刻です。このパラメーターの最初の要素に日付が指定されている場合には、このパラメーターに値を設定しなければなりません。この作成時刻は、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の要件が満たされた後で考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、および作成日のスプール・ファイルは1つだけです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、および作成日の最新の時刻が使用されているスプール・ファイル。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

上

宛先タイプ (DESTTYP)

スプール・ファイルの送り先の宛先システムのタイプを指定します。この情報によって、SNDTCPSPLFコマンドは、宛先システムで最も適切に受信され処理される形式でファイルを送信することができます。他のSystem iシステムに送信する時には、このパラメーターは*AS400でなければなりません。

***OTHER**

宛先システムはSystem iシステムではなく、Print Services Facility/2も使用していません。

***AS400**

宛先システムはSystem iシステムです。TRANSFORM(*NO)が指定された場合には、スプール・ファイルの複写が宛先システム上に作成されます。スプール・ファイルが*SCSまたは*AFPDSで、TRANSFORM(*YES)が指定された場合には、スプール・ファイルはASCIIに変換され、宛先のSystem iシステム上で*USERASCIIとしてスプールされます。

***PSF2** 宛先システムはPrint Services Facility/2を使用しています。この宛先システムは、ASCIIデータと高機能印刷装置データ・ストリーム(AFPDS)のデータの両方を受信することができます。これは、ASCIIデータをPSF/2に送信できるだけでなく、装置タイプ*AFPDSのスプール・ファイルも送信できることを表します。*AFPDSファイルの送信の時には、ファイルの外部リソースについて考慮しなければなりません。ファイルを正しく印刷できるようにするためには、フォントやオーバーレイなどのこれらのリソースも宛先システム上になければなりません。

上

SCSからASCIIへの変換 (TRANSFORM)

SNA文字ストリング(SCS)または高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)をASCIIデータに変換するために、ホスト印刷変換機能を使用するかどうかを指定します。

注: TRANSFORM(*YES)を指定した場合には、ユーザーはUSRDTATFMパラメーターを使用することができません。

***YES** ホスト印刷変換機能を使用します。

***NO** ホスト印刷変換機能は使用しません。

上

ユーザー・データの変換 (USRDTATFM)

スプール・ファイル・データの変換に使用するプログラムを指定します。ユーザー・データ変換プログラムは、WRITER TRANSFORM EXIT PROGRAM INTERFACEに書き出されなければなりません。このインターフェースの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

単一値

***NONE**

データ変換プログラムは指定されません。

修飾子1: ユーザー・データの変換

名前 データ変換プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

メーカーの機種型式 (MFRTYPMDL)

ホスト印刷変換機能を使用する印刷装置のメーカー、タイプ、型式を指定します。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)パラメーターと一緒にMFRTYPMDLパラメーターを使用した場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトに指定された情報がMFRTYPMDLパラメーターに優先します。

*IBM42011

IBM 4201-1 PROPRINTERが使用されます。

メーカータイプ型式

ホスト印刷変換機能を使用する印刷装置のメーカー、タイプ、型式を指定します。その装置と一致する値の1つを指定します。可能な値の説明については、装置記述作成 (印刷装置) (CRTDEVPRT)コマンドのMFRTYPMDLパラメーターの資料を参照してください。

*WSCST

WSCSTパラメーターの値が使用されます。

上

IPアドレス (INTNETADR)

印刷要求が送信されるリモート・システムのIPアドレスを指定します。

このパラメーターへのアクセスは、RMTSYSパラメーターに*INTNETADRを入力するか、あるいはRMTSYSパラメーターをブランクにしたままで実行キーを押して行なわれます。

文字値 リモート・システムのIPアドレスを指定します。IPアドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定され、このNNNは0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分がすべて2進数1または2進数ゼロの値である場合には無効です。IPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーションまたは印刷装置など、指定のASCII装置のカスタマイズに使用される属性のテーブルで構成されているオブジェクトを指定します。文字の表現、フォント仕様、および制御キーの文字列などが、カスタマイズできる特性の例です。

メーカーの機種型式 (MFRTYPMDL)パラメーターと一緒にWSCSTパラメーターを使用した場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトに指定された情報がMFRTYPMDLパラメーターに優先します。

単一値

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定しません。

修飾子1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

名前 ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト作成(CRTWSCST)コマンドによって作成されたワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

送信後にファイルを削除 (DLTSPLF)

スプール・ファイルが正常に送信された後に、指定したスプール・ファイルを削除するかどうかを指定します。送信されたファイルの正しい印刷については保証できません。正しい送信だけは確認できます。

***NO** スプール・ファイルを正常に送信した後に、これを削除しません。

***YES** スプール・ファイルを正常に送信した後に、これを削除します。

上

宛先従属オプション (DESTOPT)

宛先従属オプションを指定します。これらのオプションは、LPD印刷サーバーの特定の実行方法に固有である場合があります。このパラメーターが指定されていないと、SNDTCPSPLFコマンドは、すべてのLPD印刷サーバーに共通の省略時のオプションを送信します。このパラメーターで指定されたオプションは、SNDTCPSPLFコマンドで生成された制御ファイルに1行当たり1オプションで挿入され、指定されたLPD印刷サーバーに送信されます。このパラメーターで指定されるオプションは、次の形式でなければなりません。

```
"OPTION1 OPTION2 OPTION3...OPTIONN"
```

ここで、各オプションは1つ以上の空白で次のオプションと区切られます。

代表的なオプションの形式は<制御文字><値>です。例は次の通りです。

```
"-OTITLE=LPR"
```

ここで、"-O"は制御文字であり、"TITLE=LPR"は値です。SNDTCPSPLFは、各オプションの最初の文字が予約された制御文字であるかどうかを調べます。次の制御文字は、SNDTCPSPLFによって判別される値として指定することはできません。次の制御文字のいずれかが指定された場合には、オプションは無視され、警告メッセージが生成されます。

C	T
H	U
I	W
L	1
M	2
N	3
P	4
S	K

たとえば、"C"制御文字はSNDTCPSPLFコマンドで使用するために予約されているので、"CLASS=ASCII"は使用可能ではありません。しかし、"-CLASS=ASCII"は使用可能です。

制御文字"X"は使用可能ですが、それと一緒に使用される"AS/400"の値が許されません。たとえば、"XMYLPD"は指定できますが、"XAS/400"は指定することができません。オプション"XAS/400"は、SNDTCPSPLFコマンドで使用するために予約されています。これは、要求がSystem iから入力されたことを別のSystem iに指示するために使用されます。

オプション"XAIX"は、複数コピーを印刷装置に送る方法を制御します。このオプションは、データ・ファイルおよび制御ファイルをそれぞれのコピーごとに1回ずつ複数回送ることを指定します。省略時の値は、制御ファイルの複数印刷コマンドによってデータ・ファイルおよび制御ファイルを1度送ります。

次の印刷"フィルター"は、SNDTCPSPLFによってサポートされています。(RFC 1179のセクション7を参照してください。)

C	N
D	P
F	R
G	T
L	V

これらの文字の1つを宛先オプションの最初の文字として指定した場合には、この文字は、制御ファイルの"ファイルの印刷"のコマンドで使用されます。これらの文字の1つで最初にあるものだけが制御ファイルで使用されます。この位置のこれらの文字で、この後にあるものは無視されます。これらのオプションがいずれも指定されない場合には、省略時の文字"1"が"ファイルの印刷"のコマンドで使用され、ファイルは制御文字のフィルター操作をせずに「現状のまま」印刷されます。

宛先オプションの最初の文字として"J"が指定された場合には、オプションの残りの文字は、バナー・ページの省略時のジョブ名を一時変更するために使用されます(RFC 1179,セクション7.4を参照)。たとえば、ジョブ名/NFFを指定するためには、次の通り指定してください。

```
DESTOPT('J/NFF')
```

このオプションの最初のオカレンスだけがジョブ名の一時変更で使用されます。このオプションが指定されない場合には、スプール・ファイル名はジョブ名として使用されます(省略時の値)。

SNDTCPSPLFコマンド(またはCRTOUTQコマンドかCHGOUTQコマンド)上の宛先従属オプションXAUTOQを使用することによって、自動待ち行列オプションを使用可能にできます。自動待ち行列オプションを使用すると、変換中にリモート・システムがタイムアウトにならない限りは、前の通りにファイルが送信されます。タイムアウトが起こった場合には、変換スプール・ファイルはSystem i LPDサーバーを使用して、同じ出力待ち行列に送り戻されます。リモート書き出しプログラムが実行中の時には、次に変換スプール・ファイルがリモート・システムに送られます。

文字値 宛先従属オプションを指定してください。

上

区切りページの印刷 (SEPPAGE)

リモート・システムでスプール・ファイルを印刷する時に、区切りページを要求するかどうかを指定します。

注: すべての場合に区切りページが印刷されないという訳ではありません。区切りページの印刷は、受信システムでのLPDの実行の際に、区切りページの要求が有効であるかどうかによって異なります。一部のLPDの実行ではSEPPAGEパラメーターが無視されて、省略時の値によって区切りページが印刷されるか、または印刷されないこともあります。

***YES** 区切りページを要求します。

***NO** 区切りページを要求しません。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

TCP3701

スプール・ファイル&1の送信要求が正常に実行されませんでした。

TCP3702

スプール・ファイル&1は認可されていない。

TCP3703

送信要求が正常に実行されなかった。スプール・ファイル&1はオープンされています。

TCP3704

送信要求が正常に実行されなかった。スプール・ファイル&1はスプール印刷ファイルではありません。

TCP3705

スプール・ファイル&1は変換されない。

TCP3706

スプール・ファイル&1は変換されない。

TCP3715

スプール・ファイル&1を削除する権限がない。スプール・ファイルは送信されました。

上

TCP/IPファイル転送の開始 (STRTCPFTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPファイル転送プロトコル開始(STRTCPFTP)コマンドは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)を使用してシステム間でファイルを転送するファイル転送プロトコル(FTP)クライアント・アプリケーションを開始するために使用されます。FTPは、リモート・システムとの間のファイル転送に使用されるアプリケーション・プロトコルです。FTPでは、リモート・システムのファイルにアクセスするためにユーザー識別コードが必要であり、また、場合によってはパスワードが必要です。

パラメーターのマッピング: データのマッピングは、EBCDICサブコマンドまたはBINARYサブコマンドが有効となっている場合を除き、ローカル・システムとリモート・システムの間すべてのデータ（たとえば、ユーザー・データおよびプロトコル・データ情報）に対して使用されます。これらの場合には、ユーザー・ファイル・データのマッピングは行なわれません。

FTP属性変更(CHGFTP)コマンドを使用して、FTPのサーバー・マッピング・テーブルを指定することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSYS	リモート・システム	文字値、*INTNETADR	必須、定位置 1
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533、*DFT	オプション
PORT	ポート	1-65535、*DFT、*SECURE	オプション
SECCNN	保護接続	*DFT、*NONE、*SSL、*IMPLICIT	オプション
DTAPROT	データ保護	*DFT、*CLEAR、*PRIVATE	オプション
TBLFTPOUT	発信EBCDIC/ASCIIテーブル	単一値: *CCSID、*DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 発信 EBCDIC/ASCIIテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、*LIBL、*CURLIB	
TBLFTPIN	受信ASCII/EBCDICテーブル	単一値: *CCSID、*DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受信 ASCII/EBCDICテーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、*LIBL、*CURLIB	

[トップ](#)

リモート・システム (RMTSYS)

ファイルの転送を行なうリモート・システム名を指定します。正常に実行するためには、リモート・システム名は有効なもので、システムはそのローカル・システムと通信できなければなりません。TCP/IPの構成メニュー (CFGTCPコマンド) のTCP/IP ホスト・テーブル項目処理オプションでIPアドレスに名前を割り当てることができます。また、リモート・ネーム・サーバーを使用して、リモート・システム名をIPアドレスにマップすることができます。CFGTCPメニューのリモート・ネーム・サーバー変更オプションを使用して、リモート・ネーム・サーバーを指定することができます。

*INTNETADR

INTNETADRパラメーターのプロンプトが表示されます。

文字値 ファイルの転送を行なうリモート・システム名を指定します。

トップ

IPアドレス (INTNETADR)

ファイル転送アプリケーションを開始するリモート・システムのIPv4またはIPv6インターネット・アドレスを指定します。

IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*の形式で指定されます。ここで、*nnn*は0から255の範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分がすべて2進数の1 または2進数のゼロの値である場合には無効です。

IPv6インターネット・アドレスは、*xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx*の形式で指定されます。ここで、各*x*は4ビットを表す16進数字です。16進数字は、0から9までの数か、A, B, C, D, E,またはFの文字です。"::"は、1つ以上の16ビットのゼロのグループを示すために、IPv6アドレス内で1回使用される場合があります。"::"を使用してアドレス内の先行、組み込み、または後続のゼロを圧縮することができます。

IPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

文字値 リモート・システムのIPアドレスを指定します。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

FTP TYPEモードがASCIIに設定される時に、1バイト文字セット (SBCS) ASCII ファイル転送で使用されるASCIIコード化文字セット識別コード (CCSID) を指定します。また、TYPEサブコマンドが出されない場合には、ASCIIファイル転送と見なされます。選択されるCCSID値は、ASCII-EBCDICおよびEBCDIC-ASCIIマッピングのFTPクライアントによって使用される省略時の値です。マッピングは、ジョブに指定されたASCII CCSIDおよびEBCDIC CCSIDを使用して判別されます。

発信および着信マッピングは、TBLFTPOUTおよびTBLFTPINパラメーターに定義されたマッピング・テーブルによって任意に実行することができます。通常、TBLFTPOUT およびTBLFTPINパラメーターは、省略時の値の*CCSIDまたは*DFTに設定されます。この両方のパラメーターは、CCSIDパラメーターで使用される値がマッピングで使用されることを示します。マッピング・テーブルが発信マッピングに使用される場合には、テーブル・オブジェクトをTBLFTPOUTパラメーターに指定することができます。TBLFTPOUTパラメーターに指定されたテーブル・オブジェクトは、CCSID値の代わりに使用されます。

TBLFTPINパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することによって、マッピング・テーブルを使用するために、着信マッピングを変更することができます。このマッピング・テーブルは、指定されたCCSID値を一時変更して、着信マッピングに使用されます。

このパラメーターには、2バイト文字セット(DBCS) CCSID値は許されません。DBCS 値は、TYPEサブコマンドを使用して指定することができます。

注: IBMでは、V3R1以前のリリースと互換性を持たせるために、FTPにマッピング・サポートが組み込まれています。着信TYPE Aファイル転送にマッピング・テーブルを使用すると、ターゲット・ファイルの作成が必要な場合に、CCSIDタグが失われる結果となります。IBMでは、通常操作にはCCSIDサポートを使用することを強くお勧めします。

***DFT** CCSID値00819 (ISO 8859-1 8ビットASCII)が使用されます。

I-65533

使用するCCSID値を指定してください。有効なSBCS CCSIDが要求されたことを確認するために、この値の妥当性検査が行われます。

TBLFTPOUTおよびTBLFTPINパラメーターを使用して、ユーザー定義の着信および発信マッピング・テーブルを指定します。ユーザー定義のマッピング・テーブルは、CCSIDパラメーターが指定された時にFTPクライアントによって行われたマッピングを置き換えます。

[トップ](#)

ポート (PORT)

FTPサーバーとの接続に使用されるポート番号を指定します。

通常、FTPサーバーに接続するには、21という「既知の」ポート値が使用されます。ある種の状況の下では、FTPサーバーは、ポート21以外のポートで接続される場合があります。このような場合には、接続先のサーバー・ポートを指定するために、ポート・パラメーターが使用されることがあります。

注: FTPクライアント・サブコマンドOPENおよびSECOPENには、それぞれポート21以外のポートの指定に使用できるオプションの'PORT'パラメーターがあります。

***DFT** 値00021が使用されます。

***SECURE**

値00990が使用されます。ポート990は、データの暗号化にTRANSPORT LAYER SECURITY (TLS) またはSECURE SOCKETS LAYER (SSL)プロトコルを使用するセキュアFTPサーバー用に予約されています。

I-65535

要求されたポート値が使用されます。この値は、正しい範囲にあることを確認するために妥当性検査されます。

注: 990が指定された場合には、FTPクライアントは*SECUREが指定された場合と同じ機能を実行します。

[トップ](#)

保護接続 (SECCNN)

FTP制御接続で転送される情報を保護するために使用される機密保護メカニズムのタイプを指定します（これには、FTPサーバーとのセッションの認証に使用されるパスワードが含まれます）。TRANSPORT LAYER SECURITY (TLS)およびSECURE SOCKETS LAYER (SSL)は、転送中にデータを見られたりデータの消失または破壊が起こらないように保護するために暗号化を使用する互換性のあるプロトコルです。

注: FTPクライアント・サブコマンドSECOPENは、FTPクライアント・セッション中に保護されたFTP接続をオープンするために使用できます。

***DFT** PORTパラメーターに*SECUREまたは990が使用されている場合には*IMPLICITが使用され、そうでない場合には*NONEが使用されます。

*IMPLICIT

FTPクライアントは、指定されたFTPサーバーへの接続時に（サーバーにAUTHサブコマンドを送信しないで）直ちにTLS/SSLを使用しようとします。サーバーが指定されたポートで暗黙のTLS/SSLをサポートしていないか、または何らかの理由でTLS/SSL折衝が失敗した場合には、接続はクローズされます。

***SSL** 指定されたFTPサーバーへの接続後に、FTPクライアントはAUTH（許可）サブコマンドを送信してTLS/SSLで保護されたセッションを要求します。サーバーがTLS/SSLをサポートしていると、TLS/SSL折衝が実行されます。サーバーがTLS/SSLをサポートしていないか、またはTLS/SSL折衝が失敗した場合には、接続はクローズされます。

*NONE

FTPクライアントは、指定されたFTPサーバーへ接続するときに暗号化を使用しません。

[トップ](#)

データ保護 (DTAPROT)

FTPデータ接続で転送される情報に使用されるデータ保護のタイプを指定します。この接続は、ファイル・データおよびディレクトリー・リストの転送に使用されます。FTPプロトコルでは、制御接続が保護されていないと、データ接続の保護は使用できません。

注: DTAPROTパラメーターは、PROT（保護）FTPサーバー・サブコマンドの使用を制御します。FTPクライアント・サブコマンドSECDATAは、FTPクライアント・セッション時に、特定のFTPデータ接続に対する保護を切り替えるために使用できます。

***DFT** SECCNNパラメーターが保護された制御接続を指定していれば*PRIVATEが使用され、そうでない場合には*CLEAR が使用されます。

*PRIVATE

FTPデータ接続で送信された情報は暗号化されています。

注: SECCNNパラメーターでFTP制御接続を暗号化しないように指定している場合には、*PRIVATEは指定できません。

*CLEAR

FTPデータ接続で送信される情報は暗号化されていません。

[トップ](#)

発信ASCII/EBCDICテーブル (TBLFTPOUT)

FTPクライアントのすべての発信データをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。発信データはEBCDICからASCIIにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLFTPOUTに指定された場合には、そのテーブル・オブジェクトが発信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して発信マッピングが判別されます。

単一値

*CCSID

発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 発信データをマッピングするためにFTPクライアントによって使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLFTPIN)

FTPクライアントのすべての着信データをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。着信データはASCIIからEBCDICにマップされます。

テーブル・オブジェクトがTBLFTPINに指定された場合には、そのテーブル・オブジェクトが着信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して着信マッピングが判別されます。

単一値

*CCSID

着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 受信ASCII/EBCDICテーブル

名前 着信データをマッピングするためにFTPクライアントによって使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

例

例1: IPv4インターネット・アドレスに対するFTPの開始

```
STRTCPFTP RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('1.2.3.4')
```

このコマンドは、IPv4アドレス「1.2.3.4」によって指定されるシステムに対してFTPクライアントを開始します。

例2: IPv6インターネット・アドレスに対するFTPの開始

```
STRTCPFTP RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('2001:D88::1')
```

このコマンドは、IPv6アドレス「2001:D88::1」により指定されるシステムに対してFTPクライアントを開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

TCP/IP TELNET開始 (STRTCPTELN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP TELNETの開始(STRTCPTELN)コマンドは、リモート・システムとのTELNET クライアント・セッションを開始するために使用されます。TELNETは1つのアプリケーション・プロトコルで、これによってある位置のユーザーは、リモート・システムの別のユーザーにアクセスすることができます。これは、リモート・システムにローカル接続されているかのように行われます。TELNETは、リモート・システムと接続するために伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)を使用します。このコマンドを使用するためには、その前にQSYSWRKサブシステムを開始しなければなりません。

TELNETクライアントの操作モードは次の通りです。

- 5250全画面モード
- 3270全画面モード
- VT220全画面モード
- VT100全画面モード。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR	必須, 定位置 1
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
CTLCHAR	制御文字キー	文字値, '&'	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
KBDTYPE	キーボードの言語タイプ	<u>*LCL</u> , AGB, AGE, AGI, AGM, ALI, ALM, BGB, BGE, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAE, CAI, CAM, CLB, CLE, CSB, CSE, CYB, DMB, DME, DMI, DMM, ESB, FAB, FAE, FAI, FAM, FNB, FNE, FNI, FNM, FQB, FQI, GKB, GNB, GNE, HIB, HNB, HNE, ICB, ICE, ICI, ICM, INB, INI, IRB, ITB, ITE, ITI, ITM, JEB, JEI, JKB, JPB, JPE, JUB, KAB, KOB, LAB, LAE, LTB, LVB, MKB, MKE, NCB, NCE, NEB, NEE, NEI, NEM, NWB, NWE, NWI, NWM, PKB, PKE, PLB, PLE, PRB, PRE, PRI, PRM, RCB, RMB, RME, ROB, ROE, RUB, RUE, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SKE, SPB, SPE, SPI, SPM, SQB, SQE, SSB, SSE, SSI, SSM, SWB, SWE, SWI, SWM, TAB, THB, THE, TKB, TKE, TRB, TRE, UAB, UAE, UKB, UKE, UKI, UKM, USB, USE, USI, USM, VNB, VNE, YGI, YGM, *TRNTBL	オプション
PAGEUP	前ページ・キー	<u>*PA2</u> , *PA1, *PA3, *NONE, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *CLEAR, *ERASEINP, *CSRSLT	オプション
PAGEDOWN	次ページ・キー	<u>*PA1</u> , *PA2, *PA3, *NONE, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *CLEAR, *ERASEINP, *CSRSLT	オプション
CSRSLT	カーソル選択キー	<u>*NONE</u> , *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24	オプション
TBLVTOUT	発信EBCDIC/ASCIIテーブル	単一値: <u>*CCSID</u> , *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 発信EBCDIC/ASCII テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
TBLVTIN	受信ASCII/EBCDICテーブル	単一値: *CCSID, *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受信ASCII/EBCDIC テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBL3270OUT	発信3270 マッピング・テー ブル	単一値: *KBDTYPE その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: 発信3270 マッピ ング・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBL3270IN	受信3270 マッピング・テー ブル	単一値: *KBDTYPE その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: 受信3270 マッピ ング・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INZWAIT	ホスト待ちタイムアウト	1-32767, 120, *NOMAX	オプション
NUMLCK	数字ロック・キーボード	*NO, *YES	オプション
NULLS	ヌルの処理	*BLANK, *REMOVE	オプション
TBLVTDRWO	ASCII全画面ドロワー・アウト	単一値: *DFT その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: ASCII全画面ドロ ワー・アウト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBLVTDRWI	ASCII全画面ドロワー・イン	単一値: *DFT その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: ASCII全画面ドロ ワー・イン	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
VTOPT	ASCII全画面オプション	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り 返し): *LOCALECHO, *AUTOWRAP, *NEWLINE	オプション
DSPCHRATTR	文字属性の表示	*NO, *YES	オプション
PAGESCROLL	ASCIIページ・スクロール機能	*NO, *YES	オプション
ANSWERBACK	ASCII応答機能	文字値, *NONE	オプション
TABSTOP	ASCIIタブ停止	単一値: *DFT, *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り 返し): 0-133	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *MULTINAT, *BRITISH, *DUTCH, *FINNISH, *FRENCH, *FRENCHCAN, *GERMAN, *ITALIAN, *NORDAN, *SPANISH, *SWEDISH, *SWISS	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ASCOPRMOD	ASCII操作モードID	*VT220B7, *VT220B8, *VT100, *VT52	オプション
PORT	ポート	1-65534, *DFT	オプション
RMTVRTDSP	リモート仮想表示装置	名前, *DFT	オプション
RMTUSER	リモート・ユーザー	名前, *NONE, *CURRENT	オプション
RMPWD	リモート・パスワード	文字値, *NONE	オプション
RMPWDENC	リモート・パスワード暗号化	*DES7, *SHA1, *NONE	オプション
RMTINLPGM	リモート初期プログラム	名前, *RMTUSRPRF, *NONE	オプション
RMTINLMNU	リモート初期メニュー	名前, *RMTUSRPRF, *SIGNOFF	オプション
RMTCURLIB	リモート現行ライブラリー	名前, *RMTUSRPRF	オプション
RMTKBDTYPE	リモート・キーボード・タイプ	*RMTSYS, *LCL	オプション
RMTCODPAG	リモート・コード・ページ	*RMTSYS, *LCL	オプション
RMTCHRSET	リモート文字セット	*RMTSYS, *LCL	オプション

上

リモート・システム (RMTSYS)

リモート・システム名を指定します。名前は有効なもので、リモート・システムはTELNETサーバー・サポートを提供しなければなりません。ユーザーはIPアドレスに名前を割り当てることができます。TCP/IP構成メニュー(CFGTCPコマンド)のTCP/IPホスト・テーブル項目の処理オプションを使用してください。また、リモート・ネーム・サーバーは、IPアドレスにリモート・システム名をマップします。CFGTCPメニューのリモート・ネーム・サーバー変更オプションを使用して、リモート・ネーム・サーバーを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

*INTNETADR

リモート・システムは、IPアドレス (INTNETADR)パラメーターに指定された値によって識別されます。

文字値 TELNETが開始されるリモート・システム名を指定してください。

上

IPアドレス (INTNETADR)

TELNETを開始するリモート・システムのIPv4またはIPv6インターネット・アドレスを指定します。

IPv4インターネット・アドレスは、nnn.nnn.nnn.nnnの形式で指定します。ここで、nnnは0から255の範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分が、すべて2進数の1 または2進数のゼロの値である場合には無効です。

IPv6インターネット・アドレスは、x:x:x:x:x:x:xの形式で指定されます。ここで、xは0からX'FFFF'の範囲の16進数です。 "::"は、1つ以上の16ビットのゼロのグループを示すために、IPv6アドレス内で1回使用される場合があります。 "::"を使用してアドレス内の先行、組み込み、または後続のゼロを圧縮することができます。

IPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

注: リモート・システム (RMTSYS)パラメーターに*INTNETADRを指定する場合には、このパラメーターに値を指定する必要があります。

文字値 リモート・システムのIPアドレスを指定します。

上

制御文字キー (CTLCHAR)

ASCIIキーボードで制御(CTRL)キーを表現するために使用される文字を指定します。この文字が使用される時には、TELNETは、次の文字をリモート・システムに送られる制御文字として解釈します。たとえば、文字&Cは、ASCII制御文字のX '03'が送られることを示します。このパラメーターが有効となるのは、ASCII行モード、VT100全画面モード、VT220全画面モードの場合だけです。

& ASCIIキーボードで制御キーを表現するためにアンバーサンドが使用されます。

文字値 ASCIIキーボードで制御キーを表現する制御文字を指定してください。リモート・システムは、どの制御文字が有効であるかを判断します。しかし、TELNETによって使用されるASCIIマッピング・テーブルがリモート・システムに送られるASCII文字を決定します。

上

キーボードの言語タイプ (KBDDTYPE)

表示装置で使用されるキーボードのタイプを指定します。また、このパラメーターは、使用されるマッピング・テーブルも指定します。このパラメーターは、3270および5250の全画面モードで使用されます。ユーザーがVT100またはVT220全画面モードの時には、このパラメーターは無視されます。キーボード装置のタイプは、3桁の値で指定します。

***LCL** 装置はローカル表示装置です。キーボード・タイプは、表示装置記述から決定されます。

*TRNTBL

3270全画面モードでは、ユーザー定義のマッピング・テーブルが使用されます。文字変換は、受信**3270 マッピング・テーブル (TBL3270IN)**および発信**3270 マッピング・テーブル (TBL3270OUT)**パラメーターに指定されたマッピング・テーブルによって定義されます。KBDDTYPE(*TRNTBL)を指定する場合には、TBL3270INおよびTBL3270OUTパラメーターの両方も指定しなければなりません。KBDDTYPE(*TRNTBL) は、ローカル表示装置とリモート表示装置の両方で有効です。

表示装置キーボードID

TELNETに入る表示装置と関連した言語グループの3桁のキーボードIDを指定します。ユーザーがローカル3270表示装置のエミュレートを要求している時には、このIDは無視されます。

アルバニア

ALB

アルバニア各国間(ユーロ)

ALM

アラビア語X/BASIC

CLB

アラビア語(ユーロ)
CLE

オーストリア/ドイツ
AGB

オーストリア/ドイツ (ユーロ)
AGE

オーストリア/ドイツ各国間
AGI

オーストリア各国間 (ユーロ)
AGM

ベルギー各国間
BLI

ベルギー各国間 (ユーロ)
BLM

ブラジル・ポルトガル語
BRB

ブラジル・ポルトガル語 (ユーロ)
BRE

ブルガリア
BGB

ブルガリア各国間 (ユーロ)
BGE

カナダ・フランス語
CAB

カナダ・フランス語 (ユーロ)
CAM

カナダ・フランス語 (ユーロ)
CAE

カナダ・フランス語各国間
CAI

クロアチア
YGI

キリル CYB

チェコ共和国
CSB

チェコ共和国 (ユーロ)
CSE

デンマーク
DMB

デンマーク (ユーロ)
DME

デンマーク各国間
DMI

デンマーク各国間 (ユーロ)
DMM

エストニア
ESB

フィンランド/スウェーデン
FNB

フィンランド/スウェーデン (ユーロ)
FNE

フィンランド/スウェーデン各国間
FNI

フィンランド各国間 (ユーロ)
FNM

フランス(AZERTY)
FAB

フランス(AZERTY) (ユーロ)
FAE

フランス(AZERTY)各国間
FAI

フランス(AZERTY)各国間 (ユーロ)
FAM

フランス(QWERTY)
FQB

フランス(QWERTY)各国間
FQI

ギリシャ
GNB

ギリシャ(新) (ユーロ)
GNE

ギリシャ
GKB

ヘブライ語
NCB

ヘブライ語 (ユーロ)
NCE

ヒンディ語
HIB

ハンガリー
HNB

ハンガリー (ユーロ)
HNE

アイスランド
ICB

アイスランド (ユーロ)
ICE

アイスランド各国間
ICI

アイスランド各国間 (ユーロ)
ICM

国際 INB

国際各国間
INI

イラン(FARSI)
IRB

イタリア
ITB

イタリア (ユーロ)
ITE

イタリア各国間
ITI

イタリア各国間 (ユーロ)
ITM

日本 JPB

日本/英語
JPE

日本 (ユーロ)
JEB

日本/英語各国間
JEI

日本/漢字(PS/55*および5295表示装置)
JKB

日本米国英語基本
JUB

日本/カタカナ(5251, 5291, 5292, 3180カタカナ表示装置)
KAB

韓国 KOB

ラオス LAB

ラオ語 (ユーロ)
LAE

リトアニア
LTB

ラトビア
LVB

ラテン語2
ROB

ラテン語2 (ユーロ)
ROE

マケドニア
MKB

マケドニア (ユーロ)
MKE

オランダ
NEB

オランダ (ユーロ)
NEE

オランダ各国間
NEI

オランダ各国間 (ユーロ)
NEM

ノルウェー
NWB

ノルウェー (ユーロ)
NWE

ノルウェー各国間
NWI

ノルウェー各国間 (ユーロ)
NWM

ポーランド
PLB

ポーランド (ユーロ)
PLE

ポルトガル
PRB

ポルトガル (ユーロ)
PRE

ポルトガル各国間
PRI

ポルトガル各国間 (ユーロ)
PRM

ルーマニア
RMB

ルーマニア語 (ユーロ)
RME

ロシア/ウクライナ
RUB

ロシア各国間 (ユーロ)
RUE

セルビア (キリル)
SQB

セルビア各国間 (ユーロ)
SQE

セルビア (ラテン語)
YGI

中国語 (簡体字)
RCB

スロバキア
SKB

スロバキア (ユーロ)
SKE

スロベニア
YGI

スペイン
SPB

スペイン (ユーロ)
SPE

スペイン各国間
SPI

スペイン各国間 (ユーロ)
SPM

スペイン語圏
SSB

スペイン語圏 (ユーロ)
SSE

スペイン語圏各国間
SSI

スペイン語圏各国間 (ユーロ)
SSM

スウェーデン
SWB

スウェーデン (ユーロ)
SWE

スウェーデン各国間
SWI

スウェーデン各国間 (ユーロ)
SWM

スイス/フランス語各国間
SFI

スイス/フランス (ユーロ)
SFM

スイス/ドイツ (ユーロ)
SGM

スイス/ドイツ語各国間
SGI

タイ THB

タイ (ユーロ)
THE

中国語 (繁体字)
TAB

トルコ(QWERTY)
TKB

トルコ (旧) (ユーロ)
TKE

トルコ(F)
TRB

トルコ (新) (ユーロ)
TRE

ウクライナ
UAB

ウクライナ (ユーロ)
UAE

英国/英語
UKB

英国 (ユーロ)
UKE

英国各国間
UKI

英国各国間 (ユーロ)
UKM

米国/カナダ
USB

米国／カナダ（ユーロ）

USE

米国／カナダ各国間

USI

米国／カナダ各国間（ユーロ）

USM

ウルドゥー語

PKB

ウルドゥー語（ユーロ）

PKE

ベトナム

VNB

ベトナム（ユーロ）

VNE

クロアチア，セルビア（ラテン語），およびスロベニア

YGI

クロアチア，セルビア（ラテン語），およびスロベニア(EURO)

YGM

注：たとえば，KBDTYPE(USB)は，米国／カナダ基本文字セットを使用するキーボードを示します。

上

前ページ・キー (PAGEUP)

3270全画面表示装置をエミュレーションしている時に，5250キーボードの前ページ・キーに割り当てるキーを指定します。3270には前ページ・キーがないために，このパラメーターが有用です。したがって，5250表示装置のユーザーが3270表示装置をエミュレーションしている時に，3270キーボード・キーの1つをこれに割り当てることによって，前ページ・キーを利用することができます。このパラメーターが有効となるのは，ユーザーが5250表示装置からTELNETを使用する時の3270全画面モードの場合のみです。

***PA2** PA2キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***NONE**

前ページ・キーに割り当てられるキーはありません。

***F-KEY**

1つの機能キー(F1-F24)が前ページ・キーに割り当てられます。

***PA1** PA1キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***PA3** PA3キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***CLEAR**

消去キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***ERASEINP**

入力消去キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***CSRSLT**

カーソル選択キーが前ページ・キーに割り当てられます。

上

次ページ・キー (PAGEDOWN)

3270全画面表示装置をエミュレーションしている時に、5250キーボードの次ページ・キーに割り当てるキーを指定します。3270には次ページ・キーがないために、このパラメーターが有効です。したがって、5250表示装置のユーザーが3270表示装置をエミュレーションしている時に、3270キーボード・キーの1つをこれに割り当てることによって、次ページ・キーを利用することができます。このパラメーターが有効となるのは、ユーザーが5250表示装置からTELNETを使用する時の3270全画面モードの場合のみです。

***PA1** PA1キーが次ページ・キーに割り当てられます。

***NONE**

次ページ・キーに割り当てられるキーはありません。

***F-KEY**

1つの機能キー(F1-F24)が次ページ・キーに割り当てられます。

***PA2** PA2キーが次ページ・キーに割り当てられます。

***PA3** PA3キーがPAGE DOWN (次ページ) キーに割り当てられます。

***CLEAR**

消去キーが次ページ・キーに割り当てられます。

***ERASEINP**

入力消去キーが次ページ・キーに割り当てられます。

***CSRSLT**

カーソル選択キーが次ページ・キーに割り当てられます。

上

カーソル選択キー (CSRSLT)

3270キーボードのカーソル選択キーをエミュレーションするために使用する5250キーボードのキーを指定します。このパラメーターが有効となるのは、ユーザーが5250表示装置からTELNETを使用する時の3270全画面モードの場合のみです。

***NONE**

カーソル選択キーにキーは割り当てられません。

***F-KEY**

1つの機能キー(F1-F24)がカーソル選択キーに割り当てられます。

上

発信EBCDIC/ASCIIテーブル (TBLVTOUT)

VT100またはVT220全画面モード、あるいはASCII行モードの場合に、すべての発信TELNETデータをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。すべての発信データはEBCDICからASCIIにマップされます。VT100およびVT220の制御文字列はマップされません。

リモート・システムは、標準ASCII文字セットまたはASCII特殊文字と線画文字セットが有効となっているかどうかを制御します。

テーブル・オブジェクトがこのパラメーターに指定された場合には、テーブル・オブジェクトは発信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して発信マッピングが判別されません。

単一値

*CCSID

発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 発信TELNETデータのマッピングに使用されるテーブル・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLVTIN)

VT100またはVT220全画面モード、あるいはASCII行モードの場合に、すべての着信TELNETデータをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。すべての着信データはASCIIからEBCDICにマップされます。VT100およびVT220の制御文字列はマップされません。

リモート・システムは、標準ASCII文字セットまたはASCII特殊文字と線画文字セットが有効となっているかどうかを制御します。

テーブル・オブジェクトがこのパラメーターに指定された場合には、テーブル・オブジェクトは着信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して着信マッピングが判別されません。

単一値

*CCSID

着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 受信ASCII/EBCDICテーブル

名前 着信TELNETデータのマッピングに使用されるテーブル・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

発信3270 マッピング・テーブル (TBL3270OUT)

3270全画面モードの時に、リモート・システムに送信する文字の変換で使用される発信マッピング・テーブルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、3270 全画面モード・セッションの場合だけです。このパラメーターは、*TRNTBLがキーボードの言語タイプ (KBDTYPE)パラメーターに指定された場合だけ有効です。

単一値

***KBDTYPE**

変換は、KBDTYPEパラメーターに指定された言語のキーボード・タイプを使用して行われます。

修飾子1: 発信3270 マッピング・テーブル

名前 発信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

受信3270 マッピング・テーブル (TBL3270IN)

3270全画面モードの時に、リモート・システムから送信される文字の変換で使用される着信マッピング・テーブルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、3270 全画面モード・セッションの場合だけです。このパラメーターは、*TRNTBLがキーボードの言語タイプ (KBDTYPE)パラメーターに指定された場合だけ有効です。

単一値

***KBDTYPE**

変換は、KBDTYPEパラメーターに指定された言語のキーボード・タイプを使用して行われます。

修飾子1: 受信3270 マッピング・テーブル

名前 着信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

ホスト待ちタイムアウト (INZWAIT)

ローカル・システムがリモート・システムとの接続の確立を待機する時間を秒数で指定します。ユーザーが指定した時間内にリモート・システムとの接続が行なわれない場合には、TELNETセッションは終了し、接続を要求しているユーザーにメッセージが戻されます。

120 TELNETは、リモート・システムから最初の画面が表示されるのを120秒間待機します。

***NOMAX**

ローカル・システムがリモート・システムとの接続の確立を待機する時間に制限はありません。リモート・システムが活動中かどうか要求元で不確かな場合に、この値の指定は有効です。

I-32767

ローカル・システムがリモート・システムとの接続の確立を待機する時間を秒数で指定します。

上

数字ロック・キーボード (NUMLCK)

5250表示装置で数値入力フィールドに対して数字データだけを使用可能にするかどうかを指定します。このパラメーターは数字シフト・ロックを5250表示装置に自動的にセットするかどうかを指定し、これはリモート・システムから受信した数値入力フィールドで使用されます。このパラメーターが有効となるのは、データ入力キーボードのある5250表示装置からTELNETを使用している時の、3270全画面モードだけです。

***NO** キーボードが下段シフトにセットされている時に5250表示装置で数字入力フィールドが表示されません。

***YES** 数字シフトが上段の設定値にロックされて5250表示装置で数字入力フィールドが表示されます。数字シフト・ロックを下段の設定値にリセットするためには、ユーザーはキーボードでALPHAキーを使用することができます。タイプライター型キーボードで構成された5250表示装置ではNUMLCK(*YES)は有効ではありません。

上

ヌルの処理 (NULLS)

リモート・システムに送られる前に3270データ・ストリームのヌルがどのように処理されるかを指定します。このパラメーターが有効となるのは、3270全画面モード・セッションの場合だけです。

*BLANK

先行および組み込みヌルがブランクに変更されます。

*REMOVE

データ・ストリームから先行および挿入ヌルが除去されます。

上

ASCII全画面ドロワー・アウト (TBLVTDRWO)

VT100またはVT220全画面モードの時に、発信TELNETデータをマップするために使用される発信マッピング・テーブルを指定します。すべての発信データはEBCDICからASCII文字およびASCII線画文字セットにマップされます。VT100およびVT220の制御文字列はマップされません。リモート・システムは、標準ASCII文字セット（またはVT220モードでは国別言語文字セット）またはASCIIの特殊な文字セットが有効となるかどうかを制御します。このパラメーターに指定されたマッピング・テーブルは、特殊な線画文字セットが有効な場合に使用されます。

単一値

*DFT 省略時のEBCDIC-ASCII特殊線画マッピング・テーブルが使用されます。

修飾子1: ASCII全画面ドロワー・アウト

名前 発信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

ASCII全画面ドロワー・イン (TBLVTDRWI)

VT100またはVT220全画面モードの時に、着信TELNETデータをマップするために使用される着信マッピング・テーブルを指定します。すべての着信データはEBCDICからASCII文字およびASCII線画文字セットにマップされます。VT100およびVT220の制御文字列はマップされません。リモート・システムは、標準ASCII文字セット（またはVT220モードでは国別言語文字セット）またはASCIIの特殊な文字セットが有効となるかどうかを制御します。このパラメーターに指定されたマッピング・テーブルは、特殊な線画文字セットが有効な場合に使用されます。

単一値

***DFT** 省略時のASCII-EBCDIC特殊線画マッピング・テーブルが使用されます。

修飾子1: ASCII全画面ドロワー・イン

名前 着信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

ASCII全画面オプション (VTOPT)

セットアップ・オプションを指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220全画面モードの場合だけです。

単一値

***NONE**

使用可能なセットアップ・オプションは選択されません。

***ALL** 使用可能なすべてのセットアップ・オプションが選択されます。

他の値 (最大3反復)

***LOCALECHO**

ローカル・エコー・オプションが選択されます。このオプションによって、リモート・システムまたはローカル端末のいずれが入力された文字を表示するかを指定することができます。

***NEWLINE**

改行オプションが選択されます。このオプションによって、実行キーを押した時に、どの文字が伝送されるかを指定することができます。NEWLINEオプションがオフになっている時には、実行キーは復帰文字を転送します。NEWLINEオプションがオンになっている時には、実行キーは復帰文字とその後に行送りを転送します。

***AUTOWRAP**

自動折り返しオプションが選択されます。このオプションでは、カーソルが右マージンに達した時に次の文字が現れる場所を指定することができます。自動折り返しオプションがオンで、カーソルが行の最後の文字位置にあった時には、受け取られた次の文字は次の行の先頭に現れます。自動折り返しオプションがオフで、カーソルが行の最後の文字位置にあった時には、受け取られた次の文字はカーソル現在位置の文字に置き換わります。

上

文字属性の表示 (DSPCHRATTR)

文字属性を表示するかどうかを指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220全画面モードの場合だけです。拡張属性をサポートする表示装置(3477など)を使用している場合には、このパラメーターは適用されません。文字属性は、このような画面でデータを失わずに表示することができます。

***YES** 文字属性が表示されます。

***NO** 文字属性は表示されません。

上

ASCIIページ・スクロール機能 (PAGE_SCROLL)

このセッションでページングを使用するかどうかを指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220モードの場合だけです。

***NO** ページングは使用されません。データは、システムがリモート・システムから受信した時に、可能な限り速く表示されます。

***YES** ページングが使用されます。データは一度に1ページずつ表示され、データの次のページに移動するためには、次ページ・キーを押さなければなりません。

上

ASCII応答機能 (ANSWERBACK)

返答メッセージを指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220全画面モードの場合だけです。リモート・システムが問い合わせ(ENQ)文字を送信した時に、そのリモート・システムに送られる最大20桁の長さの識別メッセージを記憶することができます。

***NONE**

返答メッセージは指定されません。

文字値 最大20桁までの返答メッセージを指定してください。

上

ASCIIタブ停止 (TABSTOP)

タブ停止を入れる欄を指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220全画面モードの場合だけです。最大10個のタブ停止を指定することができます。

単一値

***DFT** VT100またはVT220の省略時のタブ停止が使用されます。

***NONE**

タブ停止は指定されません。

他の値

0-133 タブ停止を入れる欄番号を指定してください。

コード化文字セットID (CCSID)

使用中のASCIIコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。このパラメーターは、VT100およびVT220全画面マッピングのSTRTCPTELNコマンドによって使用される省略時の値です。ASCII CCSID値は、ジョブのEBCDIC CCSIDと国別置き換え文字セットとの間で、あるいはCCSIDパラメーターで選択されるASCII CCSID値をマップするために使用されます。

マッピングは、TBLVTOOUTおよびTBLVTINパラメーターに定義されたマッピング・テーブルによって任意に実行することができます。TBLVTOOUTおよびTBLVTINパラメーターの省略時の値は*CCSIDで、これは、マッピングがCCSIDパラメーターによって判別されることを示します。

マッピング・テーブルが発信マッピングで使用される場合には、テーブル・オブジェクトをTBLVTOOUTパラメーターに指定することができます。TBLVTOOUTパラメーターのテーブル・オブジェクトがCCSID値の代わりに発信マッピングに使用されます。

着信マッピングは、TBLVTINパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することによって変更することができます。このマッピング・テーブルは、指定されたCCSID値を一時変更して、着信マッピングに使用されます。

国別置き換え文字セットのCCSIDパラメーターに使用できる特殊値は、DIGITAL EQUIPMENT CORPORATION (DEC)の標準文字セットです。ASCII - EBCDICおよびEBCDIC - ASCIIの必要なマッピングを識別するためには、数値のCCSID値を任意に使用することができます。数値のCCSID値を選択した場合には、それが現行システムで使用可能な有効なASCII CCSID値であることを確認するために妥当性検査されます。

***MULTINAT**

省略時の値は8ビットのDEC各国間変換テーブルで、これは7ビットの互換性のある標準ASCIIグラフィックス・セット(US)と、8ビットの互換性のあるDEC補足グラフィックス・セットから構成されています。

***BRITISH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、英国国別言語マッピングが初期設定されます。

***DUTCH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、オランダ語国別言語マッピングが初期設定されます。

***FINNISH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、フィンランド語国別言語マッピングが初期設定されます。

***FRENCH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、フランス語国別言語マッピングが初期設定されます。

***FRENCHCAN**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、カナダ・フランス語国別言語マッピングが初期設定されます。

***GERMAN**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、ドイツ語国別言語マッピングが初期設定されます。

***ITALIAN**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、イタリア語国別言語マッピングが初期設定されます。

***NORDAN**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、ノルウェー語／デンマーク語国別言語マッピングが初期設定されます。

***SPANISH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、スペイン語国別言語マッピングが初期設定されます。

***SWEDISH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、スウェーデン語国別言語マッピングが初期設定されます。

***SWISS**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、スイス国別言語マッピングが初期設定されます。

I-65533

使用するCCSID値を指定してください。有効なASCII CCSIDが要求されたことを確認するために、この値の妥当性検査が行われます。

上

ASCII操作モードID (ASCOPRMOD)

VT220全画面モードでネゴシエーションする場合には、TELNETクライアント・セッションで初期設定される操作モードを指定します。

***VT220B7**

省略時のモードはVT220 7ビットで、これは標準VT220 7ビットASCII通信を使用してすべてのエスケープ文字列を送信し、標準7ビット関数を受け取って実行することができます。

***VT220B8**

VT220-8ビット・モードは、8ビットASCII文字を使用してすべてのエスケープ文字列を送信し、標準8ビットANSI関数を受け取って実行することができます。

***VT100**

VT100モードは、標準VT100 7ビットASCII通信を使用してすべてのエスケープ文字列を送信し、標準7ビットANSI関数を受け取って実行することができます。

***VT52** VT52モードは、標準VT52 7ビットASCII通信を使用してすべてのエスケープ文字列を送信します。標準ANSI関数はサポートされていません。

上

ポート (PORT)

宛先サーバー・システム上でアプリケーションが待機している一部のポート（これがTELNET の定式ポート23以外の場合）を指定します。

***DFT** この省略時の値は、TELNETセッションの定式ポート23を使用します。

I-65534

使用するポート番号を指定してください。リモート・サーバー・アプリケーションがLISTENオンにしている特定のポートに注意する必要があります。そうしないと、指定されたポート(23以外)でリモート・ホストがオープンを試みを拒否する結果となる可能性があります。

上

リモート仮想表示装置 (RMTVRTDSP)

リモート・サーバー・システムで要求される固有の装置名を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された装置命名拡張をサポートする5250接続の場合だけです。

***DFT** 省略時の装置命名(QPADEVNNN)を使用する装置は、リモート・サーバー・システムで有効となっているシステム値に基づいて作成されます。

名前 使用する装置名を指定してください。この特定の名前を使用する装置がまだターゲットのリモート・システムで使用でない場合には、それが作成され、このセッションに割り当てられます。

上

リモート・ユーザー (RMTUSER)

リモート・サーバー・システムへの自動サインオンのためのユーザー・プロファイルを指定します。このパラメーターにプロファイルが指定され、ターゲット・システムでパスワード機密保護が活動状態になっている場合には、リモート・パスワード(RMTPWD)パラメーターに*NONEは無効です。

OS/400 TELNETサーバーに接続しようとする場合には、QRMTSIGNシステム値を*SAMEPRFまたは*VERIFYに設定しなければなりません。TELNET の場合、TELNETサーバーはSTRTCPTELNコマンドに指定されたユーザー・プロファイル名だけを受け取るので、*SAMEPRFの設定は*VERIFY設定と同様に扱われます。このサーバーは、STRTCPTELNコマンドを使用するジョブのユーザー・プロファイル名を受け取らず、両方のシステムでプロファイルが同じになるように強制することはできません。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

***NONE**

ユーザー・プロファイルは送られず、自動サインオンは行われません。

***CURRENT**

STRTCPTELNコマンドを使用するジョブのユーザー・プロファイルが送られます。ターゲット・システムがそれを認めていて、そのユーザー・プロファイルがターゲット・システムに存在し、さらにリモート・パスワード(RMTPWD)パラメーターに指定されたパスワードがそのプロファイルに有効である場合には、ユーザーは自動的にサインオンされます。そうでない場合には、ユーザーにタ

ターゲット・システムのサインオン画面が表示されるか、ソース・システムに障害メッセージが表示されますが、そのどちらかであるかはターゲット・システムの構成によります。

名前 ターゲット・システム上で使用する（存在する）ユーザー・プロファイルの名前を指定します。ターゲット・システムがそれを認めていて、そのユーザー・プロファイルがターゲット・システムに存在し、さらにリモート・パスワード(RMTPWD)パラメーターに指定されたパスワードがそのプロファイルに有効である場合には、ユーザーは自動的にサインオンされます。そうでない場合には、ユーザーにターゲット・システムのサインオン画面が表示されるか、ソース・システムに障害メッセージが表示されますが、そのどちらかであるかはターゲット・システムの構成によります。プロファイルが指定され、ターゲット・システムでパスワード機密保護が活動状態である場合には、指定したプロファイルが現行プロファイルと同じであっても、パスワードを指定しなければなりません。

上

リモート・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送られるパスワードを指定します。

OS/400 TELNETサーバーに接続しようとする場合には、QRMTSIGNシステム値を*SAMEPRFまたは*VERIFYに設定しなければなりません。TELNET の場合、TELNETサーバーはSTRTCPTELNコマンドに指定されたユーザー・プロファイル名だけを受け取るので、*SAMEPRFの設定は*VERIFY設定と同様に扱われます。このサーバーは、STRTCPTELNコマンドを使用するジョブのユーザー・プロファイル名を受け取らず、両方のシステムでプロファイルが同じになるように強制することはできません。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合だけです。

*NONE

システムはパスワードを送りません。この値は、*NONEがリモート・ユーザー (RMTUSER)パラメーターに指定されている場合にのみ有効で、ターゲット・システム上で自動サインオンが実行されないことを示します。

文字値 RMTUSERパラメーターに指定されたユーザーのサインオンを検査するために、ターゲット・システムに送信されるパスワードを指定します。リモート・パスワード暗号化 (RMTPWDENC)パラメーターは、ターゲット・システムに送信される前にパスワードが暗号化されているかどうかを判断するために使用されます。RMTPWDENCパラメーターに*NONEを選択すると、ネットワーク上でパスワードが「明確な状態」で送信される結果となります。これにより、トレースは実際のパスワードを示す通信トレースのようなものになります。

上

リモート・パスワード暗号化 (RMTPWDENC)

リモート・システムに送られる前に、ターゲット・システムに送られるパスワードが暗号化されるかどうかを指定します。

このパラメーターが有効なのは、リモート・パスワード (RMTPWD)パラメーターが*NONE以外である場合だけです。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

リモート・システムがOS/400を実行中の場合には、このパラメーターは、リモート・システムのリリース・レベルおよびリモート・システムのシステム値QPWDLVLに基づいて設定する必要があります。

- リモート・システム上のOS/400がリリース・レベルV4R5またはそれ以前の場合には、*DES7を指定します。
- リモート・システム上のOS/400がリリース・レベルV5R1またはそれ以降で、QPWDLVLに'0'または'1'の値がある場合には、*DES7を指定します。
- リモート・システム上のOS/400がリリース・レベルV5R1またはそれ以降で、QPWDLVLに'2'または'3'の値がある場合には、*SHA1を指定します。

使用される暗号化アルゴリズムがリモート・システムで予期されるものと一致しない場合には、自動サインオンは失敗し、ユーザーにターゲット・システムのサインオン画面が表示されるか、ソース・システムに障害メッセージが表示されますが、そのどちらかであるかはターゲット・システムの構成によります。

暗号化されたパスワードを受け入れるOS/400 TELNETサーバーに接続しようとする場合には、このパラメーターに*DES7または*SHA1の値を使用するように強くお勧めします。*DES7または*SHA1を使用すると、確実にパスワードが通信トレースなどのトレースに現れることがなくなります。

***DES7** ターゲット・システムに送る前に、DES-7アルゴリズムを使用してパスワードを暗号化します。

***SHA1**

ターゲット・システムに送る前に、SHA-1アルゴリズムを使用してパスワードを暗号化します。

***NONE**

ターゲット・システムに送る前に、パスワードを暗号化しません。この値を選択すると、ネットワーク上でパスワードが「明確な状態」で送信される結果となります。これにより、トレースは実際のパスワード値を示す通信トレースのようなものになります。

上

リモート初期プログラム (RMTINLPGM)

リモート・ターゲット・システムに自動的にサインオンした直後に呼び出されるプログラムを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

***RMTUSRPRF**

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された初期プログラムが自動サインオンの直後に呼び出されます。

***NONE**

リモート・ユーザー・プロファイルに初期プログラムが指定されていても、初期メニューの表示前には、プログラムは実行されません。

名前 自動サインオンの直後に呼び出されるプログラムの名前を指定します。

上

リモート初期メニュー (RMTINLMNU)

初期プログラムが実行された後で、ターゲット・システムに自動的にサインオンする時に表示されるメニューを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

*RMTUSRPRF

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された初期メニューが、初期プログラムの実行後に即時に表示されます。

*SIGNOFF

リモート・ユーザー・プロファイルに初期メニューが指定されていても、初期プログラムの実行後には、メニューは表示されません。初期プログラムが終了した後で、ユーザーはサインオフされ、TELNETセッションが終了します。

名前 初期プログラムの実行直後に表示されるメニューの名前を指定します。

上

リモート現行ライブラリー (RMTCURLIB)

ジョブのライブラリー・リスト中で自動サインオンの後で現行ライブラリーとなるライブラリーの名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

*RMTUSRPRF

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された現行ライブラリーが自動サインオンの後で現行ライブラリーとなります。

名前 ジョブのライブラリー・リスト中で自動サインオンの後で現行ライブラリーとなるライブラリーの名前を指定します。

上

リモート・キーボード・タイプ (RMTKBDTYPE)

リモート・サーバー・システム上で作成された表示装置で 사용되는キーボードのタイプを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義されたリモート・キーボード機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合だけです。

*RMTSYS

リモート・ターゲット・システムで定義された省略時のキーボード・タイプを使用します。

***LCL** このローカル装置の表示装置記述に定義されたのと同じキーボード・タイプを使用します。

注: リモート・キーボード・タイプ、リモート文字セット、およびリモート・コード・ページの組み合わせが無効であると、予期しない結果が生じます。

上

リモート・コード・ページ (RMTCODPAG)

リモート・サーバー・システム上で作成された表示装置のコード・ページを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義されたリモート・コード・ページ機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合だけです。

***RMTSYS**

リモート・ターゲット・システムで定義された省略時のコード・ページを使用します。

***LCL** このローカル装置の表示装置記述に定義されたのと同じコード・ページを使用します。

注: リモート・キーボード・タイプ、リモート文字セット、およびリモート・コード・ページの組み合わせが無効であると、予期しない結果が生じます。

上

リモート文字セット (RMTCHRSET)

リモート・サーバー・システム上で作成された表示装置で設定された文字セットを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義されたリモート文字セット機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合だけです。

***RMTSYS**

リモート・ターゲット・システムで定義された省略時の文字セットを使用します。

***LCL** このローカル装置の表示装置記述に定義されたのと同じ文字セットを使用します。

注: リモート・キーボード・タイプ、リモート文字セット、およびリモート・コード・ページの組み合わせが無効であると、予期しない結果が生じます。

上

例

例1: TELNETクライアント・セッションの開始

```
STRTCPTELN RMTSYS(CHICAGO)
```

このコマンドは、リモート・システムCHICAGO上でのTELNETクライアント・セッションを開始します。TCP/IPによって現在使用されているリモート・ネーム・サーバーは、IPアドレスにCHICAGOという名前をマップします。

例2: IPv4インターネット・アドレスを使用したTELNETセッションの開始

```
STRTCPTELN RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('5.37.197.43')
```

このコマンドは、IPアドレス5.37.197.43を持つリモート・システム上でのTELNETクライアント・セッションを開始します。

例3: IPv6インターネット・アドレスを使用したTELNETセッションの開始

```
STRTCPTELN RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('2001:DB8::1234')
```

このコマンドは、IPアドレス2001:DB8:0:0:0:0:1234を持つリモート・システム上でのTELNETクライアント・セッションを開始します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPD87DC

&1はこの画面では正しいキーワードではない。

CPD87DD

16進数ストリングが正しくない。

CPD87DF

文字列が正しくない。

CPF87DA

TELNET制御機能の送信メニューからSTRTCPTELNコマンドを使用することはできない。

CPF87DB

パススルー環境でSTRTCPTELNを使用することはできない。

CPF87D1

キーボード言語タイプを判別することができない。

CPF87D2

パラメーター値&3が正しくない。

CPF87D3

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

CPF87D4

送信データが対応する入出力要求を超えた。

CPF87D5

選択したオプション&1が正しくない。

CPF87D6

選択したオプション&1が正しくない。

CPF87D7

仮想装置を自動的に選択することができない。

CPI87DE

リモート・システムから受信したデータが認識されない。

上

TCP/IP TELNET開始 (TELNET)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP TELNETの開始(STRTCPTELN)コマンドは、リモート・システムとのTELNET クライアント・セッションを開始するために使用されます。TELNETは1つのアプリケーション・プロトコルで、これによってある位置のユーザーは、リモート・システムの別のユーザーにアクセスすることができます。これは、リモート・システムにローカル接続されているかのように行われます。TELNETは、リモート・システムと接続するために伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)を使用します。このコマンドを使用するためには、その前にQSYSWRKサブシステムを開始しなければなりません。

TELNETクライアントの操作モードは次の通りです。

- 5250全画面モード
- 3270全画面モード
- VT220全画面モード
- VT100全画面モード。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR	必須, 定位置 1
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション
CTLCHAR	制御文字キー	文字値, '&'	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
KBDTYPE	キーボードの言語タイプ	<u>*LCL</u> , AGB, AGE, AGI, AGM, ALI, ALM, BGB, BGE, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAE, CAI, CAM, CLB, CLE, CSB, CSE, CYB, DMB, DME, DMI, DMM, ESB, FAB, FAE, FAI, FAM, FNB, FNE, FNI, FNM, FQB, FQI, GKB, GNB, GNE, HIB, HNB, HNE, ICB, ICE, ICI, ICM, INB, INI, IRB, ITB, ITE, ITI, ITM, JEB, JEI, JKB, JPB, JPE, JUB, KAB, KOB, LAB, LAE, LTB, LVB, MKB, MKE, NCB, NCE, NEB, NEE, NEI, NEM, NWB, NWE, NWI, NWM, PKB, PKE, PLB, PLE, PRB, PRE, PRI, PRM, RCB, RMB, RME, ROB, ROE, RUB, RUE, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SKE, SPB, SPE, SPI, SPM, SQB, SQE, SSB, SSE, SSI, SSM, SWB, SWE, SWI, SWM, TAB, THB, THE, TKB, TKE, TRB, TRE, UAB, UAE, UKB, UKE, UKI, UKM, USB, USE, USI, USM, VNB, VNE, YGI, YGM, *TRNTBL	オプションナル
PAGEUP	前ページ・キー	<u>*PA2</u> , *PA1, *PA3, *NONE, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *CLEAR, *ERASEINP, *CSRSLT	オプションナル
PAGEDOWN	次ページ・キー	<u>*PA1</u> , *PA2, *PA3, *NONE, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *CLEAR, *ERASEINP, *CSRSLT	オプションナル
CSRSLT	カーソル選択キー	<u>*NONE</u> , *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24	オプションナル
TBLVTOUT	発信EBCDIC/ASCIIテーブル	単一値: <u>*CCSID</u> , *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションナル
	修飾子 1: 発信EBCDIC/ASCII テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
TBLVTIN	受信ASCII/EBCDICテーブル	単一値: *CCSID, *DFT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受信ASCII/EBCDIC テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBL3270OUT	発信3270 マッピング・テー ブル	単一値: *KBDTYPE その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: 発信3270 マッピ ング・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBL3270IN	受信3270 マッピング・テー ブル	単一値: *KBDTYPE その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: 受信3270 マッピ ング・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INZWAIT	ホスト待ちタイムアウト	1-32767, 120, *NOMAX	オプション
NUMLCK	数字ロック・キーボード	*NO, *YES	オプション
NULLS	ヌルの処理	*BLANK, *REMOVE	オプション
TBLVTDRWO	ASCII全画面ドロワー・アウト	単一値: *DFT その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: ASCII全画面ドロ ワー・アウト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TBLVTDRWI	ASCII全画面ドロワー・イン	単一値: *DFT その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: ASCII全画面ドロ ワー・イン	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
VTOPT	ASCII全画面オプション	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り 返し): *LOCALECHO, *AUTOWRAP, *NEWLINE	オプション
DSPCHRATTR	文字属性の表示	*NO, *YES	オプション
PAGESCROLL	ASCIIページ・スクロール機能	*NO, *YES	オプション
ANSWERBACK	ASCII応答機能	文字値, *NONE	オプション
TABSTOP	ASCIIタブ停止	単一値: *DFT, *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り 返し): 0-133	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *MULTINAT, *BRITISH, *DUTCH, *FINNISH, *FRENCH, *FRENCHCAN, *GERMAN, *ITALIAN, *NORDAN, *SPANISH, *SWEDISH, *SWISS	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ASCOPRMOD	ASCII操作モードID	*VT220B7, *VT220B8, *VT100, *VT52	オプション
PORT	ポート	1-65534, *DFT	オプション
RMTVRTDSP	リモート仮想表示装置	名前, *DFT	オプション
RMTUSER	リモート・ユーザー	名前, *NONE, *CURRENT	オプション
RMPWD	リモート・パスワード	文字値, *NONE	オプション
RMPWDENC	リモート・パスワード暗号化	*DES7, *SHA1, *NONE	オプション
RMTINLPGM	リモート初期プログラム	名前, *RMTUSRPRF, *NONE	オプション
RMTINLMNU	リモート初期メニュー	名前, *RMTUSRPRF, *SIGNOFF	オプション
RMTCURLIB	リモート現行ライブラリー	名前, *RMTUSRPRF	オプション
RMTKBDTYPE	リモート・キーボード・タイプ	*RMTSYS, *LCL	オプション
RMTCODPAG	リモート・コード・ページ	*RMTSYS, *LCL	オプション
RMTCHRSET	リモート文字セット	*RMTSYS, *LCL	オプション

上

リモート・システム (RMTSYS)

リモート・システム名を指定します。名前は有効なもので、リモート・システムはTELNETサーバー・サポートを提供しなければなりません。ユーザーはIPアドレスに名前を割り当てることができます。TCP/IP構成メニュー(CFGTCPコマンド)のTCP/IPホスト・テーブル項目の処理オプションを使用してください。また、リモート・ネーム・サーバーは、IPアドレスにリモート・システム名をマップします。CFGTCPメニューのリモート・ネーム・サーバー変更オプションを使用して、リモート・ネーム・サーバーを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

*INTNETADR

リモート・システムは、IPアドレス (INTNETADR)パラメーターに指定された値によって識別されます。

文字値 TELNETが開始されるリモート・システム名を指定してください。

上

IPアドレス (INTNETADR)

TELNETを開始するリモート・システムのIPv4またはIPv6インターネット・アドレスを指定します。

IPv4インターネット・アドレスは、nnn.nnn.nnn.nnnの形式で指定します。ここで、nnnは0から255の範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分が、すべて2進数の1 または2進数のゼロの値である場合には無効です。

IPv6インターネット・アドレスは、x:x:x:x:x:x:xの形式で指定されます。ここで、xは0からX'FFFF'の範囲の16進数です。"::"は、1つ以上の16ビットのゼロのグループを示すために、IPv6アドレス内で1回使用される場合があります。"::"を使用してアドレス内の先行、組み込み、または後続のゼロを圧縮することができます。

IPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

注: リモート・システム (RMTSYS)パラメーターに*INTNETADRを指定する場合には、このパラメーターに値を指定する必要があります。

文字値 リモート・システムのIPアドレスを指定します。

上

制御文字キー (CTLCHAR)

ASCIIキーボードで制御(CTRL)キーを表現するために使用される文字を指定します。この文字が使用される時には、TELNETは、次の文字をリモート・システムに送られる制御文字として解釈します。たとえば、文字&Cは、ASCII制御文字のX '03'が送られることを示します。このパラメーターが有効となるのは、ASCII行モード、VT100全画面モード、VT220全画面モードの場合だけです。

& ASCIIキーボードで制御キーを表現するためにアンバーサンドが使用されます。

文字値 ASCIIキーボードで制御キーを表現する制御文字を指定してください。リモート・システムは、どの制御文字が有効であるかを判断します。しかし、TELNETによって使用されるASCIIマッピング・テーブルがリモート・システムに送られるASCII文字を決定します。

上

キーボードの言語タイプ (KBDDTYPE)

表示装置で使用されるキーボードのタイプを指定します。また、このパラメーターは、使用されるマッピング・テーブルも指定します。このパラメーターは、3270および5250の全画面モードで使用されます。ユーザーがVT100またはVT220全画面モードの時には、このパラメーターは無視されます。キーボード装置のタイプは、3桁の値で指定します。

***LCL** 装置はローカル表示装置です。キーボード・タイプは、表示装置記述から決定されます。

*TRNTBL

3270全画面モードでは、ユーザー定義のマッピング・テーブルが使用されます。文字変換は、受信**3270 マッピング・テーブル (TBL3270IN)**および発信**3270 マッピング・テーブル (TBL3270OUT)**パラメーターに指定されたマッピング・テーブルによって定義されます。KBDDTYPE(*TRNTBL)を指定する場合には、TBL3270INおよびTBL3270OUTパラメーターの両方も指定しなければなりません。KBDDTYPE(*TRNTBL) は、ローカル表示装置とリモート表示装置の両方で有効です。

表示装置キーボードID

TELNETに入る表示装置と関連した言語グループの3桁のキーボードIDを指定します。ユーザーがローカル3270表示装置のエミュレートを要求している時には、このIDは無視されます。

アルバニア

ALB

アルバニア各国間(ユーロ)

ALM

アラビア語X/BASIC

CLB

アラビア語(ユーロ)
CLE

オーストリア/ドイツ
AGB

オーストリア/ドイツ (ユーロ)
AGE

オーストリア/ドイツ各国間
AGI

オーストリア各国間 (ユーロ)
AGM

ベルギー各国間
BLI

ベルギー各国間 (ユーロ)
BLM

ブラジル・ポルトガル語
BRB

ブラジル・ポルトガル語 (ユーロ)
BRE

ブルガリア
BGB

ブルガリア各国間 (ユーロ)
BGE

カナダ・フランス語
CAB

カナダ・フランス語 (ユーロ)
CAM

カナダ・フランス語 (ユーロ)
CAE

カナダ・フランス語各国間
CAI

クロアチア
YGI

キリル CYB

チェコ共和国
CSB

チェコ共和国 (ユーロ)
CSE

デンマーク
DMB

デンマーク (ユーロ)
DME

デンマーク各国間
DMI

デンマーク各国間 (ユーロ)
DMM

エストニア
ESB

フィンランド/スウェーデン
FNB

フィンランド/スウェーデン (ユーロ)
FNE

フィンランド/スウェーデン各国間
FNI

フィンランド各国間 (ユーロ)
FNM

フランス(AZERTY)
FAB

フランス(AZERTY) (ユーロ)
FAE

フランス(AZERTY)各国間
FAI

フランス(AZERTY)各国間 (ユーロ)
FAM

フランス(QWERTY)
FQB

フランス(QWERTY)各国間
FQI

ギリシャ
GNB

ギリシャ(新) (ユーロ)
GNE

ギリシャ
GKB

ヘブライ語
NCB

ヘブライ語 (ユーロ)
NCE

ヒンディ語
HIB

ハンガリー
HNB

ハンガリー (ユーロ)
HNE

アイスランド
ICB

アイスランド (ユーロ)
ICE

アイスランド各国間
ICI

アイスランド各国間 (ユーロ)
ICM

国際 INB

国際各国間
INI

イラン(FARSI)
IRB

イタリア
ITB

イタリア (ユーロ)
ITE

イタリア各国間
ITI

イタリア各国間 (ユーロ)
ITM

日本 JPB

日本/英語
JPE

日本 (ユーロ)
JEB

日本/英語各国間
JEI

日本/漢字(PS/55*および5295表示装置)
JKB

日本米国英語基本
JUB

日本/カタカナ(5251, 5291, 5292, 3180カタカナ表示装置)
KAB

韓国 KOB

ラオス LAB

ラオ語 (ユーロ)
LAE

リトアニア
LTB

ラトビア
LVB

ラテン語2
ROB

ラテン語2 (ユーロ)
ROE

マケドニア
MKB

マケドニア (ユーロ)
MKE

オランダ
NEB

オランダ (ユーロ)
NEE

オランダ各国間
NEI

オランダ各国間 (ユーロ)
NEM

ノルウェー
NWB

ノルウェー (ユーロ)
NWE

ノルウェー各国間
NWI

ノルウェー各国間 (ユーロ)
NWM

ポーランド
PLB

ポーランド (ユーロ)
PLE

ポルトガル
PRB

ポルトガル (ユーロ)
PRE

ポルトガル各国間
PRI

ポルトガル各国間 (ユーロ)
PRM

ルーマニア
RMB

ルーマニア語 (ユーロ)
RME

ロシア/ウクライナ
RUB

ロシア各国間 (ユーロ)
RUE

セルビア (キリル)
SQB

セルビア各国間 (ユーロ)
SQE

セルビア (ラテン語)
YGI

中国語 (簡体字)
RCB

スロバキア
SKB

スロバキア (ユーロ)
SKE

スロベニア
YGI

スペイン
SPB

スペイン (ユーロ)
SPE

スペイン各国間
SPI

スペイン各国間 (ユーロ)
SPM

スペイン語圏
SSB

スペイン語圏 (ユーロ)
SSE

スペイン語圏各国間
SSI

スペイン語圏各国間 (ユーロ)
SSM

スウェーデン
SWB

スウェーデン (ユーロ)
SWE

スウェーデン各国間
SWI

スウェーデン各国間 (ユーロ)
SWM

スイス/フランス語各国間
SFI

スイス/フランス (ユーロ)
SFM

スイス/ドイツ (ユーロ)
SGM

スイス/ドイツ語各国間
SGI

タイ THB

タイ (ユーロ)
THE

中国語 (繁体字)
TAB

トルコ(QWERTY)
TKB

トルコ (旧) (ユーロ)
TKE

トルコ(F)
TRB

トルコ (新) (ユーロ)
TRE

ウクライナ
UAB

ウクライナ (ユーロ)
UAE

英国/英語
UKB

英国 (ユーロ)
UKE

英国各国間
UKI

英国各国間 (ユーロ)
UKM

米国/カナダ
USB

米国／カナダ（ユーロ）

USE

米国／カナダ各国間

USI

米国／カナダ各国間（ユーロ）

USM

ウルドゥー語

PKB

ウルドゥー語（ユーロ）

PKE

ベトナム

VNB

ベトナム（ユーロ）

VNE

クロアチア，セルビア（ラテン語），およびスロベニア

YGI

クロアチア，セルビア（ラテン語），およびスロベニア(EURO)

YGM

注：たとえば，KBDTYPE(USB)は，米国／カナダ基本文字セットを使用するキーボードを示します。

上

前ページ・キー (PAGEUP)

3270全画面表示装置をエミュレーションしている時に，5250キーボードの前ページ・キーに割り当てるキーを指定します。3270には前ページ・キーがないために，このパラメーターが有用です。したがって，5250表示装置のユーザーが3270表示装置をエミュレーションしている時に，3270キーボード・キーの1つをこれに割り当てることによって，前ページ・キーを利用することができます。このパラメーターが有効となるのは，ユーザーが5250表示装置からTELNETを使用する時の3270全画面モードの場合のみです。

***PA2** PA2キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***NONE**

前ページ・キーに割り当てられるキーはありません。

***F-KEY**

1つの機能キー(F1-F24)が前ページ・キーに割り当てられます。

***PA1** PA1キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***PA3** PA3キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***CLEAR**

消去キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***ERASEINP**

入力消去キーが前ページ・キーに割り当てられます。

***CSRSLT**

カーソル選択キーが前ページ・キーに割り当てられます。

上

次ページ・キー (PAGEDOWN)

3270全画面表示装置をエミュレーションしている時に、5250キーボードの次ページ・キーに割り当てるキーを指定します。3270には次ページ・キーがないために、このパラメーターが有用です。したがって、5250表示装置のユーザーが3270表示装置をエミュレーションしている時に、3270キーボード・キーの1つをこれに割り当てることによって、次ページ・キーを利用することができます。このパラメーターが有効となるのは、ユーザーが5250表示装置からTELNETを使用する時の3270全画面モードの場合のみです。

***PA1** PA1キーが次ページ・キーに割り当てられます。

***NONE**

次ページ・キーに割り当てられるキーはありません。

***F-KEY**

1つの機能キー(F1-F24)が次ページ・キーに割り当てられます。

***PA2** PA2キーが次ページ・キーに割り当てられます。

***PA3** PA3キーがPAGE DOWN (次ページ) キーに割り当てられます。

***CLEAR**

消去キーが次ページ・キーに割り当てられます。

***ERASEINP**

入力消去キーが次ページ・キーに割り当てられます。

***CSRSLT**

カーソル選択キーが次ページ・キーに割り当てられます。

上

カーソル選択キー (CSRSLT)

3270キーボードのカーソル選択キーをエミュレーションするために使用する5250キーボードのキーを指定します。このパラメーターが有効となるのは、ユーザーが5250表示装置からTELNETを使用する時の3270全画面モードの場合のみです。

***NONE**

カーソル選択キーにキーは割り当てられません。

***F-KEY**

1つの機能キー(F1-F24)がカーソル選択キーに割り当てられます。

上

発信EBCDIC/ASCIIテーブル (TBLVTOUT)

VT100またはVT220全画面モード、あるいはASCII行モードの場合に、すべての発信TELNETデータをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。すべての発信データはEBCDICからASCIIにマップされます。VT100およびVT220の制御文字列はマップされません。

リモート・システムは、標準ASCII文字セットまたはASCII特殊文字と線画文字セットが有効となっているかどうかを制御します。

テーブル・オブジェクトがこのパラメーターに指定された場合には、テーブル・オブジェクトは発信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して発信マッピングが判別されません。

単一値

***CCSID**

発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 発信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 発信EBCDIC/ASCIIテーブル

名前 発信TELNETデータのマッピングに使用されるテーブル・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

受信ASCII/EBCDICテーブル (TBLVTIN)

VT100またはVT220全画面モード、あるいはASCII行モードの場合に、すべての着信TELNETデータをマップするために使用されるテーブル・オブジェクトを指定します。すべての着信データはASCIIからEBCDICにマップされます。VT100およびVT220の制御文字列はマップされません。

リモート・システムは、標準ASCII文字セットまたはASCII特殊文字と線画文字セットが有効となっているかどうかを制御します。

テーブル・オブジェクトがこのパラメーターに指定された場合には、テーブル・オブジェクトは着信マッピングに使用されます。そうでない場合には、CCSIDパラメーターを使用して着信マッピングが判別されません。

単一値

***CCSID**

着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

***DFT** 着信マッピングを判別するために、CCSIDパラメーターが使用されます。

修飾子1: 受信ASCII/EBCDICテーブル

名前 着信TELNETデータのマッピングに使用されるテーブル・オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

発信3270 マッピング・テーブル (TBL3270OUT)

3270全画面モードの時に、リモート・システムに送信する文字の変換で使用される発信マッピング・テーブルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、3270 全画面モード・セッションの場合だけです。このパラメーターは、*TRNTBLがキーボードの言語タイプ (KBDTYPE)パラメーターに指定された場合だけ有効です。

単一値

***KBDTYPE**

変換は、KBDTYPEパラメーターに指定された言語のキーボード・タイプを使用して行われます。

修飾子1: 発信3270 マッピング・テーブル

名前 発信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

受信3270 マッピング・テーブル (TBL3270IN)

3270全画面モードの時に、リモート・システムから送信される文字の変換で使用される着信マッピング・テーブルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、3270 全画面モード・セッションの場合だけです。このパラメーターは、*TRNTBLがキーボードの言語タイプ (KBDTYPE)パラメーターに指定された場合だけ有効です。

単一値

***KBDTYPE**

変換は、KBDTYPEパラメーターに指定された言語のキーボード・タイプを使用して行われます。

修飾子1: 受信3270 マッピング・テーブル

名前 着信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

ホスト待ちタイムアウト (INZWAIT)

ローカル・システムがリモート・システムとの接続の確立を待機する時間を秒数で指定します。ユーザーが指定した時間内にリモート・システムとの接続が行なわれない場合には、TELNETセッションは終了し、接続を要求しているユーザーにメッセージが戻されます。

120 TELNETは、リモート・システムから最初の画面が表示されるのを120秒間待機します。

***NOMAX**

ローカル・システムがリモート・システムとの接続の確立を待機する時間に制限はありません。リモート・システムが活動中かどうか要求元で不確かな場合に、この値の指定は有効です。

I-32767

ローカル・システムがリモート・システムとの接続の確立を待機する時間を秒数で指定します。

上

数字ロック・キーボード (NUMLCK)

5250表示装置で数値入力フィールドに対して数字データだけを使用可能にするかどうかを指定します。このパラメーターは数字シフト・ロックを5250表示装置に自動的にセットするかどうかを指定し、これはリモート・システムから受信した数値入力フィールドで使用されます。このパラメーターが有効となるのは、データ入力キーボードのある5250表示装置からTELNETを使用している時の、3270全画面モードだけです。

***NO** キーボードが下段シフトにセットされている時に5250表示装置で数字入力フィールドが表示されません。

***YES** 数字シフトが上段の設定値にロックされて5250表示装置で数字入力フィールドが表示されます。数字シフト・ロックを下段の設定値にリセットするためには、ユーザーはキーボードでALPHAキーを使用することができます。タイプライター型キーボードで構成された5250表示装置ではNUMLCK(*YES)は有効ではありません。

上

ヌルの処理 (NULLS)

リモート・システムに送られる前に3270データ・ストリームのヌルがどのように処理されるかを指定します。このパラメーターが有効となるのは、3270全画面モード・セッションの場合だけです。

***BLANK**

先行および組み込みヌルがブランクに変更されます。

***REMOVE**

データ・ストリームから先行および挿入ヌルが除去されます。

上

ASCII全画面ドロウ・アウト (TBLVTDRWO)

VT100またはVT220全画面モードの時に、発信TELNETデータをマップするために使用される発信マッピング・テーブルを指定します。すべての発信データはEBCDICからASCII文字およびASCII線画文字セットにマップされます。VT100およびVT220の制御文字列はマップされません。リモート・システムは、標準ASCII文字セット（またはVT220モードでは国別言語文字セット）またはASCIIの特殊な文字セットが有効となるかどうかを制御します。このパラメーターに指定されたマッピング・テーブルは、特殊な線画文字セットが有効な場合に使用されます。

単一値

***DFT** 省略時のEBCDIC-ASCII特殊線画マッピング・テーブルが使用されます。

修飾子1: ASCII全画面ドロウ・アウト

名前 発信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

ASCII全画面ドロウ・イン (TBLVTDRWI)

VT100またはVT220全画面モードの時に、着信TELNETデータをマップするために使用される着信マッピング・テーブルを指定します。すべての着信データはEBCDICからASCII文字およびASCII線画文字セットにマップされます。VT100およびVT220の制御文字列はマップされません。リモート・システムは、標準ASCII文字セット（またはVT220モードでは国別言語文字セット）またはASCIIの特殊な文字セットが有効となるかどうかを制御します。このパラメーターに指定されたマッピング・テーブルは、特殊な線画文字セットが有効な場合に使用されます。

単一値

***DFT** 省略時のASCII-EBCDIC特殊線画マッピング・テーブルが使用されます。

修飾子1: ASCII全画面ドロワー・イン

名前 着信マッピング・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

上

ASCII全画面オプション (VTOPT)

セットアップ・オプションを指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220全画面モードの場合だけです。

単一値

***NONE**

使用可能なセットアップ・オプションは選択されません。

***ALL** 使用可能なすべてのセットアップ・オプションが選択されます。

他の値 (最大3反復)

***LOCALECHO**

ローカル・エコー・オプションが選択されます。このオプションによって、リモート・システムまたはローカル端末のいずれが入力された文字を表示するかを指定することができます。

***NEWLINE**

改行オプションが選択されます。このオプションによって、実行キーを押した時に、どの文字が伝送されるかを指定することができます。NEWLINEオプションがオフになっている時には、実行キーは復帰文字を転送します。NEWLINEオプションがオンになっている時には、実行キーは復帰文字とその後に行送りを転送します。

***AUTOWRAP**

自動折り返しオプションが選択されます。このオプションでは、カーソルが右マージンに達した時に次の文字が現れる場所を指定することができます。自動折り返しオプションがオンで、カーソルが行の最後の文字位置にあった時には、受け取られた次の文字は次の行の先頭に現れます。自動折り返しオプションがオフで、カーソルが行の最後の文字位置にあった時には、受け取られた次の文字はカーソル現在位置の文字に置き換わります。

上

文字属性の表示 (DSPCHRATTR)

文字属性を表示するかどうかを指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220全画面モードの場合だけです。拡張属性をサポートする表示装置(3477など)を使用している場合には、このパラメーターは適用されません。文字属性は、このような画面でデータを失わずに表示することができます。

***YES** 文字属性が表示されます。

***NO** 文字属性は表示されません。

上

ASCIIページ・スクロール機能 (PAGE_SCROLL)

このセッションでページングを使用するかどうかを指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220モードの場合だけです。

***NO** ページングは使用されません。データは、システムがリモート・システムから受信した時に、可能な限り速く表示されます。

***YES** ページングが使用されます。データは一度に1ページずつ表示され、データの次のページに移動するためには、次ページ・キーを押さなければなりません。

上

ASCII応答機能 (ANSWERBACK)

返答メッセージを指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220全画面モードの場合だけです。リモート・システムが問い合わせ(ENQ)文字を送信した時に、そのリモート・システムに送られる最大20桁の長さの識別メッセージを記憶することができます。

***NONE**

返答メッセージは指定されません。

文字値 最大20桁までの返答メッセージを指定してください。

上

ASCIIタブ停止 (TABSTOP)

タブ停止を入れる欄を指定します。このパラメーターを適用できるのは、VT100またはVT220全画面モードの場合だけです。最大10個のタブ停止を指定することができます。

単一値

***DFT** VT100またはVT220の省略時のタブ停止が使用されます。

***NONE**

タブ停止は指定されません。

他の値

0-133 タブ停止を入れる欄番号を指定してください。

コード化文字セットID (CCSID)

使用中のASCIIコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。このパラメーターは、VT100およびVT220全画面マッピングのSTRTCPTLNコマンドによって使用される省略時の値です。ASCII CCSID値は、ジョブのEBCDIC CCSIDと国別置き換え文字セットとの間で、あるいはCCSIDパラメーターで選択されるASCII CCSID値をマップするために使用されます。

マッピングは、TBLVTOOUTおよびTBLVTINパラメーターに定義されたマッピング・テーブルによって任意に実行することができます。TBLVTOOUTおよびTBLVTINパラメーターの省略時の値は*CCSIDで、これは、マッピングがCCSIDパラメーターによって判別されることを示します。

マッピング・テーブルが発信マッピングで使用される場合には、テーブル・オブジェクトをTBLVTOOUTパラメーターに指定することができます。TBLVTOOUTパラメーターのテーブル・オブジェクトがCCSID値の代わりに発信マッピングに使用されます。

着信マッピングは、TBLVTINパラメーターにテーブル・オブジェクトを指定することによって変更することができます。このマッピング・テーブルは、指定されたCCSID値を一時変更して、着信マッピングに使用されます。

国別置き換え文字セットのCCSIDパラメーターに使用できる特殊値は、DIGITAL EQUIPMENT CORPORATION (DEC)の標準文字セットです。ASCII - EBCDICおよびEBCDIC - ASCIIの必要なマッピングを識別するためには、数値のCCSID値を任意に使用することができます。数値のCCSID値を選択した場合には、それが現行システムで使用可能な有効なASCII CCSID値であることを確認するために妥当性検査されます。

***MULTINAT**

省略時の値は8ビットのDEC各国間変換テーブルで、これは7ビットの互換性のある標準ASCIIグラフィックス・セット(US)と、8ビットの互換性のあるDEC補足グラフィックス・セットから構成されています。

***BRITISH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、英国国別言語マッピングが初期設定されます。

***DUTCH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、オランダ語国別言語マッピングが初期設定されます。

***FINNISH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、フィンランド語国別言語マッピングが初期設定されます。

***FRENCH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、フランス語国別言語マッピングが初期設定されます。

***FRENCHCAN**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、カナダ・フランス語国別言語マッピングが初期設定されます。

***GERMAN**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、ドイツ語国別言語マッピングが初期設定されます。

***ITALIAN**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、イタリア語国別言語マッピングが初期設定されます。

***NORDAN**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、ノルウェー語／デンマーク語国別言語マッピングが初期設定されます。

***SPANISH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、スペイン語国別言語マッピングが初期設定されます。

***SWEDISH**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、スウェーデン語国別言語マッピングが初期設定されます。

***SWISS**

VT100またはVT220モードでネゴシエーションする時には、スイス国別言語マッピングが初期設定されます。

I-65533

使用するCCSID値を指定してください。有効なASCII CCSIDが要求されたことを確認するために、この値の妥当性検査が行われます。

上

ASCII操作モードID (ASCOPRMOD)

VT220全画面モードでネゴシエーションする場合には、TELNETクライアント・セッションで初期設定される操作モードを指定します。

***VT220B7**

省略時のモードはVT220 7ビットで、これは標準VT220 7ビットASCII通信を使用してすべてのエスケープ文字列を送信し、標準7ビット関数を受け取って実行することができます。

***VT220B8**

VT220-8ビット・モードは、8ビットASCII文字を使用してすべてのエスケープ文字列を送信し、標準8ビットANSI関数を受け取って実行することができます。

***VT100**

VT100モードは、標準VT100 7ビットASCII通信を使用してすべてのエスケープ文字列を送信し、標準7ビットANSI関数を受け取って実行することができます。

***VT52** VT52モードは、標準VT52 7ビットASCII通信を使用してすべてのエスケープ文字列を送信します。標準ANSI関数はサポートされていません。

上

ポート (PORT)

宛先サーバー・システム上でアプリケーションが待機している一部のポート（これがTELNET の定式ポート23以外の場合）を指定します。

***DFT** この省略時の値は、TELNETセッションの定式ポート23を使用します。

I-65534

使用するポート番号を指定してください。リモート・サーバー・アプリケーションがLISTENオンにしている特定のポートに注意する必要があります。そうしないと、指定されたポート(23以外)でリモート・ホストがオープンを試みを拒否する結果となる可能性があります。

上

リモート仮想表示装置 (RMTVRTDSP)

リモート・サーバー・システムで要求される固有の装置名を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された装置命名拡張をサポートする5250接続の場合だけです。

***DFT** 省略時の装置命名(QPADEVNNN)を使用する装置は、リモート・サーバー・システムで有効となっているシステム値に基づいて作成されます。

名前 使用する装置名を指定してください。この特定の名前を使用する装置がまだターゲットのリモート・システムで使用中でない場合には、それが作成され、このセッションに割り当てられます。

上

リモート・ユーザー (RMTUSER)

リモート・サーバー・システムへの自動サインオンのためのユーザー・プロファイルを指定します。このパラメーターにプロファイルが指定され、ターゲット・システムでパスワード機密保護が活動状態になっている場合には、リモート・パスワード(RMTPWD)パラメーターに*NONEは無効です。

OS/400 TELNETサーバーに接続しようとする場合には、QRMTSIGNシステム値を*SAMEPRFまたは*VERIFYに設定しなければなりません。TELNET の場合、TELNETサーバーはSTRTCPTELNコマンドに指定されたユーザー・プロファイル名だけを受け取るので、*SAMEPRFの設定は*VERIFY設定と同様に扱われます。このサーバーは、STRTCPTELNコマンドを使用するジョブのユーザー・プロファイル名を受け取らず、両方のシステムでプロファイルが同じになるように強制することはできません。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

***NONE**

ユーザー・プロファイルは送られず、自動サインオンは行われません。

***CURRENT**

STRTCPTELNコマンドを使用するジョブのユーザー・プロファイルが送られます。ターゲット・システムがそれを認めていて、そのユーザー・プロファイルがターゲット・システムに存在し、さらにリモート・パスワード(RMTPWD)パラメーターに指定されたパスワードがそのプロファイルに有効である場合には、ユーザーは自動的にサインオンされます。そうでない場合には、ユーザーにタ

ターゲット・システムのサインオン画面が表示されるか、ソース・システムに障害メッセージが表示されますが、そのどちらかであるかはターゲット・システムの構成によります。

名前 ターゲット・システム上で使用する（存在する）ユーザー・プロファイルの名前を指定します。ターゲット・システムがそれを認めていて、そのユーザー・プロファイルがターゲット・システムに存在し、さらにリモート・パスワード(RMTPWD)パラメーターに指定されたパスワードがそのプロファイルに有効である場合には、ユーザーは自動的にサインオンされます。そうでない場合には、ユーザーにターゲット・システムのサインオン画面が表示されるか、ソース・システムに障害メッセージが表示されますが、そのどちらかであるかはターゲット・システムの構成によります。プロファイルが指定され、ターゲット・システムでパスワード機密保護が活動状態である場合には、指定したプロファイルが現行プロファイルと同じであっても、パスワードを指定しなければなりません。

上

リモート・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送られるパスワードを指定します。

OS/400 TELNETサーバーに接続しようとする場合には、QRMTSIGNシステム値を*SAMEPRFまたは*VERIFYに設定しなければなりません。TELNET の場合、TELNETサーバーはSTRTCPTELNコマンドに指定されたユーザー・プロファイル名だけを受け取るので、*SAMEPRFの設定は*VERIFY設定と同様に扱われます。このサーバーは、STRTCPTELNコマンドを使用するジョブのユーザー・プロファイル名を受け取らず、両方のシステムでプロファイルが同じになるように強制することはできません。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合だけです。

*NONE

システムはパスワードを送りません。この値は、*NONEがリモート・ユーザー (RMTUSER)パラメーターに指定されている場合にのみ有効で、ターゲット・システム上で自動サインオンが実行されないことを示します。

文字値 RMTUSERパラメーターに指定されたユーザーのサインオンを検査するために、ターゲット・システムに送信されるパスワードを指定します。リモート・パスワード暗号化 (RMTPWDENC)パラメーターは、ターゲット・システムに送信される前にパスワードが暗号化されているかどうかを判断するために使用されます。RMTPWDENCパラメーターに*NONEを選択すると、ネットワーク上でパスワードが「明確な状態」で送信される結果となります。これにより、トレースは実際のパスワードを示す通信トレースのようなものになります。

上

リモート・パスワード暗号化 (RMTPWDENC)

リモート・システムに送られる前に、ターゲット・システムに送られるパスワードが暗号化されるかどうかを指定します。

このパラメーターが有効なのは、リモート・パスワード (RMTPWD)パラメーターが*NONE以外である場合だけです。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

リモート・システムがOS/400を実行中の場合には、このパラメーターは、リモート・システムのリリース・レベルおよびリモート・システムのシステム値QPWDLVLに基づいて設定する必要があります。

- リモート・システム上のOS/400がリリース・レベルV4R5またはそれ以前の場合には、*DES7を指定します。
- リモート・システム上のOS/400がリリース・レベルV5R1またはそれ以降で、QPWDLVLに'0'または'1'の値がある場合には、*DES7を指定します。
- リモート・システム上のOS/400がリリース・レベルV5R1またはそれ以降で、QPWDLVLに'2'または'3'の値がある場合には、*SHA1を指定します。

使用される暗号化アルゴリズムがリモート・システムで予期されるものと一致しない場合には、自動サインオンは失敗し、ユーザーにターゲット・システムのサインオン画面が表示されるか、ソース・システムに障害メッセージが表示されますが、そのどちらかであるかはターゲット・システムの構成によります。

暗号化されたパスワードを受け入れるOS/400 TELNETサーバーに接続しようとする場合には、このパラメーターに*DES7または*SHA1の値を使用するように強くお勧めします。*DES7または*SHA1を使用すると、確実にパスワードが通信トレースなどのトレースに現れることがなくなります。

***DES7** ターゲット・システムに送る前に、DES-7アルゴリズムを使用してパスワードを暗号化します。

***SHA1**

ターゲット・システムに送る前に、SHA-1アルゴリズムを使用してパスワードを暗号化します。

***NONE**

ターゲット・システムに送る前に、パスワードを暗号化しません。この値を選択すると、ネットワーク上でパスワードが「明確な状態」で送信される結果となります。これにより、トレースは実際のパスワード値を示す通信トレースのようなものになります。

上

リモート初期プログラム (RMTINLPGM)

リモート・ターゲット・システムに自動的にサインオンした直後に呼び出されるプログラムを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

***RMTUSRPRF**

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された初期プログラムが自動サインオンの直後に呼び出されます。

***NONE**

リモート・ユーザー・プロファイルに初期プログラムが指定されていても、初期メニューの表示前には、プログラムは実行されません。

名前 自動サインオンの直後に呼び出されるプログラムの名前を指定します。

上

リモート初期メニュー (RMTINLMNU)

初期プログラムが実行された後で、ターゲット・システムに自動的にサインオンする時に表示されるメニューを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

*RMTUSRPRF

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された初期メニューが、初期プログラムの実行後に即時に表示されます。

*SIGNOFF

リモート・ユーザー・プロファイルに初期メニューが指定されていても、初期プログラムの実行後には、メニューは表示されません。初期プログラムが終了した後で、ユーザーはサインオフされ、TELNETセッションが終了します。

名前 初期プログラムの実行直後に表示されるメニューの名前を指定します。

上

リモート現行ライブラリー (RMTCURLIB)

ジョブのライブラリー・リスト中で自動サインオンの後で現行ライブラリーとなるライブラリーの名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義された自動サインオン機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合のみです。

*RMTUSRPRF

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された現行ライブラリーが自動サインオンの後で現行ライブラリーとなります。

名前 ジョブのライブラリー・リスト中で自動サインオンの後で現行ライブラリーとなるライブラリーの名前を指定します。

上

リモート・キーボード・タイプ (RMTKBDTYPE)

リモート・サーバー・システム上で作成された表示装置で 사용되는キーボードのタイプを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義されたリモート・キーボード機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合だけです。

*RMTSYS

リモート・ターゲット・システムで定義された省略時のキーボード・タイプを使用します。

***LCL** このローカル装置の表示装置記述に定義されたのと同じキーボード・タイプを使用します。

注: リモート・キーボード・タイプ、リモート文字セット、およびリモート・コード・ページの組み合わせが無効であると、予期しない結果が生じます。

上

リモート・コード・ページ (RMTCODPAG)

リモート・サーバー・システム上で作成された表示装置のコード・ページを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義されたリモート・コード・ページ機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合だけです。

*RMTSYS

リモート・ターゲット・システムで定義された省略時のコード・ページを使用します。

*LCL このローカル装置の表示装置記述に定義されたのと同じコード・ページを使用します。

注: リモート・キーボード・タイプ、リモート文字セット、およびリモート・コード・ページの組み合わせが無効であると、予期しない結果が生じます。

上

リモート文字セット (RMTCHRSET)

リモート・サーバー・システム上で作成された表示装置で設定された文字セットを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TN5250E RFCに定義されたリモート文字セット機能拡張をサポートするサーバーへの5250接続の場合だけです。

*RMTSYS

リモート・ターゲット・システムで定義された省略時の文字セットを使用します。

*LCL このローカル装置の表示装置記述に定義されたのと同じ文字セットを使用します。

注: リモート・キーボード・タイプ、リモート文字セット、およびリモート・コード・ページの組み合わせが無効であると、予期しない結果が生じます。

上

例

例1: TELNETクライアント・セッションの開始

```
STRTCPTELN RMTSYS(CHICAGO)
```

このコマンドは、リモート・システムCHICAGO上でのTELNETクライアント・セッションを開始します。TCP/IPによって現在使用されているリモート・ネーム・サーバーは、IPアドレスにCHICAGOという名前をマップします。

例2: IPv4インターネット・アドレスを使用したTELNETセッションの開始

```
STRTCPTELN RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('5.37.197.43')
```

このコマンドは、IPアドレス5.37.197.43を持つリモート・システム上でのTELNETクライアント・セッションを開始します。

例3: IPv6インターネット・アドレスを使用したTELNETセッションの開始

```
STRTCPTELN RMTSYS(*INTNETADR) INTNETADR('2001:DB8::1234')
```


このコマンドは、IPアドレス**2001:DB8:0:0:0:0:1234**を持つリモート・システム上でのTELNETクライアント・セッションを開始します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPD87DC

&1はこの画面では正しいキーワードではない。

CPD87DD

16進数ストリングが正しくない。

CPD87DF

文字列が正しくない。

CPF87DA

TELNET制御機能の送信メニューからSTRTCPTELNコマンドを使用することはできない。

CPF87DB

パススルー環境でSTRTCPTELNを使用することはできない。

CPF87D1

キーボード言語タイプを判別することができない。

CPF87D2

パラメーター値&3が正しくない。

CPF87D3

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

CPF87D4

送信データが対応する入出力要求を超えた。

CPF87D5

選択したオプション&1が正しくない。

CPF87D6

選択したオプション&1が正しくない。

CPF87D7

仮想装置を自動的に選択することができない。

CPI87DE

リモート・システムから受信したデータが認識されない。

上

SMTPの名前の処理 (WRKNAMSMTP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SMTP名前処理(WRKNAMSMTP)コマンドは、SIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)ユーザーまたはシステムの名前を追加、保守、および除去します。これらの名前の使用目的は、SNADSユーザーIDおよびアドレスの対を、SMTPメール・アドレスと対応させるためのものです。

制約事項:

- システム別名を変更するため、または自身以外の個人別名を処理するためには、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TBLTYPE	処理するテーブル・タイプ	*SELECT, *SYSTEM, *PERSONAL	オプションル、定位置 1

[トップ](#)

処理するテーブル・タイプ (TBLTYPE)

処理するSMTP別名テーブルを指定します。

*SELECT

システムまたは個人のいずれかの別名テーブルを選択できる初期画面を表示します。

*SYSTEM

システム別名テーブルを処理できる初期画面を表示します。適切な権限のないユーザーは、印刷および表示だけに制限されます。適切な権限とは、機密保護管理者(*SECADM)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているということです。

*PERSONAL

適切な権限のあるユーザーの場合には、選択した個人別名テーブルの選択項目がある初期画面が表示されます。システム・ディレクトリーが表示されている場合には、ユーザーのユーザーIDおよびアドレスが自動的に示されています。システム・ディレクトリーが表示されていない場合には、ユーザーのユーザーIDおよびアドレス・フィールドはブランクとなります。

*SECADMか*ALLOBJのどちらかの特殊権限がない場合には、システム・ディレクトリーに項目がなければならず、ユーザー所有の個人別名テーブルの処理だけが許可されます。このパラメーターは自動的にユーザーの個人別名テーブルを表示します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (TCP/IP Connectivity Utilities for i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM TCP/IP Connectivity Utilities for i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan